



細木病院

院長挨拶	13
概 要	14
部署責任者一覧	17
医師一覧	18
職員数一覧	18
年次報告	19
診療部	19
看護部	27
医療技術部	39
事務部	46
健康管理センター	55
ほそぎ連携センター	56
在宅部	59
委員会	72
診療実績・業務実績統計	79
院内発表会	91
業績一覧	92
実習・研修生	101

～細木病院の平成30年度 年報発刊にあたって～

堀 見 忠 司



最近の激変する社会情勢の中で、すでに令和元年になっている細木病院の平成30年度の年報を発刊いたしました。

わが国は、世界に類を見ない少子高齢化・多死社会に突入しようとしています。それは、国民医療費が急速に膨張したために、その抑制対策として病床の削減や在宅医療など幾つかの施策を開始いたしました。

細木病院でも新たな取り組みが次々に行われています。中でも細木ユニティ病院との再統合を控え、各部署の各組織が再統合に向かって、確実な歩みを始めました。

細木病院において昨年度は、3名の初期臨床研修医が赴任してまいりました。彼らは、楽しく、元気に、明るく研修をしています。その彼らが、症例報告とはいえ、高知県医師会医学会にて口演発表をし、また高知県医師会医学雑誌に論文投稿をし、新たな細木病院の医学・医療の質の向上に大きな寄与をいたしました。

また新たな細木病院の概要的な変化や将来構想の策定をいたしました。すなわち新しい病院の理念のもとに、病院建物の増改築も含めた細木病院の将来構想を策定し、重大な将来ビジョンをもって、高知県の医療に貢献する医療機関として立ち位置を確定しようとしてきました。また重点的な課題として、人材および投資予算の確保のため、経営基盤の安定を図り、働きやすく、働きがいのある病院作りのために、職員意欲度・満足度の高い病院を目指し、さらに非常時の対応力強化を進めるなどこれからの細木病院を運営していこうと考えています。

このように少しずつ進化している細木病院における平成29年度（平成29年4月1日から平成30年3月31日まで）の概要と5つの各部（診療部、看護部、医療技術部、在宅医療部、事務部）の事業や経営そして業績さらに平成30年度の新たな目標への取り組みを踏まえて、今年もまた年報を発刊させていただきました。

全国の医療関係者の皆さまにご批判とご指導を仰ぎ、細木病院のさらなる進化の糧となりますように祈念して、なにとぞ、ご照覧賜り、ご意見をいただきたくお願い申し上げて、新しい年報発刊の病院長挨拶とさせていただきます。

令和元年6月25日



細木病院 本館



細木病院 救急入口



細木病院 南館



細木病院 新館

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あうん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

概要

1. 細木病院の理念

患者さんからも、地域からも、職員からも“この病院でよかった。”と心から思ってもらえる病院、そういう病院を目指します。

2. 細木病院の基本方針

- ・私達は、医療人としての良心に基づいて、責任と思いやりのある医療を行うよう努めます。
- ・私達は、常に研鑽にはげみ、質の良い医療を提供するよう努めます。
- ・私達は、患者さんの立場に立って、人としての尊厳・権利を尊重した医療を行うよう努めます。
- ・私達は、医療についての十分な説明を行い、医療を提供するものと受けるものとの信頼関係を深めるよう努めます。
- ・私達は、細心の注意を払い、安全な医療を行うよう努めます。
- ・私達は、療養環境を整備し、心地よい医療・介護が受けられるよう努めます。
- ・私達は、地域のニーズに応じた医療・介護を提供するよう努めます。
- ・私達は、へき地医療支援病院として、へき地医療支援に努めます。
- ・私達は、就業環境の改善を図り、明るく働き甲斐のある職場作りに努めます。
- ・私達は、経営・運営基盤を確立して効率的な医療を行い、病院の健全な発展に努めます。

患者さんの権利 5か条

当院を受診される患者さんには、基本的な人権意識に基づく、適切な医療を受ける権利があります。

またそのために私たち職員と患者さんが信頼関係を築き、共に努力していくことが大切と考えています。

- 1) 患者さんの人格を尊重し、思いやりのある丁寧な医療を受ける権利
- 2) 病気や診療に関する情報を、分かりやすく説明を受ける権利
- 3) 患者さんの意思に基づいて診療方法を選択し、同意、又は拒否する権利
- 4) プライバシーの保護と、記録等の秘密が第三者に開示されない権利
- 5) 当院の持つ機能の範囲内で、納得のゆく診療を受ける権利

3. 平成30年度 細木病院の目標と取り組み

1. 理念の浸透

昨年度制定した新理念に基づいた病院運営を継続し、新理念の浸透を図る。

『患者さんからも、地域からも、職員からも“こ

の病院でよかった。”と心から思ってもらえる病院を目指します。』

2. 経営基盤の安定

人材および投資予算を確保するため、経営基盤の安定を図る。

- ①年間病床稼働率の目標は、83.5%（1日当たり入院患者265人）とする。
- ②医療連携および医療・介護連携のさらなるレベルアップを図る。
- ③入院医療、外来医療に加え、在宅医療の推進を図る。
- ④平成30年度ダブル改訂の正しい理解と職種協働による施設基準の新規算定を目指す。
- ⑤給食などの新体制に移行する業務を円滑に開始する。
- ⑥委員会体制の見直しと強化を行う。
- ⑦東部のグループ一体化を進める。

3. 働きやすく、働きがいのある病院作り

引き続き、職員意欲度・満足度の高い病院を目指す。

- ①医師・看護師など各職種で必要な人材確保を行う。
- ②残業時間の削減に取り組む。
- ③臨床研修体制の充実を図る。
- ④本館・新館などの診療スペースの整備と拡充を図る。
- ⑤「学術集会in細木」の継続と学会発表の勧奨など、院内外の発表機会を設ける。
- ⑥職員の健康増進活動の支援と接遇向上活動を継続する。
- ⑦ストレスチェック度の改善を図る。
- ⑧医師の新・人事考課・給与制度の運用を開始する。
- ⑨職員満足度調査を実施する。
- ⑩夜間勤務の環境整備を進める。

4. IMAJIN（第Ⅱ期）活動の始動とHU再統合準備

IMAJIN（第Ⅱ期）活動を始動するとともに、平成31年4月のHU再統合が円滑に行えるよう、丁寧に確実な準備を行う。

- ① IMAJIN（第Ⅱ期＝実行期）活動の体制を整備し、始動する。
- ②そのため、グループ横断型の実行委員会活動を本格化する。
- ③HUの再統合については、HU再統合委員会および下部WGでの協議を継続する。

- ④細木ユニティ病院の円滑な電子カルテ導入を支援する。
- ⑤H Uの会議や委員会などの先行統合を検討するとともに、人事交流の機会を増やす。
- ⑥再統合の事務手続きを進める。

5. 非常時の対応力強化

非常時の対応力強化を進める。

- ①BCP（事業継続計画）を完成させ、非常時の体制整備を進める。
- ②アクシデントの減少に引き続き努力する。
- ③院内感染対策の取り組みを継続する。

4. 施設とその概要

1)		敷地面積(m ²)	建築延面積(m ²)
	本館	1,554.45	3,288.20
	新館	2,442.35	6,087.16
	南館	1,745.07	2,755.05
	管理棟	384.22	453.44
	事務棟	152.72	400.00
	実習棟	155.37	285.78
	合計	6,434.18	13,269.63

2) 施設の概要（各階の目的、機能別）

	南館	新館	本館
6 F			内視鏡センター 医療安全管理室 院内感染対策室 診療情報課 情報システム管理課
5 F		リハビリテーションセンター 理学療法室 作業療法室 言語療法室	健康管理センター
4 F		手術室 中央材料滅菌室 病理検査室 新館検査室 新館薬剤室	脳神経外科 耳鼻咽喉科 泌尿器科 緩和ケア科 栄養指導室 皮膚科・形成外科
3 F	ポピー病棟：緩和ケア(ホスピス)病棟／12床 南3病棟：障害者施設等一般病棟／30床	新3病棟：急性期一般病棟／60床 病児・病後児保育室「キューピットハウス」	放射線科 骨塩検査室 乳房撮影室 臨床心理室 誘発筋電図(MCV)室 X線TV室 エコー室 脳波室
2 F	南2病棟：医療療養病棟／49床 リハビリテーションセンター 医療相談室	新2病棟：地域包括ケア病棟／60床	内科 小児科 総合診療科 採血室 点滴室 臨床検査室 心電図室 エコー室 専門外来
1 F	南1病棟：医療療養病棟／52床 厨房	新1病棟：回復期リハビリテーション病棟／52床 臨床工学室	外科・整形外科 医事課 会計 総合案内 外来受付 薬剤室 救急処置室 MRI／CT室
B F		ほそぎ連携センター 病診連携室 患者サポート室 病床管理室 栄養管理室 厨房 高行記念講堂 会議室 レストラン 売店「レモン」	

5. 標榜科目

診療科目

総合診療科、内科、外科、整形外科、小児科、放射線科、呼吸器内科、消化器内科、循環器内科、糖尿病内科、内分泌内科、腎臓内科、消化器外科、神経小児科、肛門外科、小児整形外科、脳神経外科、泌尿器科、リウマチ科、化学療法・緩和ケア科、耳鼻咽喉科、リハビリテーション科、麻酔科、乳腺外科、血管外科、皮膚科・形成外科

専門外来

せき外来、甲状腺外来、小児こころの外来、補聴器外来、セカンドオピニオン外来、おしりの外来、

脊椎外来、痛み外来（ペインクリニック）

健康管理センター

全国健康保険協会管掌健康保険生活習慣病予防健診、人間ドック、事業主健診、特定健診、乳がん子宮がん検診

6. 施設基準

入院基本料等

新3病棟：急性期一般入院基本料5

小児入院医療管理料4

急性期看護補助体制加算25対1（5割以上）

新 2 病棟：地域包括ケア病棟入院料 2
看護職員配置加算
看護補助者配置加算
新 1 病棟：回復期リハビリテーション病棟入院料 3
休日リハビリテーション提供体制加算
南 3 病棟：障害者施設等入院基本料 10 対 1
南 2 病棟：療養病棟入院基本料 1
療養病棟療養環境加算 1
夜間看護加算
南 1 病棟：療養病棟入院基本料 2
療養病棟療養環境加算 2
ポピー病棟：緩和ケア病棟入院料 2

診療録管理体制加算 1
入退院支援加算 1（一般病棟・療養病棟）
地域連携診療計画加算
療養環境加算
データ提出加算 2・提出データ評価加算
救急医療管理加算
医療安全対策加算 1
医療安全対策地域連携加算 1
感染防止対策加算 1
感染防止対策地域連携加算
抗菌薬適正使用支援加算
後発医薬品使用知性加算 1
外来化学療法加算 1
検体検査管理加算（Ⅰ）（Ⅱ）
患者サポート体制充実加算
特殊疾患入院施設管理加算
重症者等療養環境特別加算
臨床研修病院入院診療加算（基幹型）
医師事務作業補助体制加算 1（30 対 1）
認知症ケア加算 2
無菌製剤処理料
小児科外来診療料
外来リハビリテーション診療料
薬剤管理指導料
開放型病院共同指導料
がん治療連携指導料
在宅患者訪問看護・指導料及び同一建物居住者訪問看護・指導料
医療機器安全管理料 1
麻酔管理料（Ⅰ）
高度難聴指導管理料
糖尿病合併症管理料
ニコチン依存症管理料
糖尿病透析予防指導管理料
がん患者指導管理料イ・ロ
がん性疼痛緩和指導管理料
乳がんセンチネルリンパ節加算 1 及びセンチネル

リンパ節生検（併用）
乳がんセンチネルリンパ節加算 2 及びセンチネルリンパ節生検（単独）
神経学的検査
時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト
補聴器適合検査
輸血管理料Ⅱ・輸血適正使用加算
CT 撮影及びMRI 撮影
乳房MRI 撮影加算
冠動脈CT 撮影加算
大腸CT 撮影加算
画像診断管理加算 2
胃瘻造設時嚥下機能評価加算
人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算
肝切除術
水頭症手術
母指化手術
内反足手術
胃瘻造設術
人工関節置換術
胆管悪性腫瘍手術
靦血的関節授動術
関節鏡下関節授動術
髄液シャント抜去術
腹腔鏡下胆嚢摘出術
腓骨体尾部腫瘍切除術
食道裂孔ヘルニア手術
肝門部胆管悪性腫瘍手術
脳動脈瘤頸部クリッピング
パセドウ甲状腺全摘（亜全摘）術（両葉）
ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
集団コミュニケーション療法料
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
夜間休日救急搬送医学管理料

7. 許可病床数

315床

新館	
新 1 病棟	52床（回復期リハビリテーション病棟）
新 2 病棟	60床（地域包括ケア病棟）
新 3 病棟	60床（急性期一般病棟）
南館	
南 1 病棟	52床（医療療養病棟）
南 2 病棟	49床（医療療養病棟）
南 3 病棟	30床（障害者病棟）
ポピー病棟	12床（緩和ケア病棟）

8. 臨床研修

基幹型臨床研修指定病院

部署責任者一覧

平成31年 3月31日現在

院長	堀 見 忠 司
名誉副院長	松 田 勇 蔵
名誉副院長	北 岡 和 雄
名誉副院長	小 林 誠
副院長	西 岡 達 矢
副院長	上 地 一 平
副院長	上 田 祐 二
診療部	
診療部長・総合診療科部長・ 糖尿病センター長	中 村 寿 宏
医局長・外科部長	尾 崎 信 三
糖尿病・内分泌内科部長(兼務)	西 岡 達 矢
消化器内科部長・内視鏡センター長	中 内 昌 仁
循環器内科部長	山 中 伸 悟
化学療法・緩和ケア科部長	安 藤 徹
血管外科部長	西 村 哲 也
リハビリ・整形外科部長	山 川 晴 吾
小児科部長	新 井 淳 一
神経小児科部長	細 川 卓 利
脳神経外科部長	栗 坂 昌 宏
耳鼻咽喉科部長	楯 敬 蔵
病理診断科部長	山 崎 義 一
放射線科部長	耕 崎 志 乃
麻酔科部長	畠 中 豊 人
麻酔科・ペインクリニック部長	細 川 滋 俊
看護部	
看護部長	豊 田 邦 江
副看護部長	廣 田 明 美
教育師長	岡 崎 千 佐 子
南1病棟看護師長	高 塚 深 雪
南2病棟看護師長	太 田 節
南3病棟看護師長	弘 田 美 貴
緩和ケア病棟看護師長	片 岡 健
新1病棟看護師長	渡 辺 真 智 子
新2病棟看護師長	大 原 敬 子
新3病棟看護師長	伊 賀 原 由 香
外来看護師長	片 岡 典 代
手術室看護師長	門 田 季 香
事務部	
事務部長	宮 地 耕 一 郎
事務部副部長	桐 生 剛
総務課長	文 野 正 史
医事課長	古 谷 英 理
用度課長	村 田 真
施設課長	真 鍋 誠
情報システム管理課長・ITシステム責任者	戸 田 英 也
診療情報課長	山 本 淑 恵
企画課長	門 田 紘 和

医療技術部	
医療技術部長・薬剤室顧問	田 中 照 夫
薬剤室長	小 松 めぐみ
放射線室長	小 松 剛
臨床検査室長	楠 瀬 恭 子
栄養管理室長	橋 本 由 佳
リハビリテーション課長	藤 本 弘 昭
リハビリテーション課長補佐	葛 岡 有 功
リハビリテーション課長補佐	田 村 智 恵 子
リハビリテーション在宅部係長	橋 田 寿 恵
リハビリテーション南館主任	井 上 富 子
作業療法室係長	横 山 美 咲
言語療法室係長	楠 瀬 さやか
臨床工学室 担当	森 勇 樹
臨床心理室(細木ユニティ病院 臨床心理室室長兼務)	野 瀬 一 央
在宅部	
在宅部長	廣 井 三 紀
在宅部課長	池 上 美 幸
在宅部教育係長	井 上 加 奈 子
訪問・通所担当係長 訪問看護ステーションほそぎ 兼務	石 本 智 枝
グループホーム担当係長 グループホームハッピー万々 兼務	堀 本 佐 知
通所リハビリテーションゆうゆう主任	下 元 由 実
ケアサポートセンターほそぎ主任	大 峯 郁 代
ホームヘルプステーション城西主任	横 山 数 恵
高知市北部地域高齢者支援センター城西出張所 担当	西 本 かがり
サービス付高齢者向け住宅イチゴいちえ主任	藤 崎 明 美
デイサービスいちご学校	笹 麻 子
デイサービス赤とんぼ主任	片 岡 美 女
デイサービスさくらんぼ主任	山 口 三 喜
グループホーム赤とんぼ主任	齋 藤 顕 良
グループホームさくらんぼ主任	小 原 純 子
グループホーム西町主任	筒 井 千 津 子
健康管理センター	
健康管理センター部長	森 下 延 真
健康管理センター主任	寺 尾 泰 造
ほそぎ連携センター	
ほそぎ連携センター長	西 岡 達 矢
患者サポート室長	辻 美 知 子
病診連携室長	柏 井 早 生 吏
病床管理室長	永 野 亜 希 子
医療安全管理・院内感染対策	
医療安全管理室長	上 田 祐 二
医療安全管理者	井 上 富 美
院内感染対策室長	山 中 伸 悟
院内感染対策管理者	土 居 世 知

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本 部

アドレス・高知

福寿園

積善会

医師一覧

平成31年 3月31日現在

総合診療科 内科	細木 秀美
	堀見 忠司
	松田 勇蔵
	小林 誠
	西岡 達矢
	上田 祐二
	中村 寿宏
	中内 昌仁
	山中 伸悟
	熊谷 千鶴
	丸山 博
	弘瀬 祥子
	高橋 佳伸
	品原 正幸
	篠原 雅幸
	猪狩 俊介
	古賀 仁
	松村 智子 (非常勤)
	瀬尾 宏美 (非常勤)
	寺田 典生 (非常勤)
	菅沼 成文 (非常勤)
	松村 敬久 (非常勤)
	耕崎 拓大 (非常勤)
廣瀬 享 (非常勤)	
西山 充 (非常勤)	
田口 崇文 (非常勤)	
中嶋 安曜 (非常勤)	
中山 正 (非常勤)	
外科	上地 一平
	安藤 徹
	尾崎 信三
脳神経外科	西村 哲也
	栗坂 昌宏
病理診断科	上羽 哲也 (非常勤)
	山崎 義一

整形外科	北岡 和雄
	山川 晴吾
	南場 寛文
	池内 昌彦 (非常勤)
	山中 陳靖 (非常勤)
	喜安 克仁 (非常勤)
	泉 仁 (非常勤)
	武政 龍一 (非常勤)
小児科	新井 淳一
	細川 卓利
	堂野 純孝
	中岡 祐子
	島崎 真弓 (非常勤)
	藤枝 幹也 (非常勤)
	玉城 涉 (非常勤)
	富田 秀春 (非常勤)
	齊藤 晃士 (非常勤)
	濱田 朋弥 (非常勤)
耳鼻咽喉科	楯 敬蔵
	耕崎 志乃
放射線科	西森 美貴 (非常勤)
	南口 博紀 (非常勤)
	梶原 賢司 (非常勤)
麻酔科	畠中 豊人
	細川 滋俊
	植田 啄佐 (非常勤)
健康管理センター	阿部 秀宏 (非常勤)
	森下 延真
皮膚科・形成外科	濱脇 弘暉 (非常勤)
	野田 理香 (非常勤)
泌尿器科	蘆田 真吾 (非常勤)
	坪井 一朗 (非常勤)
	山本 志雄 (非常勤)
研修医	小林 修
	藤原 維斗彦
	加藤 亜里紗
	長澤 隆暁
丸岡 日向子	

職員数一覧

平成31年 3月31日現在

医師	43
看護師	178
准看護師	32
看護補助者（ヘルパー）	71
介護福祉士	98
薬剤師	11
診療放射線技師	8
臨床検査技師	14
臨床工学技士	1
理学療法士	50
作業療法士	27
言語聴覚士	18
社会福祉士	10

臨床心理士	1
介護支援専門員	10
管理栄養士	7
栄養士	8
調理師・調理員	27
診療情報管理士	3
事務員	65
技能員	40
健康運動指導士	2
理学療法助手	6
マッサージ師	2
案内・交換	6
計	738

診療部



平成30年度 症例検討会

開催日	演題・内容	発表者
4月25日(水)	重症喘息と標準治療について	呼吸器内科 小林 誠
5月23日(水)	小児の肥満と体重コントロール	小児科 新井 淳一
6月27日(水)	アレルギー性鼻炎の舌下免疫療法について	耳鼻咽喉科 楯 敬蔵
7月25日(水)	リドカイン持続投与により疼痛が軽減された2例	外科 安藤 徹
8月22日(水)	急性HIV感染症の一例	内科 丸山 博
9月26日(水)	骨粗鬆症患者に対するソレドロン酸と活性化型Vit-D併用療法～有効性と安全性に関する検討～	整形外科 南場 寛文
10月24日(水)	内視鏡画像を見てわかること、わからないこと	消化器内科 上田 祐二
11月28日(水)	造影剤の安全性に関する最近の話題	放射線科 耕崎 志乃
12月26日(水)	症候性および無症候性くも膜嚢腫	脳神経外科 栗坂 昌宏
1月23日(水)	閉塞性動脈硬化症の診断・治療	血管外科 西村 哲也
2月27日(水)	術前化学療法が有効であった局所進行性乳がん5症例	病理診断科 山崎 義一
3月28日(木)	麻酔科の側面～手術・危機的出血・輸血そして～	麻酔科 富中 豊人

総合診療科

総合診療科の挨拶

19番目の専門医として登場した「総合診療科」は徐々に浸透していますが、まだまだ十分とはいえません。国内の多くの総合診療科医はいまだに一般内科医との区別がつかず、総合診療医とはどんな患者を受けるか困惑しています。その答えを簡単にいえば、内科系でも外科系のすべての疾病に対応し、軽重のトリアージをして、対応できる場合は対応し、対応できない場合は他の専門医に紹介する医師であるといえます。

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 総合診療科はまさに、各診療部の間（はざま）の診療科といえます。例えば、救急のトリアージや診療科が不明な患者を診て、患者分配することが活動の第一です。
2. 当院の急患を受け入れが最近、急速に増加してい

るのは、総合診療科のおかげといっても過言ではありません。

②今後の課題

1. 外科や内科系の枠を超えて全ての患者を診て、診断をください。
2. へき地医療に携わる。
3. 初期臨床研修医の面倒をみる。

③常勤医師の氏名

堀見 忠司
中村 寿宏
細川 滋俊
丸山 博

(文責：院長 堀見 忠司)

呼吸器内科

①活動内容・目標に対する達成状況

- ・外来診療（咳外来を含む）
- ・入院診療
- ・気管支鏡検査：0件
- ・喘息と慢性閉塞性肺疾患（COPD）吸入手技の指導についての医薬連携
- ・高知喘息研究会、高知感染症研究会、高知COPD研究会、高知びまん性肺疾患研究会、高知呼吸不全研究会、高知胸部疾患研究会などの世話人

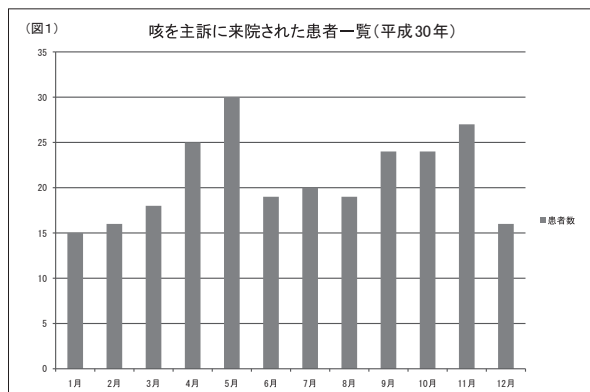
②今後の課題

若手呼吸器内科医師の招聘への努力を行う。
 高次医療機関との病病連携強化の推進する（呼吸器内科医師の移動に伴う）。
 さらなるコメディカル・周辺薬局との連携を進める。

③まとめ

令和元年（2019）度より新呼吸器専門医制度への移行に伴い、当院は高知大学医学部附属病院を基幹施設とする高知大学医学部附属病院呼吸器専門医研修プログラムに参加することになり、高知大学附属病院第3内科に当院の連携施設登録の申請をお願いしている。
 外来では咳が長引く訴えの患者さんが多く、可能な限り対応を行っています。その中でも患者数の多い咳喘息の診療に、当院では呼気一酸化窒素（FeNO）測定装置を平成26年にいち早く導入し実績を積んでいます。昨年度のせき外来の実績を示します（図1）。咳を訴えて来院される患者さんは春と秋が多いことが分かります。そのほか例年通り外来・入院ともに細菌性

肺炎、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患（COPD）、間質性肺炎の患者さんが中心でした。引き続き喘息とCOPDの患者さんについて、各種吸入デバイスの吸入手技の指導に関して院内薬局と周辺の院外薬局の薬剤師さんと、勉強会・協議の場を持ち、今後も継続的に周辺薬局との医薬連携を深めていきたいと思っています。



④常勤医師の氏名

森下 延真
 弘瀬 祥子
 小林 誠

⑤非常勤医師

中山 正

（文責：名誉副院長 小林 誠）

消化器内科

①活動内容・目標に対する達成状況

消化器内科は、食道、胃、大腸などの消化管、および肝臓、膵臓、胆道系疾患などの消化器疾患を中心に診療を行っており、消化器癌患者に対する外来化学療法も高知大学第一内科からの紹介患者を中心に、症例数が増加していると思われる。

当院内視鏡センターでは、上部（経口・経鼻）、下部消化管内視鏡検査および消化管内視鏡手術も例年どおり施行しており、検査数も次第に増加してきている。また、内視鏡的逆行性胆管膵管造影およびその関連手術の件数も増加傾向にあると思われる。

②今後の課題

平成30年度は常勤医3名および非常勤医2名の体制で始まり、6月から常勤医1名増となった。今後も内

視鏡診断、消化器内科診療体制を充実させ、さらに発展させていきたい。

今後も、安全かつ正確な診断を行う上で、当院内視鏡センターで平成26年4月より導入された大腸拡大内視鏡に加え、平成27年3月から導入された新型内視鏡システムおよび、ルーチン検査に使用しやすく改良された新型経口拡大内視鏡の積極的な活用も必要であると思われる。

③常勤医師の氏名

中内 昌仁
 上田 祐二
 高橋 佳伸
 古賀 仁

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院第一内科より
耕崎 拓大

廣瀬 享

(文責：消化器内科部長 中内 昌仁)

● 循環器内科

1 活動目標に対する達成状況

循環器内科部長が平成31年4月1日より細木信吾に交代となった。交代から間もないため活動目標を現在設定中であるため、現状と今後の目標について記載する。

当科は、虚血性心疾患、心不全、不整脈、大動脈疾患、末梢動脈疾患、深部静脈血栓症／肺塞栓症などの循環器疾患の外来・入院診療を担当している。運動負荷心電図、心エコー、360列CTを用いた心臓CTなどに迅速に対応している。

地域での心不全、虚血性心疾患、不整脈などを有する循環器疾患患者の連携を密にとるため、高知県・高知市内の医療施設を訪問し、循環器診療ネットワークの構築を目指す。2カ月で約20施設を訪問した。侵襲的治療としては、恒久的ペースメーカー移植術を行っている。

2 今後の課題

低侵襲な心臓カテーテル検査・治療、心臓リハビリテーションのための設備がなかった。令和2年度にはライブ環境を有したアンギオ室2部屋、外来機能、心臓リハビリテーション機能を有するハートセンターが

稼働予定である。

また、恒久的ペースメーカー移植術後の遠隔モニタリングを広く導入する予定である。

さらに、心不全再入院率が高いことが大きな問題となっている。再入院予防のための外来心不全管理を心不全チームとして行う予定である。

これらの循環器診療のためには、さらなるマンパワーが必要であるため循環器内科スタッフ増員を目指す。

3 常勤医氏名

細木 信吾 (ハートセンター長、循環器内科部長)

4 非常勤医氏名

瀬尾 宏美 (高知大学教授)
松村 敬久 (高知大学教授)
中嶋 安曜 (高知大学)
松村 智子

(文責：ハートセンター長、循環器内科部長

細木 信吾)
(2019年4月1日就任)

● 糖尿病・内分泌内科

1 活動内容・目標に対する達成状況

糖尿病については、昨年度までと変わりなく通常の外来での糖尿病診療と、月曜日午後15時にコメディカルの協力のもとに行っているチーム医療外来および糖尿病教育入院を中心とした入院診療が中心であり、これに年1回の糖尿病セミナー、年2回の糖尿病ウォーキングを当院独自のものとして継続している(雨天の場合には、病院地下講堂での体操、講義などで対応している)。糖尿病教育入院では、2週間コースと1週間コースで行っており、平成30年度は各々のコース8名と4名であった。最近は参加者が少ないが、外来患者さんのための「糖尿病教室」も準備している。

内分泌疾患診療については、他院からの紹介をはじめとする多くの甲状腺疾患の患者さんが受診されており、穿刺吸引細胞診検査もコンスタントに行っている。少ない数ではあるが、下垂体、副腎疾患も紹介いただいている。

2 今後の課題

糖尿病患者さんの数は変わらずに増加しており、当院受診患者さんも増加の一途である。特に高齢患者さんが増えてきており、より安全な診療を心掛けていきたいと考えている。

3 常勤医師の氏名

西岡 達矢
中村 寿宏
熊谷 千鶴
丸山 博
品原 正幸 (平成30年4月着任)
篠原 雅幸

4 非常勤医師の氏名

高知大学医学部附属病院第二内科より
西山 充
田口 崇文

(文責：糖尿病・内分泌内科部長 西岡 達矢)

● 小児科

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 小児科一般診療（外来、入院）、神経、発達、内分泌、糖尿病などの専門診療
2. 健診（1歳6カ月、学校・園の定期健診）、各種予防接種
3. 初期研修医、学生実習教育、各種学会・研究会
4. 平日夜間、休日のおんしんセンター勤務
5. 小児1型糖尿病サマーキャンプ、プラダウウィーリー症候群親子キャンプ

私立の病院では唯一の入院治療が可能な病院であり、病状説明、治療内容ともに患者（患者家族）の満足度を維持できる診療を行う。

②今後の課題

1. 外来診療の現場も改良され、外来数は安定しており、診療体制の維持が必要。
2. 診療上のトラブルは最小限に維持すること。
3. 将来的には医師の高齢化に対応すること。

③まとめ

数年後を見据えて、将来性に期待ができる小児科外来、小児科病棟にすることを目標に、今できること、すべきことを一つずつ行っていく。

④常勤医師の氏名

細川 卓利
堂野 純孝
中岡 祐子
新井 淳一

⑤非常勤医師の氏名

島崎 真弓
富田 秀春
藤枝 幹也
玉城 涉
大学病院医師

（文責：小児科部長 新井 淳一）

● 外科

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 当院のオープンシステムを利用して伊藤乳腺クリニックの安藝先生が乳がん手術、福田心臓・消化器内科の藤島先生が甲状腺手術を当院で行うようになってから、乳がん・甲状腺腫瘍の手術症例数が増加し、平成30年度は全手術の半数を占めている。
2. 西村先生が就任され、外来・入院患者さんの数が増加した。また、下肢血管エコー検査が著増し、新たに血管外科の手術症例が加わった。
3. 腹腔鏡下胆嚢摘出術、成人鼠径ヘルニア手術の数が減った。
4. 外来化学療法室の部屋が狭く、患者さんを受け入れられない。

②今後の課題

1. 医療センター、大学病院、日赤、近森病院から外科

の術後患者さんだけでなく、泌尿器科や形成外科の術後患者さんも積極的に受け入れていきたい。
2. 痔核の硬化療法症例を徐々に増やしていきたい。
3. 化学療法室を充実させて、外来化学療法患者さんを増やしたい。

③常勤医師の氏名

尾崎 信三
上地 一平
西村 哲也
堀見 忠司

④非常勤医師の氏名

高知大学病院 外科（一） 花崎 和弘
坂本 浩一

（文責：副院長 上地 一平）

● 化学療法・緩和ケア科

①活動内容

平成19年1月より、治療不能がん患者の全人的苦痛の治療のために、緩和ケア外来が外科の一部として開設されたが、平成22年4月からは化学療法・緩和ケア

科の新設に伴い独立した診療科として活動している。

専任の担当医は一人ではあるが、緊急時などには外科スタッフの協力を得ながら診療を行っている。

治療不能のがんに対して、苦痛緩和だけではなく化

学療法から緩和ケアへの途切れのない医療の提供を目的としており、患者の希望に応じて抗がん治療も行っている。

平成30年度の入院・通院を合わせた化学療法・緩和ケア診療の問い合わせは175件（院外156件、院内19件）で、院外からの問い合わせのうち入院の相談が80件であった。実際に外来受診されたのは106名であり、新しく通院加療を開始された方は43名だった。緩和ケア専門病棟であるポピー病棟に入院された方は、院内紹介と院外紹介を合わせて117名であった。これは去年度と比べて増加している。

外来診療は火・木・金の午前中に予約制で行っているが、初診の入院・通院相談に対する面談に関しては曜日を選ばず随時行っている。

入院治療は主にポピー病棟で行っているが、ポピー病棟のみでは入院を希望する患者すべてには十分に対応できないため、至急の入院治療が必要となった場合は一般病棟に入院しての緩和ケア診療も行っている。

②今後の課題

高知県は他県に比べて対人口比の緩和ケア病床数が多く、どの施設で終末期医療を受けるかは患者側が選択できる状況にある。その中で今後も存続していくためには、一般的な診療や看護ケアに加えて他施設との差別化を図れる患者サービスの充実が必要となる。病棟スタッフ有志で行っているアロママッサージやリハビリスタッフの厚志によるリハビリなどがそれにあたるが、現在は個人のボランティアに頼っているに過ぎない。今後は組織としての患者サービスの拡充に期待したい。

③常勤医師

安藤 徹（化学療法・緩和ケア科部長）

（文責：化学療法・緩和ケア科部長 安藤 徹）

● 脳神経外科

①活動内容

平成22年5月1日より、栗坂が常勤医として着任し、外来および入院診療を開始して8年が経過した。

外来は、頭痛、めまい、耳鳴症、てんかん、正常圧水頭症、認知症、頭部外傷、三叉神経痛、顔面痙攣、脳腫瘍、未破裂脳動脈瘤、脳卒中後遺症、高血圧症などが多く、小児から高齢者まで幅広く診療している。

入院は脳卒中患者さん、脳腫瘍、脳動脈瘤、三叉神経痛、顔面痙攣、慢性硬膜下血腫、水頭症患者さんなど多彩になってきている。最近ではMajor surgeryが激減し手術件数も全体的に減少している。ほとんどの手術患者さんを大学病院に紹介しているせいである。もう少しスタッフが揃い診療体制が整ってくれば当院での手術件数も増加させることができる。かつての多発性の未破裂脳動脈瘤や下垂体腺腫の手術、小脳橋角三叉神経痛、顔面痙攣の手術、V-Pシャント、V-Aシャント術も行える環境は不完全ながら整っている。救急外来があり、総合診療科があり、麻酔科医が常勤しながら、救急外来での脳卒中患者がごとごとく他院へ転送されていることにも要因がありそうだ。検査では、MRI、3D-MRA、MD-CTAのほか海馬の容積を測定するVSRADが主体となっており、いまだDSAを行う機器がないため、脳血管撮影は行えていない。

②今後の課題

救急病院として再スタートを切り4年が経ち、常勤麻酔医も着任して、頭部外傷や脳内出血、くも膜下出血などの緊急手術が可能となってはいるが、スタッフの関係で緊急のmajor surgeryはできていない。大

学の脳神経外科も7年が経過し、スタッフも増え13名が常駐する医局になっている。症例数も増加し、日々躍進が期待されている。入局者も増え女医も加わり明るい展望が現実となっている。昨年から、脳腫瘍や脳動脈瘤などのmajor surgeryがほとんど大学送りとなり、全体的にも薬物療法が優先され、手術件数が減少している。

手術に際しては大学から手伝いに来てくれるが、V-Pシャント術は当院外科の先生と行うことが多くなっている。当院に脳外科の当直医がいないため、緊急手術を含め入院患者も少ない。適応患者がいても他院送りとなっており、脳梗塞でさえ他院送りになっている。手術のみならず入院患者についても見通しが立っていない。上羽教授が非常勤医師として脳神経外科外来の診療の一端を担ってくれている。しかし若いスタッフが加わらなければさらなる発展は期待できない。今年は慢性硬膜下血腫や正常圧水頭症に対するV-Pシャントなどの緊急手術も常勤麻酔医の着任によるところが大きい。来年度には、私も後記高齢者の仲間入りをする。今後は更に脳腫瘍患者や脳動脈瘤患者を増やしたいと考えているが、検診センターに脳ドックがないので多くを見落とししている可能性がある。今後は脳ドックの開設に向けて、大学の協力のもとスタッフを確保し増員したい。

③まとめ

これからも今まで通り、先天奇形から悪性脳腫瘍の修学的治療まで幅広い治療を展開するが、緊急手術を含む脳神経外科手術は減少の一途をたどっており、入院患者の増加をもくろむにつけても新しい若いスタッ

フの着任が待たれる。

4 常勤医師

栗坂 昌宏

5 非常勤医師

高知大学脳神経外科

上羽 哲也

(文責：脳神経外科部長 栗坂 昌宏)

● 整形外科

1 活動内容・目標に対する達成状況

常勤医3人体制には変化なし。非常勤医師は前年度より継続して外来診療および手術に貢献していただいている。手術件数および診療実数には大きな変化なし。

南場 寛文

2 今後の課題

常勤医の高齢化に伴う診療への影響の最小化、および常勤医の確保。

4 非常勤医師の氏名

高知大学整形外科

池内 昌彦

武政 龍一

喜安 克仁

泉 仁

山中外科整形外科

山中 陳靖

3 常勤医師の氏名

北岡 和雄

山川 晴吾

(文責：リハビリ・整形外科部長 山川 晴吾)

● 耳鼻咽喉科

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 外来患者数：
耳鼻咽喉科特有の疾患時期には増える傾向は同じです。
花粉がたくさん飛ぶと急増しています。黄砂やPM2.5の影響も強い印象です。
2. 入院患者数：
自科での患者数に関しては例年通りです。
・合併症を伴った末梢神経障害の患者さん
・摂食障害・高熱などの急性咽喉頭炎患者さん

嚥下機能検査は定期的に行われていました。

2 今後の課題

1. 外来患者数の通年を通しての充実。
2. 入院患者さんで、飲み込みや、耳垢で困っている方がいましたら紹介をお願いします。

3 常勤医師の氏名

楯 敬蔵

(文責：耳鼻咽喉科部長 楯 敬蔵)

● 放射線科

1 活動内容・目標に対する達成状況

1. 全CT、MRI検査に対する読影二次加算の取得達成（常勤放射線科医の読影率83.6%）。
総件数CT+MRI 6,267件(平成29年度より51件減)読影率 100%
他施設紹介件数 1,039件(平成29年度より3件減)他施設紹介率 11.7%(4.8%減)
単純写真読影依頼 420件(外注一般撮影読影依頼68件を含む)
2. 自己研鑽・自己啓発として、最低でも年に1回以上、全国区での学会発表を目指しており、平成30年度は第43回日本医学放射線学会秋季臨床大会で「インスリンボールの二例」を発表した。

3. 研修医・若手医師の教育・指導として毎月第1・第3月曜日に画像カンファレンスを開催した。平成30年度は33症例の提示を行った。
4. 放射線画像診断専門医、核医学専門医、PET認定医、がん治療認定医、放射線診断指導医の維持・更新。平成30年度は放射線診断専門医指導医の資格を更新した。

2 今後の課題

1. 全CT、MRI検査に対する読影二次加算の取得維持。
2. 自己研鑽・自己啓発として、学会や研究会に積極的に参加し、年に1回以上の全国区での学会発表

を目指す。

3. 研修医・若手医師、学生の教育・指導。
4. 平成31（令和元）年度は放射線画像診断専門医とがん治療認定医の資格更新を控えている。今後の核医学専門医、PET認定医の維持・更新のためには、これまで通り核医学検査への従事と核医学会春季大会と核医学秋季学術総会への参加が必要。
5. 核医学専門医維持には一定量の核医学検査従事が必要である。当院に核医学検査がないため、毎週火曜日は高知大学PETセンターに研修に出掛けしており、不在としている。平成29年4月から高知大放射線科から放射線科医2名が火曜日に非常勤で派遣されており、大変助かっている。しかし、非常勤医の読影確定を加えると常勤医の読影が80%を切る月が年数出てきており、読影加算2の請求が困難となってきた。非常勤医の読影を最終仮確定にさせていただき、一両日中に常勤医が最終確定を行うことで読影加算2の維持を保つこと

にした。

6. 常勤医1人で読影加算2を請求しているため、過重労働に対する働き方改革を迫られている。平成31年度4月から大学から派遣医師1名増員予定である。

③常勤医師の氏名

耕崎 志乃

④非常勤医師の氏名

南口 博紀

高知大学医学部放射線科より毎週火曜午前派遣
梶原 賢司

高知大学医学部放射線科より毎週火曜午後派遣
西森 美貴

高知大学医学部放射線科より月1回土曜日派遣

（文責：放射線科部長 耕崎 志乃）

● 皮膚科・形成外科

①活動内容・目標に対する達成状況

平成30年4月皮膚科・形成外科を開設いただいた。

非常勤医師1名で、外来としては足、爪白癬、尋常性ざ瘡、湿疹・皮膚炎群全般（脂漏性皮膚炎、アトピー性皮膚炎、蕁麻疹など）、疣贅、脂漏性角化症などの治療のほか、鶏眼、巻き爪、開帳足などの足病変に必要ながあれば足底板の作成を指導している。

手術しては色素性母斑、アテロームなどの良性腫瘍が多いが、局所皮弁で再建できる皮膚悪性腫瘍も数例ではあるが行っている。

また、入院患者さまやユニティ病院、関連施設などから脂漏性皮膚炎、薬疹、褥瘡など多数の患者さまをご紹介いただいた。

②今後の課題

新規開設してまだ1年で病院のシステムに不慣れな部分も多く、患者さまをお待たせする時間も多かったと思われる。

時間短縮を図るため説明資料の作成やできれば栄養士さんと協力して管理料をとれる形での栄養指導を行っていきたいと思う。

③非常勤医師の氏名

野田 理香

（文責：非常勤医 野田 理香）

● 麻酔科

①活動内容・目標に対する達成状況

1. 手術室における麻酔業務

全身麻酔（吸入麻酔）	142件
全身麻酔（完全静脈麻酔＜T I V A＞）	1件
全身麻酔（吸入）＋硬脊伝麻	160件
全身麻酔（T I V A）＋硬脊伝麻	20件
硬膜外麻酔	1件
脊髄くも膜下麻酔	6件
脊麻＋硬麻	0件
伝達麻酔	0件
その他	2件
計	332件

2. 目標 平成29年度の麻酔科管理症例数 386件
（過去の最高症例数）

3. 達成率 平成29年度386件に対し 86.01%
平成28年度344件に対し 96.51%
平成27年度275件に対し 120.72%

4. 痛みの外来（ペインクリニック）業務

（6月12日 初開設 担当：細川 滋俊 先生）

腰痛や肩痛といった一般的な痛みや、神経障害性疼痛といった困難な痛みに対して、主としてブロック療法を中心に治療を行っている。外来だけでなく、入院患者さまに対しても、他科との共診の形で対応をさせていただいている。

硬膜外ブロック	92件		
トリガーポイント注射	77件		
星状神経節ブロック	19件		
その他の末梢神経ブロック	14件		
	計	202件	
実患者数	177名	延べ患者数	337名

②今後の課題

- 平成30年度は平成29年度に比較して、麻酔科管理手術件数は54件の減少を見た。主たる原因は整形外科手術が38件、外科手術が19件減少したためである。
- 麻酔科医は、細川 滋俊先生が赴任されたおかげで、一人あたりの麻酔件数および、時間外麻酔管理件数も、半減した。時間的、体力的な余裕が生まれたことにより、本来目標とした、より安全な麻酔を施行する条件が整えられたと考えている。
- 麻酔科的には人的余裕が生まれたため、将来的に年間500件の麻酔症例が管理可能と思われるが、逆に、この数を管理するためには、手術場のスペース、スタッフ、稼働時間の不足が律速段階となる。午後から手術開始という手術場運用計画では、現段階での実現可能な目標数は400件といったところであろうか？
- 本来、麻酔科の業務は他科からの要請で成り立つものである。したがって、目標、および達成率というものは、麻酔科単独では、いくらがんばっても達成できない。麻酔科にできることは、依頼された手術が、遅滞なく施行できることで、私たちは、そのような手術場管理を心掛けている。来年度は外科系各科の先生方の協力を得て、今年度の症例数を、上回ることができるように頑張りたいと思う。
- 痛みの外来は着実に患者数が増えつつあり、来年度は、外来枠を増やす必要性が出てきている。おそらく来年度は、ブロック数250件、実患者数200名、延べ患者数400名を超えてくるのではと推測される。

③常勤医師の氏名

畠中 豊人（ハタケナカ シゲト）
細川 滋俊（ホソカワ シゲトシ）

④非常勤医師の氏名

植田 味佐（ウエタ ワサ）
阿部 秀宏（アベ ヒデヒロ）

（文責：麻酔科部長 畠中 豊人）

● 病理診断科

①活動内容・目標に対する達成状況

- 平成30年度を含む過去3年間の病理組織検査の件数の推移は別表（p81）の通りで、院内検査総件数は399件、昨年とほぼ同数であった。
- 内訳は内科（内視鏡）254件で前年より微減（-14件）、外科は96件でやや減少（-17件）、整形外科は24件で増加した（+11件）。
新設された皮膚科の症例は25件であった。
- 外科96件のうち71件が乳腺手術（生検14件を含む）で、そのうちの31件がオープン・ベッド・システムで受け入れた乳腺手術であった。
- 乳がん手術に際しての術中迅速病理診断は43件でやや増加した（昨年40件）。

- 三愛病院よりの受託検査は41件（+8件）であった。

②今後の課題

昨年度に引き続き、できるだけ早くかつ適切な治療に反映できるように、迅速、正確な診断を提供できる努力を続けていきたい。

③常勤医師

山崎 義一

（文責：病理診断科部長 山崎 義一）

看護部

1 概要

看護部長：豊田 邦江
副看護部長：廣田 明美
教育師長：岡崎 千佐子
合計人数 3名

2 平成30年度 目的・目標

目標1. 患者・家族から信頼される看護・介護の実践
目標2. 仁生会将来構想を踏まえた病院経営への参加
目標3. “働きがい”や“働きやすさ”をめざした職場環境の改善

3 目標に対する取り組み

目標1：患者・家族の皆さまより看護や介護について年間20件の投書を頂いた。日頃のケアや対応に対する苦情や注意だけでなく、さまざまなご提案や感謝の言葉も含まれていた。頂いたご意見は各部署と共有し、業務改善や接遇改善の参考にするとともに、職員教育にも活用した。また、本年度は小児外来の待ち時間短縮を目標とした当日予約体制を開始した。事務部副部長を中心に小児科医師や医事課職員、小児科看護職員らが協力して取り組んだ結果、待ち時間短縮の効果がみられている。さらに、昨年度開設した外来がん化学療法室にがん化学療法看護認定看護師が入職し、がん看護の質向上に貢献している。一方、本年度も6病棟においてインフルエンザ感染が発生し、対応に追われた。患者・家族の皆さまにも面会制限などの迷惑をおかけすることとなり、今後の対応策強化が求められている。

目標2：病床管理室を中心としたベッドコントロールや緊急入院の増加により、年間稼働率はほぼ目標を達成できた。また①入院目標数と患者数を各部署へ掲示する、②毎週開催の事務長室朝会で全師長から入退院状況を報告する、③外来当直に夜間受け入れ可能数を伝達するなどの取り組みを続け、看護部全体で病床稼働率維持への意識化ができた。さらに認知症ケア加算2や夜間看護加算、外来化学療法加算1、急性期看護補助加算25対1への変更など、看護関係加算の増収にも意欲的に取り組んだ。今年度は補助金



を活用した新館空調工事や南館スプリンクラー工事の他、専門外来や小児外来の改築など工事が相次いだ。部署間の協力により、患者さんへの影響を最小限に留め計画的に完了することができた。さらにI M A J I N活動では統合に向けた取り組みが具体化し、双方の看護部が協力して情報交換や手順の見直し、研修の相互参加など準備体制を整えた。

目標3：各部署で、新人・中途採用の看護職員に対する支援について教育委員会を中心に見直しを行い、「長く勤められる職場作り」を目指した。事務作業補助の病棟クラークを新館病棟に配置する、部署間での助勤調整を行うなどにより、多忙な時間帯の業務軽減などを図った。しかし常勤看護要員の離職率は15.12%（看護職員13.05%、介護職員22.63%）で、退職理由には定年退職や健康的問題のほか、仕事と家庭の両立困難なども挙げられていた。今後もワークライフバランスへの配慮など、職場環境改善が課題と思われる。一方看護補助者の退職が年々増加しており、一番多い退職理由は他職種への転職であった。背景には労働人口の減少など社会的要因も影響しており、長期的な対策を検討すべきと考える。

4 次年度の課題

1. 南1病棟をはじめとする病棟再編の準備と実行
2. D P C病棟の入院期間短縮をはじめとするタイムリーな病床管理
3. 感染予防と安全対策の強化
4. 循環器系疾患の看護の質向上
5. 働きやすい職場環境の整備（離職率の低下）

（文責：看護部長 豊田 邦江）

● 教 育

1 平成30年度看護部教育目標

1. 専門職業人として、看護・介護の実践能力を自ら高める看護職員を育成する。

- 1) 主体的に学び自己のキャリア開発ができ、看護・介護実践能力を高めることができる。
- 2) 病院機能を理解して地域と連携し、個性を重視

した看護・介護を提供することができる。

- 1) 看護倫理に基づいた人間性と社会性を備え、地域に貢献できる看護職員を育成する。
3. 安全・安楽な方法を判断できる看護職員を育成する。
 - 1) 看護実践力を高め患者のニーズに対応した看護・介護ができる。
4. 医療チームの一員としてよい人間関係を保ち自己の役割を果たし、社会人としての自覚・責任を持ち主体的に行動がとれる看護師を育成する。
 - 1) 新人看護師がチームの一員として、具体的な役割行動がとれるようにするため、新人看護師自らの努力と看護部全体で成長を支える環境を提供する。
 - 2) 他の職種とコミュニケーションを図り、患者の人権を尊重した看護・介護を実践することができる。
5. 看護基礎教育における実習施設の役割を果たす。
 - 1) 実習全般の情報を収集し臨床指導者の役割を果たすことができる。
 - 2) 看護学生・研修生に合わせ実習環境を調整できる。

2]活動報告

1. 平成31年度の4月の細木ユニティ病院との再統合に向けて看護部の教育研修は、合同研修を念頭に置いて企画、運営した。この場面に遭遇した時の対応への自信につながっていた。トピックス研修では、「細木病院における退院支援について」「看護師が知っておきたい糖尿病のケア」「認知症ケア加算2」「腎臓移植後の患者の看護」「ナラティブ」「看護研究」を実施した。看護部が相互に交流を

図り研鑽に努めることができた。また新人看護師の集合教育においても、採血や注射・経管栄養・トランスファーなどの演習を行い、トピックス研修同様の交流ができた。また、急性期補助加算取得に必要な看護補助者の研修を6回や看護必要度の院内研修を2回実施した。

2. 看護研究は、前年度に取り組んだ内容を緩和ケア病棟が全国学会で発表することができた。
3. 平成31年の4月の細木ユニティ病院との再統合に向けて、新人看護師が使用するチェックリスト見直しを行った。現行のチェックリスト細木病院177項目、細木ユニティ病院114項目の内容の整合性と到達レベルの確認を行い、細木病院新人看護師チェックリストとして175項目に再編した。
4. 中途採用者の支援体制について運用マニュアルを作成し、平成31年4月1日から使用するよう体制を整えた。

3]業務実績

1. 臨地実習6校、ふれあい看護体験10名受け入れた。
2. 看護部教育委員会による研修の企画運営：「新人研修9回」「新人看護師、2年目看護師ローテーション研修」「プリセプター会6回」「一人前研修」「トピックス研修6回」

4]次年度課題

1. 細木ユニティ病院看護部と教育の円滑な連携を図る。
2. 中途採用者の支援体制を軌道にのせていく。

(文責：教育師長 岡崎 千佐子)

● 新1病棟

1]概要



病棟形態：回復期リハビリテーション病棟

病床数：52床

所属長名：渡辺 真智子

構成職員：看護師 18名
 准看護師 1名
 介護福祉士 6名
 看護助手 2名
 合計人数 27名

2]平成30年度 目的・目標

1. 専門性を持ち、患者・家族の思いを尊重した看護・介護を提供する
2. 安全で安楽かつ安心できる看護・介護を提供する
3. 職員全体が病院経営に参画する
4. 働きやすい職場環境を提供する

③目標に対する取り組み

1. 初回カンファレンス時に患者や家族の希望を踏まえたうえで短期・長期目標を作成し、早期に退院支援に向けて情報共有を行うことで、担当看護師が積極的に退院支援に関われるよう他職種間での協働を図っていく取り組みを試みている。現状では在宅復帰に著明な改善は見られていないが、継続して実施していくことが有効であると考え。
2. インシデント件数は185件であった。転倒転落は85件→66件、内服薬は45件→38件とそれぞれ減少している。薬剤のシングルチェックが導入された当初はインシデントも発生していなかったが、ここ最近では失行などが目立ってきている。手順遵守と個々の特徴を考慮し、個別性に応じた対策が必須だと思われる。また過去には無断離院が複数名続き対応に苦慮していたが、患者層の変化や感染対策の一環で玄関の閉鎖時間の変更を行い無断離院は1例のみであった。また防犯の観点からも時間変更は有効であったと考える。
3. 病床稼働率は年間累計80.9%で目標値は未達だった。他院からの紹介患者や急性期病棟からの転入に依存している現状で稼働率維持には限界も感じている。また1月～2月にかけてインフルエンザのアウトブレイクで面会制限などリハビリ介入や

退院支援に支障を来してしまった。施設基準の遵守のためにも回復期病棟本来の患者選定を押し進めつつ、入院対象患者のピックアップを病床管理室や急性期病棟などと連携を図っていく必要がある。また回復期リハビリ病棟入院料2や1のシミュレーションやデータ収集など視野に入れ、他職種での取り組みも課題である。

4. 幸いにも本年度退職者はいなかった。働きやすい職場を目指し職員の育成や対応などが功を奏した成果だと自負している。また有給休暇やアニバーサリー休暇取得（66.56%）は公平性を保つように努め、有給休暇は全職員が5日以上取得できた。今後も継続して働きやすい職場を提供し、離職防止に取り組んでいきたい。

④次年度の課題

1. 年間病床稼働率85.3%を維持する。
2. 手指衛生のタイミングの定着とコンプライアンスの向上を図る。
3. 回復期リハビリテーション病棟入院料3の施設基準を維持する。
4. 回復期リハビリテーション入院料変更も視野に入れたデータ収集に努める。

新1病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	診療報酬改定について	渡辺 真智子師長	80%	岡林 和代准看護師	80%
5月	回復期リハビリテーション病棟について	千葉 恵子主任	89%	重光 紗希看護師	89%
6月	退院支援	桃田 恵苗主任	96%	西田 聖代ヘルパー	96%
7月				北村 さやか看護師	96%
8月	脳卒中連携バスについて	川江 忍MSW	85%	村田 朋実看護師	85%
9月	大規模地震時の対応について	北村 さやか看護師 他	92%	久村 愛子介護福祉士	92%
10月	看護記録・医療・看護必要度について	竹本 のぞみ看護師 他	89%	早川 美香准看護師	89%
11月	病態から起こりうる患者の状態アセスメント	市村 りつ看護師	80%	松村 香澄看護師	80%
12月	認知症高齢者に対するケアと関わり方	中野 七千翔看護師 他	84%		
1月	インフルエンザアウトブレイクのため 休会				
2月	嘔吐物処理について	明神 幸祐看護師 他	92%	下井 由紀子看護師	92%
3月	事例通して患者アセスメント・ケア・取るべき行動のGW	市村 りつ看護師	80%	天野 里沙看護師	80%

(文責：新1病棟師長 渡辺 真智子)

● 新2病棟**①概要**

病棟形態：地域包括ケア病棟
 病床数：60床
 所属長名：大原 敬子
 構成職員：看護師 24名
 准看護師 3名
 ヘルパー 11名
 合計人数 38名

②平成30年度 目的・目標

1. 専門性を高め、患者・家族の意思を尊重した退院支援を実践する。
2. 安全・安楽な看護・介護を提供できる。
3. 全スタッフが病院経営に参画する。
4. WLBに沿った働きやすい職場環境にしていく。



③目標に対する取り組み

1. について

分散教育で看護倫理の事例検討会を行い、接遇チームによるアンケートや接遇マナーの勉強会などを通して倫理的なコミュニケーションについて理解を深めることができ、多職種や家族との円滑なコミュニケーションに生かしているのではないかと考えます。

退院前訪問や担当者会への参加も増えており、退院支援に積極的に関わろうとしている風土が形成されつつあると思います。

自己研鑽に温度差があるのは同じですが、専門分野の知識を深めたいというスタッフは増えてきています。

2. について

インシデントによってはS E L L分析を行い、対策について情報共有を行うことができました。

インフルエンザのアウトブレイクが病院規模で発生しましたが、面会制限や個室対応、標準予防策の徹底により終息できました。

身体抑制のマニュアル遵守は行っていますが、H U統合後は抑制の必要な患者が増えることが予想されるため、今まで以上に倫理的な側面を踏まえた抑制カンファレンスをしていく必要があると考えます。

チーム活動として防災訓練などは行えていませんが、病棟B C Pは策定できたため、次年度は周知徹

底していくような取り組みをしていきたいです。

3. について

施設要件に関連するスタッフの意識も高くなっており目標値はクリアできています。本年度は診療報酬の改定がありましたが、多職種と協働しながら施設要件を維持できたと考えます。H U統合後には患者層の変化が予想されるため、施設要件や目標値の達成に向けてさらに努力していきたいと思います。

4. について

接遇チームの勉強会やアンケート結果を共有することで接遇意識の向上はできており、その結果、ご意見箱への苦情がなかったことになるとは思いません。しかし多忙になるとやや言葉遣いが荒くなったりすることもあるため、注意していきたいです。年5回の有給休暇取得は、全員取得できています。次年度からは勤務配慮願いの導入、国の働き方改革による年5回の有給休暇取得の義務付けなどがあるため、個々のスタッフと話し合いながらWLBと公平な休暇取得に向けて対応していきたいです。

④次年度の課題

1. H U統合しても多職種と協働しながら細木病院の地域包括ケアシステムを構築させる。
2. 病棟B P Cを周知徹底できるような取り組みをしていく。
3. 機能評価に向けた準備をしていく。

新2病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	急変時の対応(1時間)	西山看護師	80%	休み(分散延長のため)	
5月	教育心理	大原師長	84%	北岡准看護師	84%
6月	フットケア	森本看護師	80%	佐々木看護師	80%
7月	フォーカス記録	弘田副師長(現:南3病棟師長)	92%	武政看護師	92%
8月	緩和ケアにおける倫理	片岡(健)師長	72%	今橋看護師	72%
9月	12誘導・心電図について	西山看護師	88%	窪田看護師	88%
10月	2018年重症度・医療・看護必要度研修の伝達講習	西山看護師	96%	西森看護師	96%
11月	糖尿病教育入院バスの変更点、糖尿病テストについて	森本看護師 北村看護師 宇賀看護師	80%	北村看護師	80%
12月	感染防止策～アウトブレイク防止に向けて～	土居感染管理認定看護師	88%	山崎看護師	85%
1月	インフルエンザ蔓延のため、休止			宇賀看護師	52%
2月	医療ソーシャルワーカーの退院支援業務(施設概要)	原碧MSW	87%	長谷川看護師	86%
3月	新2病棟の接遇向上について	新2病棟接遇チーム	87%	永森准看護師	89%

(文責：新2病棟師長 大原 敬子)

● 新3病棟



1 概要

病棟形態：急性期一般病棟
 病床数：60床
 所属長名：伊賀原 由香
 構成職員：看護師 27名
 准看護師 3名
 ヘルパー 8名
 医療クラーク 1名
 合計人数 39名

2 平成30年度 目的・目標

1. 患者・家族の想いを尊重した看護を提供する
2. スタッフ全員が病院経営に参画することができる
3. 働きやすい職場環境を整える

3 目標に対する取り組み

1. 業務の煩雑な中、患者・家族の想いを尊重した看護提供が行えたとは言いがたい。術後管理、医師の指示受け、患者の安全確保など忙しさ故に、言葉がけが足りない部分が多かったと感じた1年であった。また、自己研鑽に関しては、院外には限られたスタッフの参加と偏っており、全体の質向上の底上げには至っていない。
 インシデントレポートについては前年度より件数

が多くなっている。転倒・転落はほとんど変わらないが、ライン抜去件数が増加していた。転倒・転落に関しては早期にアセスメントを行い、予防策を立案・実施していたためだと考える。

2. 昨年に引き続き、ホワイトボードに稼働率、必要度の目標値および現状を明示し、医師、看護師の意識化を図り、病棟稼働率約80%で目標の85%には達成できていないが、重症・看護必要度20.6%と目標達成できた。また、超過勤務時間の減少に関しては勤務体制の変更、固定チームを3チームから2チームに変更を行い、前年比約68%と減少した。また、医療材料費（衛生材料）については前年比約65%と節約できた。
3. スタッフ全員に公平な休暇取得ができたと考える。また、退職に関しては、定年退職や家庭の事情を含めて8名が退職した。

4 次年度の課題

1. 固定チームの変更後、日勤に従事するスタッフ数が増え、スタッフ自体に余裕ができ、患者さんに対する時間を確保できるのではないかと考える。スタッフの対応について、全員が気をつけることができ、注意し合える職場環境作りに努めていきたいと考える。また、次年度はスタッフのキャリ

新3病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	接遇	溝渕主任	92%	松澤看護師	92%
5月	認知症ケア加算について	市川副師長	86%		
6月	急変時の対応	坂本主任	84%	吉良川看護師	84%
7月	周手術期看護	濱崎看護師・吉村看護師	93%	村田看護師	93%
8月				野瀬看護師	83%
9月	オムツ交換手順	長山看護師	85%	工藤看護師	85%
10月	災害時看護師の対応の確認	吉村看護師	94%	松井看護師	94%
11月				雪村看護師	90%
12月	接遇	溝渕主任	89%	澤看護師	89%
1月					
2月	汚物処理/アブスラル舌下錠について	斉藤ヘルパー・小橋看護師	86%	山本看護師	86%
3月	反省	坂本主任	93%	吉門看護師	93%

アを考え、院外研修への参加を促していき、科学的根拠に基づいた看護を提供できるように指導を行っていく。

- 今年度は稼働率および重症・看護必要度は大きな低下はなく、今後も継続していくことは当然である。しかし、次年度はDPC期限を今よりも考え、病院経営につながるができるように、医師や病床管理室長などと協働しながら、意識した

病棟運営を行っていくことが重要課題である。

- 働き方改革関連法に基づいて、スタッフの休暇取得、労働時間や超過勤務時間など配慮した環境調整を行っていく。そして、中途・新人看護師の離職防止に努めていく。

(文責：新3病棟師長 伊賀原 由香)

● 南1病棟

1 概要

病棟形態：医療療養病床

病床数：52床

所属長名：高塚 深雪

構成職員：看護師 11名

准看護師 4名

介護福祉士 8名

ヘルパー 1名

合計人数 24名



2 平成30年度 目的・目標

- 専門知識を深め、安心・信頼していただける看護・介護を実践する。
- 安全で安楽かつ、安心できる看護・介護を提供する。
- スタッフ全員が経営に参画する。
- 働きたい・やりがいがある職場環境を整える。

3 目標に対する取り組み

- 患者ケアについて他職種と共にカンファレンスを行い統一した看護、介護が提供できるように取り組みを行った。その結果、自宅への退院や施設への退院が少しずつ増え、職員の意識改革にもつながってきている
- 転倒転落が29件、うち3件アクシデントとなっ

た。同一患者の連続転倒が続くことがあったため、スタッフ全員で安全対策についてのカンファレンスを実施し、転倒転落の予防に取り組んだ。寝たきりの患者も多く、医師、リハビリスタッフと共にポジショニングの勉強会を行い、患者の安全に努めた。冬季にはインフルエンザが流行し病棟閉鎖までに至った。手指衛生の5つのタイミングが適切に実施できるように指導を行いながら感染予防に努めた。今後も継続し実施していきたい。

- 病棟稼働率90%以上を目標にベッドコントロールを行い目標維持できた。医療区分やコストの漏れのないように見直しを行っているが、周知徹底ができておらず、今後の課題である。消耗品の過剰在庫の見直しを行い、ムラ、ムリ、ムダの意識づけができるようにした。今後も継続して行ってい

南1病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	職業倫理	笹山 文衛師長	88%	小松 千温看護師	88%
5月	固定チームについて	堀田 美幸主任	88%	山口 愛子准看護師	88%
6月	急変時の対応方法	田中 さやか看護師	84%	澤村 重典ヘルパー	84%
7月	在宅看護について	堀田 美幸主任	88%	中平 真紀看護師	88%
8月	災害時の役割、注意事項について	山中 佳史准看護師	83%	山岡 勇人看護師	83%
9月	接遇について	安井 和恵准看護師	88%	來 加奈子介護福祉士	88%
10月	感染対策について	筒井 美和看護師	84%	山中 佳史准看護師	84%
11月	ヒヤリハットについて	大野 好子看護師	84%		
12月	認知症患者の看護	戸田 陽子副師長	80%	中越 光江介護福祉士	80%
1月	インフルエンザアウトブレイクの振り返り	土居 世知院内感染管理者	79%	大野 好子看護師	79%
2月	伝達講習	堀田 美幸主任 山中 佳史准看護師 小松 貴子介護福祉士	91%	田中 さやか看護師	91%
3月	反省と課題	堀田 美幸主任	91%	高松 裕子准看護師	91%

きたい。

- 南1病棟は南館の入り口でもあるため、他病棟の方の面会などで数多くの方々の出入りも多くあり、挨拶を積極的に行うように心掛けている。病棟の状況に応じ、患者ケアが安全に行えるように勤務体制を見直し、離職予防にも努めた。今後も働き続けたい、やりがいのある職場環境を作り上げることが課題である。

4 次年度の課題

- スタッフ一人ひとりが適切に感染対策を実施し、アウトブレイクをおこさない。
- カンファレンスの定着を図り、統一したチーム医療を提供する。
- 個々のスタッフのワークライフバランスを大切に皆で協力して業務を行う。

(文責：南1病棟師長 高塚 深雪)

● 南2病棟

1 概要

病棟形態：医療療養型病棟

病床数：49床

所属長名：太田 節

構成職員：看護師	17名
准看護師	1名
介護福祉士	6名
ヘルパー	2名
合計人数	26名



2 平成30年度 目的・目標

- 患者・家族の意思を確認し、個別性を尊重した看護・介護を提供する。
- 安全で安楽かつ、安心できる看護・介護を提供する。
- 全職員が、病院経営に参画する意識を持つ。
- 働きやすい職場環境をつくる。

3 目標に対する取り組み

- 毎月の事例検討やカンファレンス(1回/6カ月)を定期的に行うことで、患者・家族の意思を確認し、希望する看護・介護について検討をしてきた。また、主任2名がA、B両チームのグループ目標を作成し、グループごとに積極的に家族とのコミュニケーションを持ち経過記録に残すことに努めている。これにより、患者・家族の望んでいる看護をより明確にすることができている。
- 職員各自が、患者の移動やケア時に緊張感を持ち、行動や状態を観察、転倒転落アセスメント・計画書を状態変化時に行うことで危険行動の予測が行われている。しかし、指示の誤読や確認不足などによるインシデントが起きている。内服服用時の確認方法も変わり、最終で投与する看護師個人の確認作業とその責任の重要性が浮き彫りになった。感染予防対策では、前年度に課題としてあげたアルコールジェルの使用量は改善し、感染予防対策を行ってきたが、平成31年1月2日よりA型インフルエンザが流行し、患者12名、職員6名の感染者を出し、2年連続で病棟閉鎖までに

至った。

また、病棟にスプリンクラー設置のため12月より工事が開始され、職員同士で協力し合い患者さんの移動など、安全、迅速に行うことができた。

- 医療療養病棟Iの対象患者80%以上の維持と、病床稼働率86%を目指し、職員に医療療養型I病棟の特性や稼働率の目標値維持の必要性を指導し、コスト面での無駄遣いのないよう努めた。平成30年(2018年)度は、入院患者14名、転入患者46名、死亡退院患者38名、軽快退院患者9名、転院患者5名、転出患者6名で、病床稼働率は、年度累計でも85%と目標達成ができなかった。また、医療度の高い患者さんが増えることで、コストが上がり医師との相談、連携も重要となった。
- 職員の病欠時の助け合いや、急な勤務交代などの場面が多々あったが、お互いに協力し合う良好な関係ができている。しかし、職員同士の接遇の悪さの問題もあり、継続した指導と支援が必要である。

4 次年度の課題

- 安全面では、引き続き手指消毒の徹底や患者と職員全員の予防接種など、インフルエンザの感染拡大をおこさないように努めることである。
- 入院後短期間での死亡退院患者さんや、医療度が高く病状の不安定な患者さんも多いため、入院・転入時のACPの確認と推進を行い、患者・家族さんに悔いを残さず療養生活を送っていただけるようにしていきたい。ACPを行うことで、治療方針が明確になり、コスト削減の一助になると思われる。

南2病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	片岡認定看護師による糖尿病についての講義	山崎(靖)主任	83%	濱渦看護師	83%
5月	BLS	渡辺看護師	94%	荒木看護師	94%
6月	口腔ケアについて	式地介護福祉士	84%	西森看護師	84%
7月	栄養について	吉川看護師 中山看護師	86%	山崎(晶)看護師	86%
8月	医療安全について	中岡看護師	81%	中山看護師	81%
9月	フットケアについて	三橋看護師	92%	坂上准看護師	92%
10月	身体抑制について	西森看護師 富田看護師	77%	高野看護師	77%
11月	感染・吐物処理	高野看護師	88%	富田看護師	88%
12月	ポジショニングについて	濱田介護福祉士	81%	大田看護師	81%
1月	基本的スキンケア	長山WOCNs	85%	三橋看護師	85%
2月	認知症ケアについて	山崎(靖)主任	81%	渡辺看護師	81%
3月	まとめ、反省		81%	中岡看護師	81%

(文責：南2病棟師長 太田 節)

● 南3病棟



1 概要

病棟形態：障害者施設等一般病棟
 病床数：30床
 所属長名：弘田 美貴
 構成職員：看護師 14名
 准看護師 4名
 ヘルパー 4名
 合計人数 22名

2 平成30年度 目的・目標

1. 安全・安楽・安心できる看護・介護を提供する
2. 職員全員が病院経営に参画する
3. 働きやすい職場環境を整える

3 目標に対する取り組み

1. 感染リンクスタッフを中心に病棟会で手指衛生、個人防護具の着脱の演習、吐物処理の演習を行った。インフルエンザアウトブレイク期には標準予防策の徹底と毎朝の検温など一人ひとりが体調管理に気を配った。皮膚トラブル防止への取り組みは固定チームでスキンケアに関する勉強会を開き知識を深め、トラブルが発生しないよう目標設定をして取り組んだ。また定期的なカンファレンスも実施しており、患者・家族のニーズに応える看

護の実践ができた。

2. 病床稼働率は病床管理室と連携し目標の90%を達成することができた。
3. 2交代制勤務導入に向けて夜勤の業務内容を見直した。休憩室を広めソファを設置して環境も整えたが人的環境が整わず、現在1名のみが2交代制で勤務している。今後取り組んでいきたい。後期にはヘルパー3名の入職があり、看護とヘルパーの業務分担を見直すことができた。また休憩室や詰所を広く使えるような改修、リネン類や衛生材料の整理など物理的環境の改善にも取り組んだ。

4 次年度の課題

1. 固定チームでの取り組みの中で「褥瘡発生件数を減らす」「手順に基づき個別性に応じたオムツ交換ができる・適切なオムツ交換ができ感染予防ができる」を目標としたい。
2. 一人ひとりがコスト意識を持ち病棟物品を適切に管理できる。
3. 職員同士が思いやった態度や行動、言葉遣いで接する。

南3病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	倫理	高塚 深雪師長	75%	高橋 夏季看護師	75%
5月	DMの入院患者を通して指示の内容や技術の共有	曾我 貴美子主任	68%	益岡 都代子准看護師	68%
6月	フォーカス記録について学ぶ	酒井 真紀子主任 曾我 貴美子主任	91%	北川 久美准看護師	91%
7月	感染予防を踏まえたオムツ交換実践	安岡 直子看護師	87%	一圓 紋嘉看護師	87%
8月	オムツの適当な当て方 ～オムツフィッターより～	益岡 都代子准看護師	50%	河添 幸春看護師	45%
9月	ラテマットにてポジショニングおよび体位変換除圧について	酒井 真紀子主任 中原 光章看護師	61%	片岡 綾香看護師	61%
10月	インシデントの分析と対策 SHELLモデル	高塚 深雪師長 酒井 真紀子主任 曾我 貴美子主任	67%	寺田 かおり看護師	67%
11月	ICLS (実践編)	一圓 紋嘉看護師	55%	式部 佐智看護師	55%
12月	CPRの実際	一圓 紋嘉看護師	71%	看護師全員	72%
1月				藤田 光政准看護師	28%
2月	摂食・嚥下	白石 沙耶香言語聴覚士	72%	曾我 貴美子主任	22%
3月	骨粗鬆症リエゾンチーム (OLS) について	寺田 かおり看護師	72%	曾我 貴美子主任	22%

(文責：南3病棟師長 弘田 美貴)

ポピー病棟 (緩和ケア病棟)

1 概要

病棟形態：緩和ケア病棟 7：1
 病床数：12床
 所属長名：片岡 健
 構成職員：看護師 15名
 ヘルパー 1名
 合計人数 16名



2 平成30年度 目的・目標

- 患者・家族の個別性に沿った看護・介護を提供し、満足していただけるケアを目指す。
 - ①患者・家族の希望する療養生活実現に向け、スタッフ全員が関わる。
 - ②院内外での勉強会に自主的に参加し、スキルアップを図り実践に生かす。
 - ③業務の見直しを行い、インシデント・アクシデントを減少させる。
 - ④感染防護意識を高め、PPEを徹底させる。
- スタッフレベルで経営参画する。
 - ①円滑なベッドコントロールを行う。
 - ②病床数増床(12床)を実現し、稼働率向上・増収を目指す。
 - ③他部署との連携を強化し、情報共有を行い、スムーズな入院・転入調整を行う。
- 働きやすい職場環境を作る。
 - ①課題など改善すべき点を抽出し職場環境改善をする。
 - ②ナースステーション・休憩室の環境整備を実施す

- る。
- ③業務改善を行い、残業時間を削減する。

3 目標に対する取り組み

1. E L N E C - J 研修を2名の看護師が受講した。(研修終了者計：6名)
2. 病棟改修を行い平成30年10月より12床稼働となり、これまで以上に多くの患者を受け入れることが可能となった。
3. 有給休暇が公平に取得できるよう、勤務表作成を行った。

4 次年度の課題

1. 院外研修への積極的な参加。
2. インシデント発生件数の減少に向けた早期対策の実施。
3. 職場環境改善を行い、職員および患者・家族に優しい環境を目指す。

ポピー病棟 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率	事例検討担当者	出席率
4月	休み			山添 勢津子看護師	62%
5月	医療安全とコミュニケーション	井上安全管理者	73%	山脇 めぐみ看護師	60%
6月	がん患者の食欲不振	山添 勢津子看護師 野本 孝一看護師	62%	吉岡 昌代看護師	62%
7月	K Y T～危険に対する感受性向上のために～	大久保 美香看護師 尾崎 加奈子看護師	79%	宮崎 弥沙看護師	79%
8月	退院調整・在宅支援	宮崎 弥沙看護師 二ノ宮 抄恵子主任	62%	大久保 美香看護師	62%
9月	ポジショニング	海地 亀代子看護師	69%	野本 孝一看護師	69%
10月	せん妄	河崎 千代看護師 吉岡 昌代看護師	77%	海地 亀代子看護師	77%
11月	認知症について	山脇 めぐみ看護師	58%	河崎 千代看護師	58%
12月	終末期患者の口腔ケア	橋田 真由看護師	67%	橋田 真由看護師	67%
1月	グリーンケア	高木 紫那子看護師	79%	尾崎 加奈子看護師	79%
2月	看護倫理	中原 佐苗主任	67%	中原 佐苗主任	67%
3月	年間計画評価	全員	50%	高木 紫那子看護師	50%

(文責：ポピー病棟師長 片岡 健)

● 外 来

① 概要

所属長名：片岡 典代
 構成職員：看護師 19名
 准看護師 9名
 診療助手 8名
 合計人数 36名



② 平成30年度 目的・目標

- 専門的知識を高め、患者・家族に配慮した外来看護が実践できる。
 - ① 院内外の研修に参加し、看護実践能力の向上に努める。
 - ② 患者・家族の立場を配慮した関わりを実践することができる。
 - ③ 外来看護記録を定着させ、看護記録の質向上に努める。
- 安全・安心できる看護を提供できる。
 - ① インシデント・アクシデントの振り返りを行い、インシデント、アクシデントの防止対策を検討する。
 - ② 標準予防策を遵守し、アウトブレイクを防止する。
 - ③ 発災に備えた対応準備ができる。
- スタッフが組織の一員として経営に参画する。
 - ① 関係部署と連携を図り、年間病床稼働率83%達成を目指す。
 - ② 病棟の窓口としての外来の位置づけができるように、接遇に心掛け病院のイメージUPに努める。
 - ③ 細木病院・細木ユニティ病院統合に向け情報の共有を行い、在宅部、他施設を視野に入れた連携・協力体制がとれるように努める。
- 働きやすく、働きがいのある職場を作る。

- ① お互いが声を掛け合うことができるように取り組む。
- ② 公平な休暇取得や勤務体制の協力ができるように取り組む。
- ③ 科・部署を超えた協力体制に努める。

③ 目標に対する取り組み

- 院内外の研修案内について、情報提供を行った。積極的に自己研鑽に対し取り組みが行えている看護職員がいる一方、なかなか自己研鑽に至らない職員もいるが、全スタッフが何らかの研修には参加することができる。外来記録について、記録委員を中心に個別指導を行った。継続看護の実践ができていない看護師がいる一方、全スタッフへの定着ができておらず課題がある。平成30年2月に外来化学療法室にがん化学療法看護認定看護師を迎え、①がん化学療法薬の安全な取り扱いと適切な投与管理、②副作用症状の緩和およびセルフケア支援を実践できた。
- 感染対策に対し、内科外来、小児科外来で“発熱

者コーナー”を設置しアウトブレイクの防止に努めている。発災の備えは、環境チームを中心に環境整備に努めた。インシデント発生に対して全スタッフで分析を行い、再発予防に努めた。

- 入院がスムーズにできるように連携の強化に努めた。また、接遇向上に取り組み、病院窓口の立場を理解し対応するために、毎朝、接遇標語、挨拶標語を唱和し意識づけを継続している。
- お互いが声を掛け合うことができ、協力体制がとれるように外来全体で取り組んだ。

4 次年度の課題

- 外来看護記録の定着を行い看護の質の向上を図る。
- スタッフのリリーフ強化を行い、お互いが助け合いながら外来運営ができるように取り組む。

外来 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
4月	新しい治療薬、リクラクト点滴の紹介	南場医師	71%
5月	インシデントの分析・対策検討	全員	80%
6月	時間外の小児科電話対応方法	小児科チーム	67%
7月	化学療法室立ち上げの現状と課題	ケモチーム	67%
8月	外来の環境を整える	環境チーム	62%
9月	アウトブレイクを防ぐ	感染チーム	75%
10月	内科疾患・医師との関わりについて	内科チーム	90%
11月	E Rの統一に向けて ～アンケート結果から～	E Rチーム	90%
12月	E R C P検査の実際	中内医師	50%
1月	倫理を考える	片岡師長	59%
2月	認知症患者さんの理解	片岡師長	83%
3月	年間反省・課題	全員	86%

- 働きやすい外来を目指し、協力や意見交換ができる職場風土を目指す。
- 接遇向上に取り組み、病院の窓口として患者対応力の向上に努める。
- インシデント・アクシデントの事例を共有し安全・安心できる看護の提供を目指す。

(文責：外来師長 片岡 典代)

手術室・中央材料滅菌室

1 概要

所属長名：門田 季香
 構成職員：看護師 5名
 准看護師 4名
 合計人数 9名

2 平成30年度 目的・目標

- 安全で安心できる手術室看護が提供できる。
- 組織人として病院経営に参画する。
- 働きやすい職場環境を整える。



3 目標に対する取り組み

- 部署内で発生したインシデントについては、翌朝のミーティング時に全員で対策を話し、再発防止に努めた。また、職員2名が、県外で開催された術中起こるスキントラブル防止の勉強会に自己研鑽で参加し、部署内で伝達講習を行い、手術体位を取った際に注意するポイント、体位の固定部位や固定時に使用する物品の検討などを行った。
- ムリ、ムダ、ムラを省くため、引き続き、物品の使用頻度、使

手術室・中央材料滅菌室 平成30年度 分散教育・事例検討計画

月	分散教育内容	分散教育担当者	出席率
5月	骨粗鬆症のメカニズムと、治療の必要性と治療薬	上村看護師	100%
6月	行動療法に基づいたペアレントトレーニング	小笠原看護師	100%
8月	個人防護具の着脱の実践練習	畠中看護師	82%
9月	歯科器械の取り扱いおよび洗浄・滅菌方法	門田師長	91%
	自動吻合器および自動縫合器の使用手順説明	業者	82%
10月	看護学生受け入れ、統合実習の説明	看護学校教員	100%
	麻酔の種類と使用薬剤の用途と作用機序の説明	細川医師	85%
2月	A E Dの基本操作	森臨床工学士	100%
	手術室学会伝達講習“手術体位と注意点”	小笠原看護師 金子看護師	100%

用期限を意識した物品の使用、医師への声掛けなどを行い、無駄のない物品管理に努めた。薬剤室に協力いただき、手術室で使用する薬剤の管理体制の見直しを行った。手術室では、ハイリスク薬の取り扱いも多く、さらなる安全管理ができるようになった。

- 南館の入浴介助、患者ケア、外来の採血業務の応援など、部署を超えた協力体制を継続することができた。部署内でも、手術が長時間になる場合に

は、職員同士で声を掛け合いお互いに配慮することができた。

4 次年度の課題

- インシデント、アクシデント発生防止に努め、より良い手術室看護の提供に努める。
- ムリ、ムダ、ムラを省くとともに、健全な手術調整を行う。
- 部署内外での協力体制を継続する。

■ 術式別件数表【平成30年度】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
外科	1. 開腹手術											1	
	1) 胃切・胃全摘	1										1	
	2) 腸切				2		2	2	1			2	
	3) 胆嚢												
	4) その他			1	1							1	
	2. ヘルニア	2	1		2	3	1	3		1	2	1	
	3. 乳房	5	5	4	6	6	3	6	10	3	4	5	3
	4. 腹腔鏡視下手術											2	1
整形外科	5. 虫垂炎	3	1	2			1					1	
	6. 甲状腺						1	2	1			1	
	7. 肛門	1		1	2	1	1		2				
	8. その他	3	2	5		3	4		1	2	4	3	1
	1. 人工関節手術												
	1) 股関節 (THA)	1				2			1			1	
	2) 膝関節 (TKA・UKA)	2	2	3	2	2	2		3	2	5	3	3
	3) 人工骨頭挿入 (BHP)	1	2							2		1	
4) その他、肩関節等					1						1	1	
2. 鏡視下手術													
1) 肩	1	1	1	2	1		2		2	1	1	2	
2) 膝		1	2		1	1	1		1	1	1		
3) その他									1	1	1		
3. 脊椎手術													
1) 椎間板ヘルニア		1	1	2					1	1	1		
2) 椎弓切除・形成			3	2	3	2		1		2	1	1	
3) 固定術	2	1	3	1	1	1	2		1		1	2	
4) B K P	2	3	1	3	1		1	1	1	3			
5) その他							1	3					
4. 関節手術	2	1	5	2	2	1	2	1			1		
5. 骨接合術	3	5	1	3	3	5	1	4	5	3	1	5	
6. 内反足手術		2		1									
7. 腱延長術		1							1	1			
8. 靭帯・腱・アキレス腱手術	1		3			1	1	2	1				
9. 抜釘・異物除去	1	1	2	4	2			2		1		2	
10. その他	5	3	8	8	7	2	6	1	4	3	4	5	
脳外科	1. 下垂体手術												
	2. シャント								1	1	1		
	3. 慢性硬膜下血腫除去・洗浄		1	1		1							
	4. その他									1		2	
内科	1. ペースメーカー												
	1) 植え込み術	1				1							
2) 電池交換								1					
形成	1. 皮膚、皮下腫瘍摘出	1					1						
合計		38	34	47	43	41	29	30	32	32	34	30	34

注) 1 麻酔で2カ所の手術を行うこともあり、手術患者数と術式別件数の数値は合致しないことがある。

(文責：手術室・中央材料滅菌室師長 門田 季香)

医療技術部

1 概要

医療技術部長：田中 照夫

医療技術部は、「薬剤室」「放射線室」「臨床検査室」「栄養管理室」「リハビリテーション課」「臨床工学室」「臨床心理室」の7部署から構成される。

2 活動内容・目標に対する達成状況

各部署において、目標と取り組みを掲げ、その達成に向け、チェンジ・チャレンジに取り組んだ。

1. 経営基盤の安定

後発医薬品の使用促進によるコスト削減と後発医薬品使用体制加算Ⅰの算定（薬剤室）、給食業務の直営化による経費の大幅削減（栄養管理室）などで成果をあげた。

2. 働きやすく、働き甲斐のある職場作り

骨粗鬆症リエゾンサービスチームの立ち上げ（薬剤室）、腹部超音波担当者の育成（臨床検査室）、キャリアラダーを活用した研修会・学会への参加動機付けと働き方改革の継続（リハ課）などで成果をあげた。また、医療技術部として、関連学会などで合計25回の発表を行った。

3. IMAJIN（第Ⅱ期）活動とHU再統合準備

HU再統合に向けて、採用医薬品などの整理・統一（薬剤室）、PACSやRISの導入準備（放射線室）、ユニティ職員との交流・連携（栄養管理室）



などを行った。

4. 非常時の対応力強化

非常時アクションカードの作成（全部署）、BLS研修への積極的な参加（リハビリテーション課）などで成果をあげた。

3 今後の課題

1. 新・細木病院の円滑な運営と統合効果の発揮に取り組む
2. 再統合による診療報酬の最大化に取り組む
3. 「チェンジ・チャレンジ精神」を持ち続け、業務改善と新規業務に取り組む
4. BCPの浸透を図る

（文責：医療技術部長 田中 照夫）

● 薬剤室

1 概要

所属長名：小松 めぐみ

構成職員：薬剤師 11名

事務員 1名

合計人数 12名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 理念の浸透

朝礼において理念や基本方針の唱和を継続し意識するようになった。

2. 経営基盤の安定

定期的に後発医薬品への変更を検討し、後発医薬品使用体制加算Ⅰ（使用数量割合が85%以上）を継続できた。また、平成30年度の診療報酬改定において一般名処方の加算点数が2倍となったことから、一般名処方の対象薬剤を拡大し、昨年より2.3倍の230万円余りの収益があった。薬剤総合評価調整加算は年間13件の算定と少なかったが、入院中の減薬への取り組みは継続できた。

今年度より病棟薬剤業務実施加算の取り下げを

行い、特定の病棟だけでなく、全病棟に薬剤師が関わることとした。薬剤管理指導件数（算定分）は新3病棟1,472件、南館病棟461件、全体として1,933件であり、年間目標（1,980件）の97.6%とわずかに達しなかった。しかし算定不可病棟の件数を含めると2,825件（対前年比138%）と増加していた。入退院時の薬剤管理指導は原則行うこととし、退院時指導件数は昨年の255件から731件と大幅に増加した。

3. 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり

職員持ち回りで週1回の勉強会「もくスタ」を

継続的に開催し知識の向上を図った。医師および多職種のメディカルスタッフが連携し、骨粗鬆症リエゾンサービス（O L S）チームの活動を開始した。週1回開催するO L S多職種カンファレンスで薬剤師が治療薬の使用歴や腎機能確認し、治療薬を開始した患者や治療薬が変更になった患者に対しては、薬剤師が薬剤管理指導を行うなどの活動ができた。また、学会などの発表を年間4件行い、職員のモチベーションアップにもつながった。

4. I M A J I N（第Ⅱ期）活動の始動とH U再統合準備

H U再統合の準備では、薬剤室の統合、採用薬の統一、調剤手順などの統一については、医師、看護師などと協議を重ね大きなトラブルはなくスタートがきれた。しかし統合がきっかけとなり、薬剤師3名が退職し人員不足となったことは反省

点である。

5. 非常時の対応

安全、感染、B C Pに関わっている職員からタイムリーな情報提供が行われ意識付けができた。

③今後の課題

1. 今年度の重要な取り組みとして、H U再統合があった。今後、こころのセンターの薬剤関連業務の把握と整理、整備を行うとともに、薬剤師不足を解消し、こころのセンターへの関わりも強化していきたい。
2. 薬剤師に求められる業務が増える中、安全な医療を提供していくためには、人員の確保と業務改善が必要である。ムダ、ムリ、ムラをなくすよう業務の見直しを行っていく必要がある。

（文責：薬剤室長 小松 めぐみ）

放射線室

①概要

所属長名：小松 剛
構成職員：診療放射線技師 8名
合計人数 8名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 新人教育
昨年から業務に携わってくれている技師も単独で任せられるようになってきたので、休日の当番業務シフトに入ってもらった。これにより一人当たりの当番業務の負担を減らすことができた。
2. H U再統合準備
ユニティ病院との統合ではフィルムレスによるP A C Sや電子カルテ化によるR I Sの導入、それらにともなう画像データ保存システムの構築などのハード面と検査依頼や検査までの流れなどを細木病院での運用方法に統一するためスタッフ間での連携に向けた話し合いなどのソフト面の両方で準備を整えることができた。
3. 非常時への対応力強化
B C P活動において当室の非常時アクションカードはかなり良くできたと考えており、これから大



規模災害訓練に対応していく。

③今後の課題

1. より良い画像の提供をするために透視装置やワークステーションなどを更新する。そのための優先順位を見極めつつ最善の提案をしていきたい。
2. B C P活動にて取り組んできたものを今後の大規模災害訓練にどのように生かしていくのか、さらに具体的な事案に組み込んでいかねばならない。

（文責：放射線室長 小松 剛）

臨床検査室

①概要

所属長名：楠瀬 恭子
構成職員：臨床検査技師 14名
合計人数 14名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 検査機器と検査システム更新整備
血液ガス測定装置を、平成30年8月22日より11年間使用した機器からA B L 80 F L E Xに更新した。腹部体表超音波装置は、平成20年9月30日よ

り使用し老朽化しているため、機種選定など検討したが高額医療機器のため更新できなかった。検査システムは、現行システム保守契約終了の対応として検討したが、FMS運営の提案と検討が加わり次年度の課題とした。

2. 検査精度の向上

外部精度管理は、日本臨床検査技師会と日本医師会と高知県精度管理調査およびメーカーの精度管理調査に参加した。平成30年度日本医師会の参加項目修正点は99.4点で、その他の精度管理調査結果も問題なかった。年間45回の外部専門分野研修会に、延べ128人参加し自己研鑽に努めた。

3. 人材育成と確保の推進

前年度は臨床検査技師1名減の13名で検査業務を行い大変多忙であったが、今年度は4月に新人職員が入り14名で業務を行うことができた。平成31年1月に定年退職予定だった超音波検査士の資格を持つ職員の1年間の勤務延長が叶い、腹部体表超音波担当者の育成に成果が得られた。他の生理検査業務担当者育成は、当院の生理検査項目の多様性もあり完遂はできなかったが前進はできた。

4. 医療安全事故防止

インシデント事例の迅速な共有と注意喚起、再発防止策の周知徹底を行い、朝礼と毎月開催する検



査室会での再確認を職員全員で取り組んだが、今年度もインシデントの最大要因は確認不十分となった。インシデント件数は13件で前年度よりは減少した。

③今後の課題

今年度は検査システムの新規更新ができず、現在、検査運用の安定稼働に不安があるので、当院にとって最善の検査システムを導入できるように次年度は取り組む必要がある。また、腹部体表超音波装置も臨床の要請に適切に対応できるように更新したい。

(文責：臨床検査室長 楠瀬 恭子)

● 栄養管理室

①概要

所属長名：橋本 由佳

構成職員：	管理栄養士	7名
	栄養士	8名
	調理師	3名
	調理員	13名
	合計人数	31名



②活動内容・目標に対する達成状況

【平成30年度目標】

- 働きやすく、働き甲斐のある職場づくり
- 病院経営への貢献
- I M A J I N (第Ⅱ期) 活動始動とH U再統合準備
- 非常時の対応力強化

【達成度】

- 全面委託であった給食業務を直営化に切り替えることとなり、スタッフ一同不安ながらもモチベーションは高かった。しかし切り替え直後は人員確保ができず、上期は全ての管理栄養士が厨房業務を兼務することとなり超過勤務を強いる結果となった。そのため病棟の栄養管理業務は最低限に抑えられ、入院時加算栄養食事指導件数は前年度の

11%にとどまった。一方、外来加算栄養食事指導は内科医の積極的な依頼もあり、前年度比106%と維持以上の結果を残すことができた。また、下期にかけてNSTの再開や院内外での栄養士活動も行い、給食管理部門と栄養管理部門の両立に向けた取り組みになったと思う。

- 給食業務を全面委託からアッセンブリーシステムに切り替えたことにより、経費の大幅削減につながった。
- 再統合後の運営が円滑に進むように、部署内でも担当を決めてユニティ病院スタッフとの協議にあたることができた。
- 院外調理済み食品の活用など給食システムが変わったことにより、食材の在庫が減少した。その

ため、今までのローリングストックの考え方も改める必要が出てきた。また、BCPのワーキンググループでは具体的な活動のためのアクションカードの作成に取り掛かっているため、今年度は備蓄食材の期限内活用と次期備蓄食材の検討を行った。

どの項目においても、「解決に向けてどう取り組むか」「あきらめずにやりきる」というスタッフの姿勢がみられた1年であった。

③今後の課題

1. 栄養管理室は今までの栄養管理センターの業務から現場栄養士、調理師、調理員を抱える給食管理部門を直接運営することとなった。厨房スタッフの育

成には時間も労力もかかると思うが、これには管理栄養士も積極的に関わり、教育する側、教育される側の双方が育つ環境で運営の安定化を図っていききたい。一人ひとりが課題を持って全体の目標達成に取り組んでいくことが課題である。

2. 栄養管理室に所属する多くのスタッフ、職種をまとめるために個々のスキルにあわせた課題の持たせ方が重要であると考えている。そのためにはスタッフに気を配り、声掛けを行いながら、一歩ずつ前進していきたい。今後はH.U.再統合による新たな問題点も浮上するであろうが、スタッフの知恵と行動力を結集して臨みたい。

(文責：栄養管理室長 橋本 由佳)

● リハビリテーション課

①概要

所属長名：藤本 弘昭

構成職員：理学療法士 49名
作業療法士 26名
言語聴覚士 18名
リハ助手 6名
合計人数 99名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 平成30年度は外部の医療機関や施設への見学に向き、働き方や医療の質を上げることにヒントを得るための活動を行った。
2. 働き方改革実践2年目に突入し、「リハ専門職として働くということ」に対する具体的な方針（専門性、組織、収益性など）を掲げ取り組む1年とした。職員も管理者も少しずつ意識が変化している。よい方向に向かっているが、「現状を変えることに対するストレス」も少なからずあるようであった。
3. 働き方改革の大きな柱である勤務形態の多様性をもった対応などについては、それぞれの個人的な背景に対応するように進めたが、さまざまなプレッシャーから数名精神的な問題で休業する職員も出ており、対応の仕方に苦慮した。
4. 妊婦の産休前の早期休業も問題となっている。妊婦には配慮しているが、配慮される側よりする側のストレスも今後問題になるだろう。

5. 収益では年間6億円を一つの目標に取り組んできたが、5億6千万円と目標の91%の達成率にとどまることとなった。

③今後の課題

働くことに対する意識を高めることはもちろんだが、世間の動きにも敏感に対応していかなければならない。働き方改革関連法案が成立し、職員には年間5日以上取得が義務化されたが、それぞれの職種ごとのプライドをもち、患者さんへのサービス提供に対する意識を低迷させることがないように、管理者たちは今まで以上に意識付けをすることを、適正な手段や上手な伝え方で導いていく必要がある。重ねて管理者もストレスをためこまないように気にかけておく必要を感じた。

(文責：リハビリテーション課長 藤本 弘昭)

□ リハビリテーション課 理学療法室

①概要

所属長名：リハビリテーション課長 藤本 弘昭
管理者名：課長補佐 葛岡 有功

構成職員：理学療法士 49名
(リハ課、訪問、通所職員含む)
合計人数 49名

②活動内容・目標に対する達成状況

平成30年度の目標として
①セラピストとしての知識、技術の幅を広げ理学療法の質の向上を図る。②非常時の対応力を高めリスク管理を行い安心・安全な理学療法を提供できる。③働きやすく、働き甲斐のある職場づくりに努める。以上を目標として活動を行った。

人員数としては平成29年度末の退職者への補充と人員不足に対するの確保として新規入職者7名（新卒者5名、経験者2名）を迎え質の確保に努めた。

理学療法の質の確保に関しては、キャリアラダーを活用しており院内、院外の研修会・学会への参加の動機付けがされ研修会参加数の増加が著明であり、学会発表件数では前年度比120%となった。

リスク管理も同様であり毎月開催されている当院主催のBLS研修会に毎月理学療法室より参加者を送ることができた。

働きやすく、働き甲斐のある職場づくりとしては、前年度からの取り組み課題として、残務の削減、有給休暇取得の向上を掲げ、課内で行っている会議、ミーティングの再考や適切な残務の在り方、早期退社への意識付けなどを行った。

結果として残務の削減と有給休暇取得の向上は改善したが、その反面、理学療法士一人当たりの実績は前年度比にて97%となった。残務で行っていた業務を就業時間内に遂行することで患者治療の時間が減少して



いると考察できる。

令和元年度では、患者治療の確保と残務量の現状を分析し、さらなる働き方改革が必要と考える。

③今後の課題

1. 年度の初めに南館の実績低下、また年度中盤に人員配置を充実させている回復期病棟にて実績の低下が認められた。部署責任者やスタッフ全体にて対策を講じ、改善していく必要がある。
2. 電子カルテの誤送信が多く生じた1年であり、指さし呼称の周知、徹底やカルテ記載のルールの設定などを行い対策してきたが、今後も職員一人ひとりが取り組む必要がある。
3. 有給休暇取得率は向上したが、平成31、令和元年度では「年5日の年次有給休暇の確実な取得」が義務付けられており計画的な休暇取得を進めていく必要がある。

（文責：リハビリテーション課長補佐 葛岡 有功）

□ リハビリテーション課 作業療法室

①概要

所属長名：リハビリテーション課長
藤本 弘昭
管理者名：課長補佐 田村 智恵子
係 長：横山 美咲
構成職員：作業療法士 26名
合計人数 26名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. OT室基本目標の設定と浸透
2. OT室運営の健全化
3. 働きやすく働き甲斐のある職場環境・関係づくりに努める
4. 病院理念の浸透と病院経営への貢献
5. HU再統合への準備を進める

今年度は経験者3名が入職し（うち1名が課長補佐）、臨床・管理面における管理体制が充実した。年度初めにOT室基本目標と年度目標の設定に取り組み、作業療法士として基本となる考え方や役割、理想像、心構え、などについて共有した。共に働くOT同士で考え方や思いを話し合うことができ、とても良い機会となった。今回設定した基本目標、理想像の浸透は来

年度以降も継続していきたい。

入院業務では6月より急性期・地域包括の兼務を分業し、他職種連携と業務の効率化を図った。小児外来では6月より小児リハビリテーション室が設置され、少し広いスペースで運動発達訓練を実施することができるようになった。在宅業務ではデイケア「ゆうゆう」への再配置を行い、通所リハOTとしての働きの再検討と体制づくりを開始した。その後、急性期や回復期より体調不良者が出るなど人員の安定しない状況があり、互いにフォローを行った。実績としては、マンパワー不足の状況にあったが、実績目標を達成することができた。また、研究発表も5題の発表を行うことができ、個々の研鑽を積むことができたと思う。

③今後の課題

各ユニットでの業務改善や質向上に向けた取り組みを進め、OTのみならずリハスタッフや他職種と連携を密に取り、よりよいリハビリを提供していきたい。平成31年4月に実施されるHU統合という大きな変化を強みに変えていけるよう、患者・職員の満足度向上、実績向上、そして病院貢献につながる働きを行っていく必要がある。基本目標として設定した『患者さん、病院、作業療法士自身から“この作業療法室でよかった”と思ってもらえる作業療法室』を目指していきたい。

(文責：作業療法室係長 横山 美咲)

□ リハビリテーション課 言語療法室

①概要

所属長名：リハビリテーション課長

藤本 弘昭

管理者名：係長 楠瀬 さやか

構成職員：言語聴覚士 18名

合計人数 18名



②活動内容・目標に対する達成状況

平成30年度も前年・前々年度に引き

続き、①些細なことでも自己判断せず周囲に相談し、連絡・報告を徹底する、②担当業務の効率性・収益性、多職種との連携を考慮して実務を遂行する、③気配りと思いやりの心を持ち、働きやすい職場づくりをする、を目標に掲げ活動した。

平成29年度下期から継続中のリハ課における「働き方改革」の取り組みにて、業務内容の見直し・効率化を常に念頭に置いて取り組んだ。平成30年度初めに1名入職し、構成職員数は1名増員でスタートしたが、春の異動や中堅職員の産休・育休取得などにより現場の動きが不安定となり、4月の実績は低下してしまった。その後、原因分析を行い、それに対する業務改善に取り組み、徐々に回復させることができた。

入院部門におけるST介入の処方内容は摂食・嚥下機能評価、訓練が多い。しかし、臨床経験が5年未満のSTの割合が増え、評価や訓練プログラム立案において苦心する場面が出ている現状がある。そこで、新たな取り組みとして、新館嚥下回診にて耳鼻咽喉科医の協力を得て“アフターフォロー回診”を開始した。実際の食事場面において耳鼻咽喉科医と共に方針を検討・決定することで、経験年数の浅いSTにとって医師から直接的に評価を学べる貴重な場を得ることができている。また、2月からはユニティ病院において摂食

機能療法の算定を開始した。介入件数は少ないものの、処方・介入の流れを医師や看護師に伝達し、患者さんの情報共有を行いながら連携を取り業務を進めていっている段階である。今後もこれらの活動を継続し、より質の高い関わりを維持していけるよう努めたい。

③今後の課題

今後は、年度初めにみられたような実績低下を招かないように、各自が研鑽を積み経験を高めていく必要がある。患者さんに対して、より質の高い言語聴覚療法を提供できるよう努めていかなければならない。そのためには、職員同士のコミュニケーション、相談・連絡・報告を丁寧に行うことが重要であり、経験の浅いSTは業務上の分からないことについてはいつでも先輩STに相談できる環境・関係性づくり、先輩は後輩の動きを見守り、声を掛けられる余裕を持った働き方ができるような職場環境づくりが大切だと思う。平成31年4月のユニティ病院との再統合後の業務におけるSTの役割や業務内容を再考し、1年後の病棟再編に向けて取り組んでいく。

(文責：言語療法室係長 楠瀬 さやか)

● 臨床工学室

① 概要

所属長名：医療技術部長 田中 照夫
構成職員：臨床工学技士 1名
合計人数 1名

② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 臨床工学室では院内で使用する医療機器の保守管理を主に中央管理方式で行っている。部署管理の機器に関しては、故障時や異常時には対応し、一部の管理クラスの高い機器に関しては定期的に訪問点検を行った。また、手術室の術中使用予定の機器を使用前に毎回作動確認したり、依頼があれば手術中に使用する機器の操作などを行った。
2. 新機種や機種更新などで新しい機器が導入されたときには、看護師などに向けて機器の操作説明を行ったり、新採用職員に対しては本院にある機器を安全に使用できるように基本的な操作方法やチェック方法を勉強会にて説明した。
3. 古いセントラルモニタと送信機の更新を行うと前年の課題に掲げていたが結局更新を行うことができなかった。セントラルモニタの機種選定はできているが、修理不能の送信機や送信機不足があり



増台を検討している。高額になるので慎重に台数の選定を行いたい。

③ 今後の課題

1. メンテナンス終了の人工呼吸器と耐用年数を超えたAEDと輸液ポンプの更新を行うとともに、操作説明と教育を行い稼働時にミスが起こらないようにしていく。
2. 医療機器安全管理者として新機種や部署管理の機器で操作経験がない機器についても情報収集を行い使用者に正しい使い方を説明できるように努めていきたい。

(文責：臨床工学技士 森 勇樹)

● 臨床心理室

① 概要

所属長名：医療技術部長 田中 照夫
構成職員：臨床心理士 1名
合計人数 1名

② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 心理面談、検査など業務の質の向上
2. 院内外との多職種連携
3. インシデント・アクシデントの減少
4. 公認心理士の資格取得

平成30年度は院内外との多職種や関連機関（学校や児童相談所など）との連携や情報共有をしながら支援の質の向上に努めた。検査は大きなミスなく実施することができており、今後もミスのないようチェックを徹底していく。また国家資格である公認心理士の試験に合格し、資格取得をすることができた。ただ、業務の見直しは今後も必要であり、今後も業務の質の向上はもちろん、業務内容の効率化を図りたい。

③ 今後の課題

多職種・地域連携が必須の業務であり、心理室だけでなく、どこに患者さんをつなぐのが適切か、支援を



依頼できる機関はどこかなど、院内外との連携や協力をお願いすることに努める。そのためにも自身の行っている業務をまとめ、整理をしていく必要がある。情報の取り扱いには十分注意し、患者さんのニーズに応えられるよう、心理療法を適切に選択するといった、業務の質の向上も継続して研鑽する。

また、引き続きインシデント・アクシデント数を減らすことを徹底し、正確な情報を提供できるよう取り組んでいく。業務の効率化・改善を図り、体調管理や感染対策の徹底も必要である。知識・能力の向上に努め、今後さらにスキルアップし、患者さんや地域のニーズに応えていけるよう精進していきたい。

(文責：臨床心理士 山口 沙耶花)

事務部

平成30年度の事務部門は、年度当初に以下の目標と取り組みを掲げ、業務遂行に努めました。

①事務部門の目標

⇒ “強い部門” “頼られる部門” “情報発信する部門”を目指す。

- 1) 当事者意識を持って“チェンジ・チャレンジ”する。
- 2) 病院の目標と取り組みのリーダー役として、事務・独立部門も積極的に取り組む。
- 3) 日頃の取り組みを成果につなげ、それを、院内外に情報発信する。
- 4) 働きやすく、働き甲斐のある職場環境を実現する。

②事務部門の取り組み

- 1) 経営基盤の安定に寄与する。
 - ①年間病床稼働率83.5%をコミットメント（必達目標）として取り組む。
 - ②そのため、入院経路別の増患に積極的に取り組む。
 - ③年度予算の当期利益（18千万円）の確保にコミットメントとして取り組む。
 - ④地域連携のさらなるレベルアップを図る。
 - ⑤全ての費目について、コスト削減を進める。
 - ⑥ダブル改定の正しい理解を深め、施設基準の新規策定につなげる。
 - ⑦東部のグループ体化を図る。
- 2) 働きやすく、働き甲斐のある職場づくりに取り組む。
 - ①接遇レベルの向上に、継続して取り組む。
 - ②必要な資格取得や研修機会の提供など、スキルUPのための活動を引き続き行う。
 - ③残業時間の削減に取り組む。
 - ④ストレスチェック度の改善に取り組む。
 - ⑤「学術集会 in 細木」をはじめ、院内外での発表を行う。
 - ⑥診療・執務スペースの整備を行う。
- 3) 「IMA J I N活動」への参画とHU再統合準備に取り組む。
 - ①「IMA J I N活動」とHU再統合に積極的に参画する。
 - ②細木ユニティ病院への電子カルテ導入支援を行う。
 - ③再統合の事務手続きを進める。
- 4) 安全な医療・看護・介護の提供に取り組む。
 - ①BCPの策定に参画する。
 - ②業務上の交通事故撲滅に取り組む。
 - ③医療事故（アクシデント）の減少に取り組む。
 - ④院内アウトブレイクの防止に積極的に取り組む。



平成30年度の目標に沿った取り組みの成果を、ここに報告します。

1. 病床稼働率（83.5%）の確保

平成30年度の年間病床稼働率実績は、83.5%でした。目標値（83.5%）を何とかクリアしたことになります。上半期の稼働率は低迷しましたが、下半期で巻き返し、達成したことになります。ここ数年、取り組んできた稼働率確保の取り組み（地域医療推進センターを中心とした医療連携の推進やオープンシステムの活用、入院患者数の診療科別基準値の設定や救急からの入院促進など）の成果が一定、実を結んできたものと考えています。

ただ、入院単価が伸び悩んだため、医業収益は、目標金額に届いていないことが、大きな課題でもあります。

2. HU再統合の準備の本格着手

細木ユニティ病院との円滑な再統合を目指し、「HU再統合委員会」と、当委員会の元に「診療協力WG」「電子カルテWG」「各部門WG」を組織し、準備を本格化しました。

また、膨大な準備手続きの中核となる事務部については、半年間、前倒しで先行統合するとともに、企画課を新設し、事務局機能を強化して、準備を加速しました。

電子カルテについては、細木病院の電子カルテを共有する形で、平成31年度の稼働に向けて着実に準備を進めました。

3. 経費のコスト削減の取り組み

平成30年度は、経費、特に光熱水費の削減に取り組まれました。電気料金については、新館の空調を最新型に更新するとともにLED化を推進しました。また、四国電力とも交渉し、グループ割の適用とすることで、電気料金の削減に取り組まれました。水道の蛇口に節水バルブを設置し、水道料金の削減も果たしました。

また、『セービング・キャンペーン』を実施し、職員への省エネ意識の喚起を図りました。

4. 診療スペースの見直し

前年度のロッカー棟の完成に伴い、診療スペースの再整備を行いました。具体的には、大変、狭かつ

た小児科スペースを拡張するため、旧病理検査室を専門外来スペースとし、小児こころの外来を移設、病理検査室を旧更衣室に移設いたしました。

(文責：事務部長 宮地 耕一郎)

● 総務課

① 概要

所属長名：文野 正史
構成職員：事務職 8名
秘書 2名
交換室 5名
喫茶室 2名
合計人数 17名

② 活動内容・目標に対する達成状況

日々事務作業に追われていて、目標として掲げていた、①業務管理、②事務処理の最適化、③日常業務の見直しなど、改善項目に手を付けることができなかった。また課員の減少による一人当たりの業務量の負荷が、各々に掛かったことも、この要因と考えられる。

この期間は、実質事務員3名で業務を進めていて、残業時間が月30～40時間を超えることもあり、課員が疲弊していた。

この状況から、年末調整に限っては派遣社員2名に作業を行ってもらうことで、危機的な状況を乗り越えることができた。

下半期には病院の統合に先駆けて、総務課が12月に先行統合されることで、日常業務に加え、統合の準備も必要となった。

先行統合後は、準備期間としてそれぞれの業務を継続して行った。

(文責：総務課長 文野 正史)



③ 今後の課題

1. 統合後は、業務量の個人差が顕著になっているため、業務を標準化、平準化して、ある程度誰でも行えるような環境を整えたい。
2. また業務の単純化、簡素化も行いたいですが、これについては他部署の協力も必要となる場面もあるので、業務の高効率化を念頭に、他部署も前向きに考えてもらいたい。
3. 仁生会のデータ蓄積方法、運用にはかなりの無駄な部分があるので、給与システムの大幅変更を進めるとともに、データの持ち方も検討したい。

● 医事課

① 概要

所属長名：古谷 英理
構成職員：29名
(課長1名、主任2名)
合計人数 29名

② 活動内容・目標に対する達成状況

1. 接遇のレベルの向上とともに、「品」のある対応を目指す
2. 技術力の強化・プロ意識
3. 連携
4. 業務改善



『環境整理』『超勤削減』『スキル（接遇）向上』の3つのワーキンググループを立ち上げ目標達成を目指した。

接遇では、表情や言葉遣いを意識し気持ちの良い対応を心掛け、患者の安心感・満足度向上に努めた。また、月1回のレセプト反省会を充実させるとともに、ワーキングからの提案による業務改善で、スキルや判断能力を強化することで、正しいレセプトが増え超過勤務削減につなげた。

課題となっていたカルテ整理も、ワーキングで取り組むことにより処理を進めることができた。

『5S』活動を開始し、課内の整理整頓を行い環境が改善され、仕事の効率化が図れ、ICTからも評価を受けた。

ワーキンググループを立ち上げたことで、スタッフからの意見を取り入れた具体的な取り組みを行うことができ、課題の整理をすることで、例年と比べ目標達成度が高く感じられる。また、個々の意識づけにつなげることができた。

③今後の課題

医事課の質の向上には個々の意識改善が必要で、働きやすい働きがいのある職場づくりを継続し、引き続き課題の整理、業務改善を行っていく。また、自己研鑽に努め、知識、スキルを身につけ『強い事務』『頼られる事務』を目指したい。

病院の収入に直結する診療報酬請求業務の正確性が求められる。病院経営の収益に影響し制度に適した情報収集が必須で、医事管理業務は機能強化が必要となる。地域のニーズにあった病院体制の構築が必要で、事務部からも医療統計を基に情報の発信、対策・改善案の提供を行い、病院経営につなげたいと思う。

(文責：医事課長 古谷 英理)

● 用度課

①概要

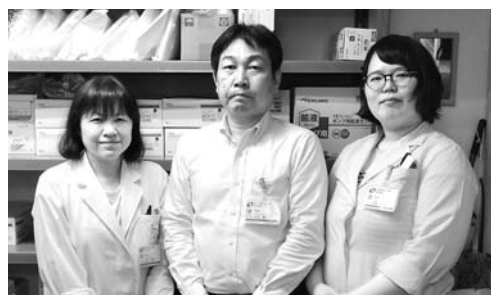
所属長名：村田 真

構成職員：事務 3名

合計人数 3名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 購入物品価格の見直しの中で、医療消耗品の一部で価格交渉の結果、安くなった商材もあったが、印刷物関係において値上がりしたものがあつた。一般消耗品分野の一時商材では、通販やインターネットサイトでの価格を参考に、より安価な商品の購入ができた。
2. 在庫管理の適正化を図るため各部署からの物品請求について、請求量の多いものや重複請求と思われる物品のチェックや払出データを活用した数量チェックにより払出数量の抑制を行った。ただし、過剰在庫の抑制・無駄なコストを抑制するためにバーコードの定数表を定期的に各部署に配布することを計画していたが、担当員交代によって十分な案内ができていなかった。
3. 滅菌切れ対策では、用度課倉庫内のデッドストックを洗い出し、部署で活用されているものは優先的に払出しできる出庫対応を促し、緊急時のストック品も定期的に回転するシステムに変更し、先入先出しの原則を図ってきた。
4. 当課では業務の分業体制を原則とするが、少人数のため、全員が用度課内の業務掌握をすることが必要であり、課内でのコミュニケーションを重んじながら、各々の業務の効率化や合理化を図ることを目標に掲げ、実践してきた。おおむね目的、



目標を達成することができたが、今後も継続して相互協力の体制を継続していく。

5. 病院の統合化に伴い、一部の医療消耗品の統合や印刷物の統一化の中で、不要なものや様式の簡素化など、各部署との連携をして取り組むことができた。

③今後の課題

日常業務の主要を占める部署からの物品請求や払出し、仕入業者への発注および納品に伴う受入れ作業と各種の伝票入力に多くの労力を費やしています。病院内の組織統合に伴い、物品の標準化を進めていく中で、日々の購入コストを抑え、無駄のない物品運営を目指すため、業務の効率化、処理能力を高めることが常に課題となっています。そのため医療材料を中心とした物品管理システムの見直し、一般消耗品の購買・出納管理を行う新システムの導入を検討するなど、事務処理のスピードアップを図り、物品購入の価格の見直しや過剰在庫の削減などに注力化する体制づくりが肝要であると考えます。

(文責：用度課長 村田 真)

● 施設課

1 概要

所属長名：真鍋 誠	
構成職員：技能員	3名
運転手・技能員	1名
運転手	6名
合計人数	10名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 設備機器更新の実施

今年度に工事予定をしていた老朽化している新館全体の空調機更新と照明器具のLED化を職員と業者の協力のもと無事に行うことができた。断熱工事も同時に行うことにより、新館の省エネ性能が上がり補助金申請が可能な省エネ性能の基準を満たす建物となり、補助金申請を行い採択された。この工事が完了し電気使用量の削減もできた。

2. 病院の維持管理、機能強化

病院の外来改装計画で新館4階の旧更衣室あとに本館2階の病理検査室、検査室、薬剤室が部屋を移動となり移設改装工事を行った。そして本館2階に新たに専門外来を開設することになり改装工事を行った。それに伴い小児科の改装も行った。

3. 大規模災害への対応と準備

転倒防止器具未設置のところに設置を行った。

4. 省エネ対策の実施

前述したように新館の空調機更新と照明器具のLED化それと断熱材の使用と遮熱シート貼りなどの断熱工事を施工し電気使用量の削減ができた。本館・新館・南館の各館の水道蛇口に節水器具を取り付けて節水効果を高めた。

5. 送迎車両運行時の安全の徹底

今年も外部の講師を招いて安全運転講習会を開催した。人身事故や特に大きな事故はなかったが、送迎車の車体を擦るなどの物損事故があった。利用者



や運転手含む乗務員にも怪我はなかったが、送迎車運行には細心の注意を払うよう安全運転の徹底を指導していきたい。

6. 細木ユニティ病院との再統合

事務部は10月より先行してユニティとの統合を行った。それに伴いユニティ病院施設の設備機器や建物の故障や不具合にも施設課が対応するようになった。

3 今後の課題

1. 今年度は補助金を活用して新館の空調機と照明器具の更新を行うことができたが南館にも老朽化している空調機があり、いずれ更新を行わなければならない。
2. ユニティとの再統合によりユニティ全体の建物を見てみると、北館S棟の建物自体が老朽化して雨漏りなどいろいろなところに不具合が生じている。今後は建物全体の改修も視野に置いて検討していく必要があると思う。

(文責：施設課長 真鍋 誠)

● 情報システム管理課

1 概要

所属長名：戸田 英也	
構成職員：システム担当	2名
医療秘書	9名
合計人数	11名



2 活動内容・目標に対する達成状況

1. システム部門

目標であった細木ユニティ病院との再統合にともなう電子カルテ

導入準備と支援については、各部署のサポートも受けながらおおむね完了することができた。また、「こころのセンター」と名称変更された旧ユニティ病院のIT資産や運用管理についても前任者から引き継ぎを受けながら資料化することができた。

2. 医療秘書部門

医療秘書のうち約半数が新人となり医療秘書業務の質の変化や量も増加してきている。そのため、医療秘書のルーチン業務や整形外科系・内科系業務の後方支援を行う目的で、BASEチームを立ち上げた。採用後の3カ月をBASEチームに所属し業務を行うことで、全体業務を知る仕組みを作ることができた。また、地方レベルではあるが、リーダーによる当院医療秘書の取り組みを発表（廣内朱美）することができた。医療秘書の院内外問わず研修会への積極的参加も定着している。医師の学術支援においても学会などのデータ収集のみでなく、パワーポイントの作成も行った。そして、少しずつではあるが、ユニティとの統合に向け、現状把握や勉強会など取り組むことができ、目標をすべて達成することができた。

3] 今後の課題

1. システム部門

今回、当院の電子カルテシステムを再統合した精

神科部門でも利用するという試みを実施された。単独で行うよりも大幅な費用削減ができたことはもちろん患者データの共有や他科間の連携も容易にできるようになったと思う。今後は、一病院だけではなく法人内でのシステムやIT資産を総合的に管理・運用することで無駄のない統合されたシステムを構築していく必要があるのではないかと感じた。それを実現するためにも必要なスキルを持った人材を育てていくことが今後の課題だと考える。

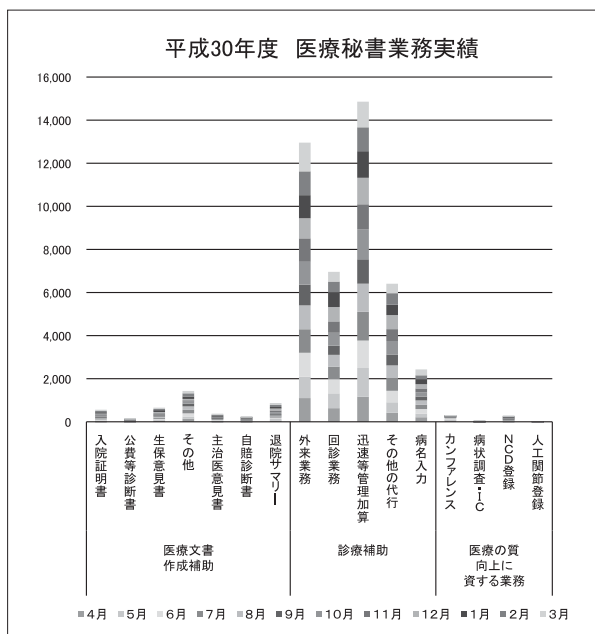
2. 医療秘書部門

医療秘書の院内での需要とともに、従来、直接医師へ依頼や働きかけが行われていたものが、医療秘書を介する場面が多くなった。それに伴い、医療秘書の業務量も増加、内容も変化している。また、新しくこころのセンター業務も入ってきたことから、これまで以上に専門性の高い業務が予想される。そのため、限られた人数で、業務の質や量を向上させる手段を図ること、そして情報共有を徹底していく必要性がある。

今後は、新人だけでなく、個々がスキルアップをするために継続して行える教育ツールの整備やキャリアパスが運用できるように調整を進めるなど人材育成に重点をおきたいと考えている。

■ 平成30年度 医療秘書業務

区分	内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
医療文書作成補助	入院証明書	32	32	42	60	47	35	59	45	54	40	57	58	561
	公費等診断書	12	14	17	8	19	13	9	10	15	16	16	11	160
	生保意見書	49	66	39	41	56	53	49	45	57	87	52	62	656
	その他	145	98	149	163	161	129	89	65	62	114	147	110	1,432
	主治医意見書	30	39	45	31	30	18	29	28	19	28	35	45	377
	自賠診断書	25	12	15	27	16	27	20	30	26	15	23	14	250
	退院サマリー	54	75	64	65	50	47	92	80	87	73	92	93	872
診療補助	外来業務	1,101	995	1,108	1,091	1,108	964	1,060	1,087	933	1,071	1,105	1,333	12,956
	回診業務	632	688	654	586	547	423	602	528	666	678	505	450	6,959
	迅速等管理加算	1,164	1,334	1,272	1,334	1,307	1,132	1,398	1,154	1,230	1,234	1,109	1,189	14,857
	その他の代行	420	485	534	582	596	506	626	551	654	477	537	440	6,408
	病名入力	211	167	215	195	204	177	201	177	198	235	178	273	2,431
医療の質向上に資する業務	カンファレンス	62	51	48	76	7	11	4	14	13	15	8	5	314
	病状調査・IC	6	10	5	4	5	3	1	3	4	4	2	6	53
	NCD登録	28	28	25	28	22	24	25	23	18	27	24	20	292
	人工関節登録	3	2	3	2	5	2	0	3	2	5	4	2	33
備考	4/23～ 秘書10名 (うち1名 休職)					8/15～ 秘書9名 カンファ レンス資料は 整形のみと なる			11/1～ 秘書10名		皮膚科外来 補助開始		3/1～ 秘書9名 その他 統合による 入力作業膨 大	



(文責：情報システム管理課長 戸田 英也)

診療情報課

1 概要

所属長名：山本 淑恵

構成職員：診療情報管理士・施設基準管理士	1名
診療情報管理士	2名
事務員	3名
合計人数	6名

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 専門職としての力を発揮し、診療情報管理のスペシャリストを目指す。
2. 施設基準についての習熟度を高め、タイムリーな情報発信と総合的管理を目指す。
3. 他部門とのコミュニケーションを図るとともに事務部門の活性化に取り組む。

今年度は、上記を軸に専門職としての能力向上を目標に、さまざまな研修会などに積極的に参加し、診療情報管理士だけでなく、課員全員のスキルアップに努めることができた。また、業務全体の再確認を行い、業務のスリム化、効率化にも着目し、残業時間の短縮、有給休暇取得率アップに一定の成果があったように思う。

また施設基準管理についても理解度を深めるため、今年度から新たに創設された、施設基準管理士の資格試験にもチャレンジし、施設基準管理士資格を取得することができた。合格したことで、管理業務を行う上での自信にもなり、モチベーションアップにつながっている。

細木ユニティ病院との統合によるさまざまな課題についても、作業効率アップと業務の統一化がスムーズ



に図れるように、事務部それぞれの立場や役割を尊重しながらコミュニケーションをとるなど、できることから積極的に取り組むことができた。

3 今後の課題

今後は、DPCに係る課題について取り組みをスタートし、DPC病棟の効率的な運用や収益アップのヒントとなるデータの提供や管理を行っていきたいと考えている。また、病院全体でのDPCに関する理解度アップにつながる研修会なども行っていきたい。診療情報管理士としての能力を活かし統計分析の充実化にも力を入れていく。

施設基準の管理についても、適時調査などに的確で柔軟に対応できる体制づくりも強化していきたい。

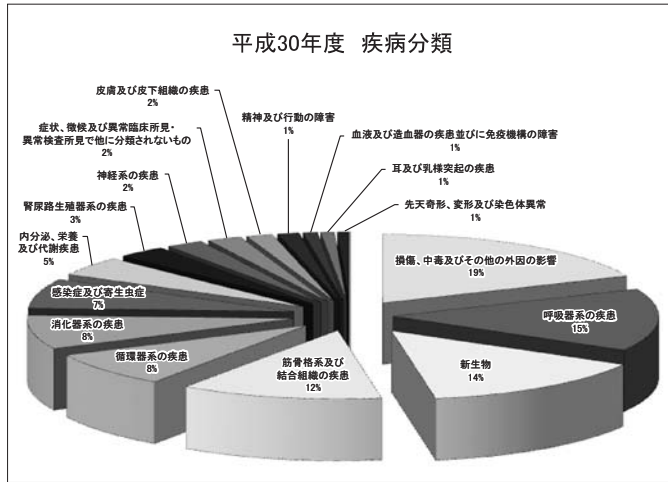
その他、紙カルテなどの紙媒体の現状把握を行い、診療情報管理指針に沿った整理や廃棄など、また病院内一元管理、作業手順の構築にも着手したいと考えている。

人材育成面では、大幅に登録数が増加してきている全国がん登録について、腫瘍分類学などの専門的スキ

ルを持った診療情報管理士の育成や、施設基準管理士の育成にも力を注いでいきたい。

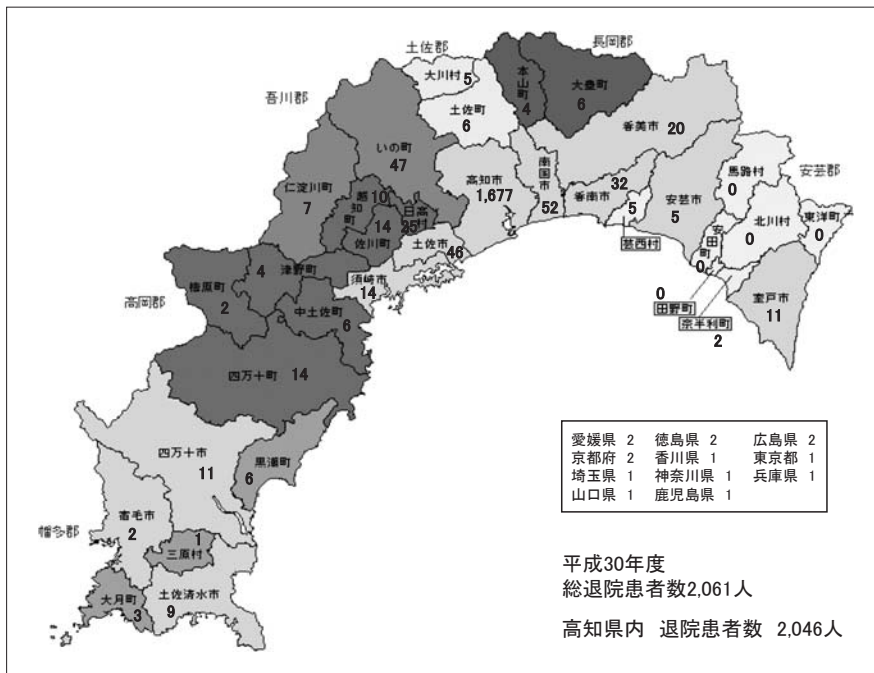
今後の病棟再編も想定し、一步先を見据えた病棟再編への取り組みに施設基準管理士として力を発揮して

いきたい。これからも引き続き、課員それぞれがスペシャリストを目指し、診療情報管理部門の活性化に努める。

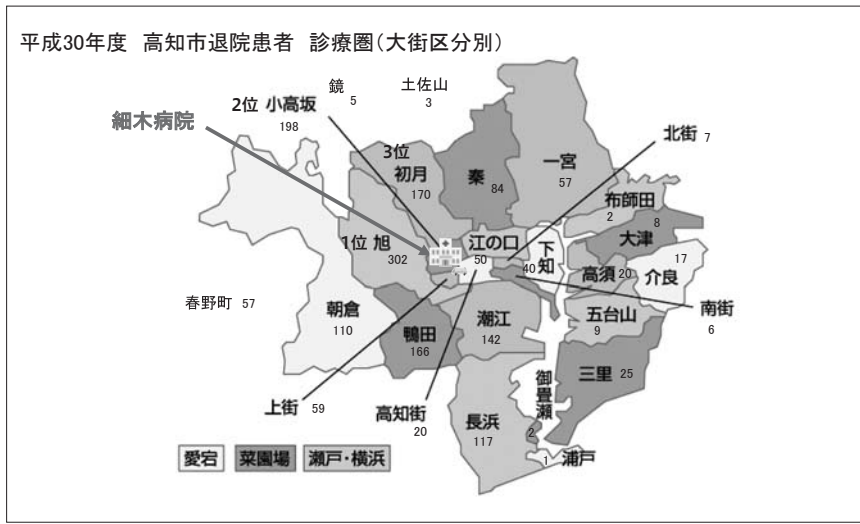


平成30年度 ICD10 大分類

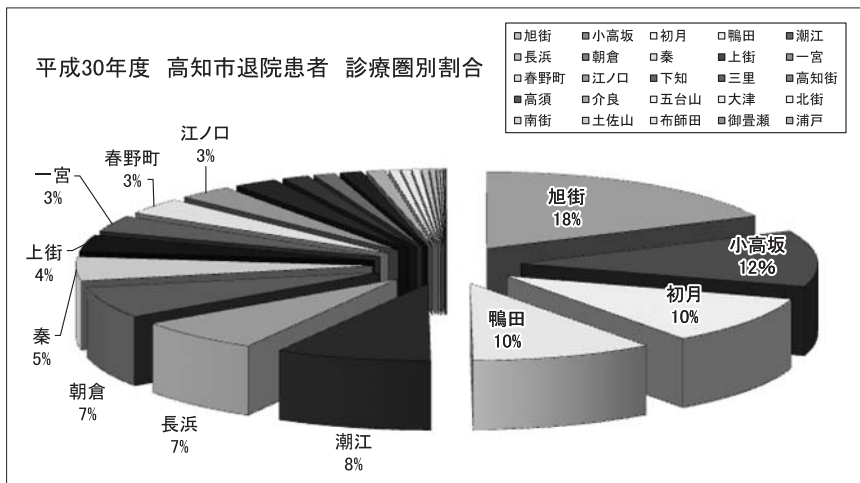
損傷、中毒及びその他の外因の影響	382
呼吸器系の疾患	303
新生物	291
筋骨格系及び結合組織の疾患	253
循環器系の疾患	168
消化器系の疾患	165
感染症及び寄生虫症	144
内分泌、栄養及び代謝疾患	94
腎臓路生殖器系の疾患	61
神経系の疾患	47
症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	43
皮膚及び皮下組織の疾患	33
精神及び行動の障害	27
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	18
耳及び乳様突起の疾患	17
先天性形、変形及び染色体異常	15
眼及び付属器の疾患	0
妊娠、分娩及び産じょく<構>	0
周産期に発生した病態	0
傷病及び死亡の外因	0
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0
合計	2,061



	30年度	29年度
高知市	1,677	1,745
南国市	52	49
いの町	47	57
土佐市	46	42
香南市	32	25
日高村	25	22
香美市	20	31
須崎市	14	28
四万十町	14	11
佐川町	14	23
室戸市	11	18
四万十市	11	7
越知町	10	11
土佐清水市	9	6
仁淀川町	7	7
土佐町	6	12
中土佐町	6	9
大豊町	6	9
黒瀬町	6	4
大川村	5	0
芸西村	5	2
安芸市	5	5
本山町	4	10
津野町	4	5
大月町	3	1
梶原町	2	4
奈半利町	2	2
宿毛市	2	6
三原村	1	0
東洋町	0	0
馬路村	0	0
北川村	0	0
田野町	0	2
安田町	0	1
その他(県外)	15	13
合計	2,061	2,167



	30年度	29年度
旭街	302	344
小高坂	198	182
初月	170	149
鴨田	166	188
潮江	142	109
長浜	117	110
朝倉	110	133
秦	84	77
上街	59	66
一宮	57	48
春野町	57	59
江ノ口	50	67
下知	40	34
三里	25	36
高知街	20	32
高須	20	27
介良	17	19
五台山	9	6
大津	8	15
北街	7	13
南街	6	11
鏡	5	7
土佐山	3	2
布師田	2	3
御豊瀬	2	5
浦戸	1	3
合計	1,677	1,745



(文責：診療情報課長 山本 淑恵)

企画課

1 概要

所属長名：門田 紘和
 構成職員：事務員 3名
 合計人数 3名



2 活動内容・目標に対する達成状況

細木病院企画課は、I M A J I N活動の取り組みの1つ“細木病院・細木ユニティ病院の再統合”に伴い平成30年10月に事務部長直轄の部署として新設された。

主な業務としては、①経営管理に関する業務、②医学部実習生・初期研修医の研修事務局業務で構成されている。

平成30年度10月からの企画課の活動は、以下の通りである。

(1) 円滑な再統合および統合効果が発揮できる体制づくり

事務部門が一枚岩となって、病院全体をリード・フォローしていけるように、“Share30”（事務部門会議）や週1回の“再統合作戦会議”（メンバー：事務部長・事務部副部長・総務課長など）で、統合準備における意思決定に必要な資料作成および説明、提案を行った。

細木病院
 細木ユニティ病院
 あつん高院知
 三愛病院
 日高クリニック
 本部
 アドレス・高知
 福寿園
 積善会

(2) 令和2年度から適用される医師臨床研修制度の見直しへの対応

平成30年10月～12月にかけて、制度の見直しにおける理解・解釈に努め、令和2年度のプログラムについて、プログラム責任者や指導医と意見交換を行った。また、中国四国厚生局主催の医師臨床研修制度・事務説明会に参加し、情報収集および各施設と意見交換を行った。

平成31年3月に開催する初期臨床研修管理委員会の決議事項である「令和2年度のプログラムの決定」に向けて、同説明会および高知県臨床研修連絡協議会での意見交換を基に、プログラム責任者と整理し、また、臨床研修WGの開催を行った。特に、情報提供、議案、会議の開催については、企画課が主に活動を行った。

3] 今後の課題

1. 企画課体制の構築

経営感覚や魅力ある研修プログラム構築のため、企画課員一人ひとりが当事者意識を持ち、また、個々のスキルとして、「調整力・コミュニケーション力」、「経営の意思決定に関する情報の収集・整理・

分析・提案力」、「人と組織を共感・魅了させるストーリー力」が発揮できるような体制を構築する。

2. 統合効果が発揮できる体制づくり

平成31（令和元）年度の再統合に関して、各部署、各職員の懸命な取り組みにより、想定していた以上に、円滑なスタートをしたと考える。来年度は、経営の視点や運用の視点からも、再統合してよかったと思えるように、また、病院全体が最高のパフォーマンスを発揮できるよう企画課が最大限のサポートおよび提案を行っていく。

3. 令和2年度から適用される医師臨床研修制度の見直しへの対応

当院の初期臨床研修プログラムが研修医にとって魅力的な研修になるように、「医師法第16条の2第1項に規定する臨床研修に関する省令の施行について」の解釈および各基幹病院との意見交換に努め、当院のプログラム責任者および指導医とともに令和2年度に向けて取り組んでいきたい。

（文責：企画課長 門田 紘和）

健康管理センター

1 業務内容

①健康診断

全国健康保険協会管掌健康保険（協会けんぽ）生活習慣病予防健診、事業主健診（企業健診）、人間ドック、特定健康診査（特定健診）、高知市の乳がん検診、子宮頸がん検診、大腸がん検診、前立腺がん検診、肝炎ウイルス検査、一般健診、福寿園への出張健診など

②職員健診

細木病院、細木ユニティ病院職員の定期健康診断、新採用者、中途採用者の健診

細木病院職員のストレスチェックの実施

③特定保健指導

2 平成30年度の実績

平成30年度の健康管理センターの総業務件数は5,609件(0.7%増)であった。内訳では健診部分が4,306件(0.4%減)、職員健診は1,300件(4.9%増)であった。

福利厚生費からの支出となる職員健診(9,025,462円分)を除いた総収入は53,751,025円で、昨年と比べると1,262,396円(2.4%)の増益であった。

3 まとめ

当センターは病院併設型の健診施設で、病院機能のために健診に割ける人員には限度があり、ここ数年は利用者の受け入れが飽和状態となっている。さらに来年度は働き方改革関連法案の施行で、さらに悪影響が予想される状況ではあるが、時流に対応しながら、より丁寧な情報提供、質の高い健診を目指して、職員一同、一層努力を続けていきたい。

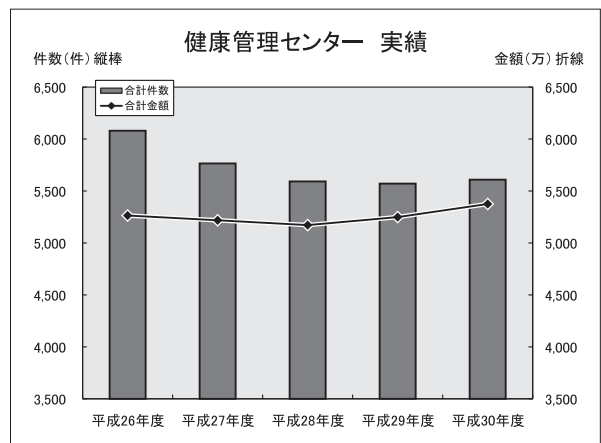


4 常勤医師

診察担当 森下 延真、弘瀬 祥子
乳がん検診担当 上地 一平、尾崎 信三

5 非常勤医師

子宮がん検診担当 濱脇 弘暉



健康管理センター 実績 件数

	ドック	協会けんぽ健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分	小計	予防接種	職員健診	合計件数
平成26年度	215	1,190	1,412	110	606	502	312	25	4,372	507	1,201	6,080	
平成27年度	233	1,259	1,317	90	662	489	381	20	4,451	68	1,246	5,765	
平成28年度	219	1,271	1,151	98	713	501	391	22	4,366	6	1,220	5,592	
平成29年度	231	1,293	1,146	129	617	486	395	28	4,325	7	1,239	5,571	
平成30年度	234	1,318	1,094	93	614	514	431	8	4,306	3	1,300	5,609	

健康管理センター 実績 金額

	ドック	協会けんぽ健診	企業健診	健康診断	乳がん検診	子宮がん検診	特定健診	保健指導	健診分	小計	予防接種	合計金額	職員健診
平成26年度	8,146,543	21,855,763	14,069,930	299,785	3,093,133	1,770,374	2,172,746	120,858	51,529,132	1,111,163	52,640,295	7,256,072	
平成27年度	8,605,713	22,408,090	12,945,709	155,308	3,503,475	1,774,519	2,671,951	46,008	52,110,773	70,986	52,181,759	7,634,462	
平成28年度	8,130,146	22,703,927	11,863,816	205,843	3,455,189	2,496,778	2,759,937	72,792	51,688,428	31,060	51,719,488	7,843,200	
平成29年度	8,364,012	23,570,640	11,760,851	411,690	2,890,374	2,552,197	2,774,570	122,335	52,446,669	41,960	52,488,629	8,057,621	
平成30年度	8,441,585	25,072,155	11,194,796	221,653	2,896,786	2,804,168	3,055,630	45,792	53,732,565	18,460	53,751,025	9,025,462	

(文責：健康管理センター部長 森下 延真)

📄 ほそぎ連携センター

①概要

地域連携推進センターは平成26年度から病床管理室、患者サポート室、連携情報管理室の3室体制から始まり、それぞれの職種の専門性を生かしつつ業務分担を行いながら連携強化に努めてきました。平成31年3月には、細木病院と細木ユニティ病院との平成31年4月統合に先立って、「ほそぎ連携センター」として名称を改め、また、連携情報管理室を「病診連携室」に改め新たなスタートをきることになりました。

平成30年度の主な取り組みとしては、連携業務開始から4年が経過し、医療環境も変化し病院完結型から地域完結型へと移行してきました。それに伴い地域をつなぐ調整役を担う役割へと変化してきました。そこで、このような状況をふまえ、連携課題を抽出し今後さらなる連携強化に取り組むことを目標に地域連携推進委員会の傘下組織として“連携課題検討ワーキング”を立ち上げ、多職種で検討を行い戦略課題立案を実施しました。また、近隣の医療機関へのアンケートも行い、地域から求められている機能や当院への要望やご意見をいただきました。これらから導き出された課題を、次年度につなげ院外のみならず法人内連携強化にも取り組んでいきたいと考えています。

所属長名：西岡 達矢

構成職員：

センター長 医師 1名

患者サポート室 ソーシャルワーカー 15名

(こころのセンター担当 5名)

病診連携室 看護師 1名

事務員 1名

病床管理室 看護師 3名

ソーシャルワーカー 1名

(こころのセンター担当 看護師 1名)



ソーシャルワーカー 1名)

②活動内容

〈患者サポート室〉

退院調整 入院中の問題調整 外来受診相談
各種制度の説明と利用支援 就労支援
心理援助 緩和ケア外来・入院調整

〈病診連携室〉

紹介患者受付および関連業務 逆紹介業務
診療情報提供書管理 オープンシステム関連業務
データ管理 広報活動

〈病床管理室〉

入院相談 退院支援（スクリーニング）
ベッドコントロール

詳しい活動状況は各室からの報告をご覧ください。

③今後の課題

1. 地域との関わりを持ち、地域包括ケアシステムを構築していくための関係づくりを行う。
2. 病床稼働率85.2%を達成するための各種連携の強化。
3. 病院訪問の機会を増やし、紹介患者数アップを目指す。
4. 当院の強み、病院機能を踏まえた広報活動の強化。

(文責：ほそぎ連携センター長 西岡 達矢)

● 病床管理室

①概要

所属長名：永野 亜希子

構成職員：看護師 2名

合計人数 2名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 年間稼働率を維持（目標値83.5%）するために効

率的な病床運用を行う

外来・病棟と連携して入院および転棟調整を行い、年間稼働率84%と目標値を達成できた。

2. 地域の病院や診療所・在宅事業所との連携の強化“連携課題検討ワーキング”を実施し、連携上の課題と今後の対応について検討した。病院や診療所

に対してアンケートを行い、当院の役割やニーズなどについて再認識し、入院相談の運用手順を見直すことができた。また駐車場などのハード面の整備の指摘があり案内板の設置など改善に取り組んだ。在宅事業所との連携強化は、年度内での取り組みができなかった。

3. 細木ユニティ病院との再統合に向けての取り組み入院相談やベッドコントロール、退院支援の業務について検討を重ね、精神科と一般科での新たなルールを決めた。関連部署にルールの周知を行い

協力依頼し運用や連携がスムーズに移行できた。

③今後の課題

1. 地域の病院や診療所・在宅事業所との連携の強化。特に在宅事業所との連携に取り組む。
2. 経営基盤の安定・強化を図るための病棟編成や運用方法を図る。

(文責：病床管理室長 永野 亜希子)

● 病診連携室 (旧連携情報管理室)



①概要

所属長名：柏井 早生吏
 構成職員：看護師 1名
 事務員 1名
 合計人数 2名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. さらなる医療連携の強化
 紹介窓口として「患者が最適な時に、最適な場所で、最適な医療が受けられるように」ということを念頭におき紹介目的、病状をとらえタイムリーな相談支援を実施した。紹介としては外来診療において2,234件あり当部所の介入率は54.9%と半数に対応してきた。直接的に各医療機関とやりとりを行い医師に相談し適時受け入れが実施できた。逆紹介に関しては、1,625件に対応し緊急を除いては、患者との面談を行い患者の思いや都合を聞き患者中心の支援を行うことができた。
2. データの「見える化・見せる化」と戦略的な広報診療情報提供書を基本に扱い、医療機関別に集計された量的データと診療情報提供書の記載内容から紹介目的を抽出し質的な分析を行い当院の強みや弱みを把握したうえで病院訪問の目的を明確にした病院訪問につなげた。9月からは、院内・在

宅各部門からメンバー選出のもと“連携課題検討ワーキング”を立ち上げ戦略的課題を抽出した。そのワーキングの活動のひとつに地域医療機関に向けたアンケートを実施し、その結果からも連携をさらに推進していくための課題も明確化された。平成31年度はこれら課題に取り組み新たな“ほそぎ連携センター”として活動していく。

③今後の課題

1. “連携課題検討ワーキング”戦略的課題達成への取り組み
 当部署課題として法人内連携の強化、医療機関に向けて連携を基盤とした広報活動の展開を行う。院内外との連携促進を図ることを目的にそれぞれの立場を理解し地域とのつながりを大切にしながら患者中心に当院の機能を生かした支援を行う。
2. 平成30年度地域医療機関に向けてのアンケート結果から見えてきた課題への取り組み
 アンケート結果から当院の機能が分からない、積極的な取り組みは何かなどに意見がありPR不足があったため、これらの声にこたえるため“連携広報誌の作成”を実施していく。

(文責：病診連携室長 柏井 早生吏)

● 患者サポート室



①概要

所属長名：辻 美知子
 構成職員：医療ソーシャルワーカー 10名
 合計人数 10名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 多職種・関係機関などとの連携強化や相談支援体制を整える
 安心して治療や療養ができるよう、多職種と協働し入院早期より介入し、療養支援のため各病棟に

担当者を配置している。各担当者の状況を相互が把握するよう定期ミーティングを行ったが、今年度は、医事課より毎月加算などの集計資料を受け、データの見える化を図り、現状の確認や対策に努めた。また、効率的に対応できるよう記録の簡素化に取り組んだが、十分とは言えず、引き続き課題である。

関係機関などとの連携強化として、医療機関の個別訪問のほか、継続して、高知市が開催する入退院支援にかかわる研修会や高知中央・高幡・安芸

医療圏脳卒中地域連携の会などに参加し、法制度の理解や情報交換を行った。

2. ソーシャルワーカーとしての資質向上のため、教育・人づくり

知識や技術向上のため、今年度も引き続き院内外研修に積極的に参加するとともに、患者会や外部研修での講師、地域医療カンファレンスでの研究発表も行い、受け身ではなく自らが発信する活動を行うなど、各々が自己研鑽に努めた。また、感染対策や身体抑制など院内で組織されている委員会へ部署より代表として参加し、メンバーとして役割を担うことで、医療機関で働く職員であること、組織活動の在り方、活動内容などを自身が学ぶだけでなく、部署内で共有することの学びができた。

今年度も引き続き、法人内全体のソーシャルワーカー連絡会を開催し、円滑な連携ができるよう各所属機関のトピックス報告や情報共有、症例検討など行い相互研修に努めた。中堅ソーシャルワーカー研修として、今回は、三愛病院と合同で主任研修を開催した。主任職としての立場や役割など現状や課題、後輩の指導など相互研修を行った。また、近森病院にご協力いただき、ソーシャルワーカー管理者2名が研修に行かせていただいた。

た。ソーシャルワーカー組織運営などを学び、多忙な中、組織を超えた研修を快く受け入れていただいたことに感謝の思いと、新たな刺激と学びがあり、大変充実した実りの多い研修をさせていただきました。

今年度も学生実習を受け入れ、県立大学社会福祉学科や看護専門学校など、後進の教育に努めた。

③今後の課題

病院統合を意識し、早期より全体とは別に、ソーシャルワーカー間で業務確認や体制など確認し準備を行った。先行して3月より「ほそぎ連携センター」と改組され、ソーシャルワーカーが在宅部や病床管理室へも配置された。患者サポート室としての構成員増加と配属範囲の広がり、今後は業務全体把握や相互共有をどのように行うか、統合の強みを発揮することが課題である。

また、“連携上の課題検討ワーキング”に参加し、当院の現状や課題が把握され、地域包括や地域貢献などに向け、仁生会ネットワーク委員会とも協働しながら取り組んでいきたい。

(文責：患者サポート室長 辻 美知子)

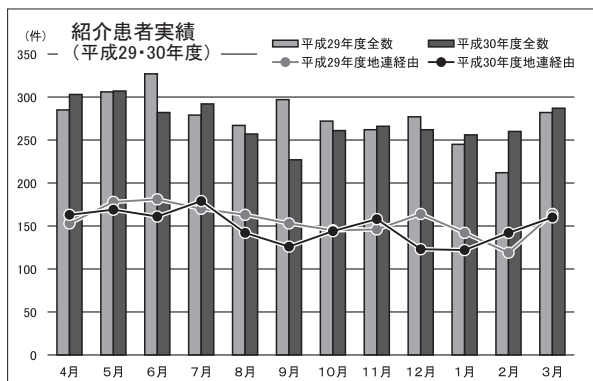
▶ 診療実績・業務実績統計

ほそぎ連携センター

■ 紹介患者実績

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計	前年度比(%)
平成30年度	全数	303	307	282	292	257	227	261	266	262	256	260	287	3,260	98.5
	地域連携推進センター経由	163	169	161	179	142	126	144	158	123	122	142	160	1,789	95.3
平成29年度	全数	285	306	327	279	267	297	272	262	277	245	212	282	3,311	100.4
	地域連携推進センター経由	153	178	181	170	163	153	145	146	164	142	119	164	1,878	91.3



在宅部

1 概要

所属長名：廣井 三紀

構成職員：看護職員 23名

介護職員 150名

合計人数 173名



平成30年6月14日「高知県介護事業所認証評価制度」で仁生会の介護事業所が認証を受けることができた。高知県介護人材応援サイト「カイゴのシゴト」でも、情報がアップされている。細木病院と細木ユニティ病院の再統合に際し、平成31年2月には、訪問看護ステーション高知西が、ユニティ病院の訪問看護室と先行統合し、「訪問看護ステーションほそぎ」と名称も新たにスタートした。

【達成状況】

院内外の研修については、自己研鑽も含めて、計画的に参加できていた。各職場には、慣れからくる弊害や、退職、人事異動などの波があったが、質の向上を目指す場として意見を言い合える風土づくりは、時間をかけて構築していかなければならない。服薬に関するインシデントはいずれもが、マニュアル通りに実行していれば防ぐことができた内容であった。今後も、事故対策は、共有していく。在宅部に教育係長を配置することで、さらなるレベルアップにつなげていきたい。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 健全で安定した事業所運営

- ①病院や他事業所との連携を密にし、在宅の利用者数増につなげる。
- ②各事業所の実績の推移を職員間で共有し、安定した経営状態を維持していくために、早めの対処をしていく。

【達成状況】

法人内の事業所間の連携を強化していくための検討を進め、意識を変えて取り組んでいった。

仁生会在宅ネットワーク委員会も継続しながら、法人内で情報を共有している。11月に、在宅サービス利用者の転倒骨折の入院が重なり、一時期実績が低下したが、感染症対策を早めに徹底し、平成30年度は、一昨年の冬季に起こったようなインフルエンザ感染症による収益減は発生しなかった。デイサービスいちご学校は、地域に開かれた運営を継続していき、年間を通して実績は前年度を上回り、サービス付き高齢者向け住宅イチゴいちも、目標の満床を開設後初めて達成できた。

在宅部全体の実績は、対前年比102%だった。

2. 安全で信頼される質の高い看護・介護サービスの提供と意見を言いやすい職場

- ①知識の習得、適切な判断能力を養うため、全員が院内外の研修会に計画的、積極的に参加し、質の高い看護・介護を提供する。
- ②質の高いコミュニケーションスキルを身に付け、お互いに良好な人間関係を保ち、部署内外の連携を良くする。
- ③初心を忘れることなく、マニュアルを順守し、間違いなどの気づきを言い合える職場の中で、事故を未然に防いでいく。

3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わり

- ①地域づくりに貢献できるように、仁生会の在宅部職員としての意識を持ちネットワークを広げ幅広い視野でさまざまな機関や人とつながりを持つ（I M A J I N活動）。
- ②在宅部BCPの見直しを継続しながら、防災活動を地域とともにやり、防災意識を内外に広めていく。
- ③まっことネット細木の活動を各自が責任を持って関わる。

【達成状況】

まっことネット細木で、職員が日替わりで当番をしていき、地域貢献活動は継続できている。

まっことネット細木が窓口となり、病院と地域をつなげ、地域住民力を向上する活動の「まっこと出前講座」は好評で、3月末までに12件、以後も依頼は寄せられている。防災フォーラムの役割も定着し、1月20日には、介良小学校の防災参観日で開講した出前講座「日用品で応急手当て」も高く評価できる。また「防災教室」の様子や、居宅訪問時の防災呼び掛けの取り組みが、2月22日と3月11日のNHKのニュースで放送された。

3 今後の課題

1. 教育係長の役割を生かし、困難事例の対応など事業所内の課題に対して早期に対応できるよう全体的な質の向上につなげたい。

- 地域と病院をつなぎ細木病院が地域に密着していることを広報していき、まっことネット細木の意義を高めていく。
- 介護人材確保に向けて、介護助手導入の検討を進めていく。

- 新たな地域包括支援センターの開設に向けて準備していく。

(文責：在宅部長 廣井 三紀)

● まっことネット細木

① 概要

所属長名：在宅部長 廣井 三紀
 構成職員：マッサージ師 2名
 +在宅部職員 171名（交替で担当）
 合計人数 173名

② 活動内容・目標に対する達成状況

平成29年6月1日に細木病院在宅部の組織として新設され、2年目となる平成30年度は、年間延べ1,941人、月平均162人（前年度比320%）の方が来所されました。月～金曜日まで、職員が交替で担当し在宅部全体で運営しています。活動内容は、大きくわけて、介護相談対応や情報発信など職員が主体となる活動と、地域の方に活動の場を提供しサポートしていく地域主体の活動の二つです。今年度は職員主体の活動に、新たに『笑いヨガ』と『まっこと出前講座』が加わりました。

【職員が主体となる活動】

- ①介護相談：月～金曜日 9時～16時まで電話や面談での介護相談に対応し、必要に応じて専門相談窓口を紹介しています。
- ②講座：職員が交代で月2回、趣味活動や健康増進につながるようなミニ講座を開催しています。
- ③生きがい交流広場：月1回、予約制の食事会を開催。1人で食事することの多い地域の高齢者を中心にみんなで温かい食事を囲んでいます。
- ④マッサージ：予約制のマッサージ施術やデイサービスへの出張マッサージを行っています。
- ⑤笑いヨガ：笑いヨガの講師による笑いを通じた健康体操を2～3カ月に1回行っています。
- ⑥まっこと出前講座：ご依頼により専門職員が地域に出向き講座を開催します。

【地域主体の活動】

- ①いきいき百歳体操：お世話役を中心に、週2回、地域の高齢者が集い一緒に体操しています。
- ②子育て広場：民生委員が主となり、地域の親子が自由に遊べる広場を月1回開催しています。

5月から開始した出前講座は、さまざまな方からのご依頼により公民館や小学校へ出向き、『日用品を利用した災害時の応急手当方法』『ストレスに強くなる方法』など、12講座を開催しました。6月からは、活動の様子を写真撮影し活動報告を作成する取り組みや、デイサービスへの出張マッサージなども始めました。さまざまな方が来所されるため、日ごろ高齢者を中心に対応している職員が戸惑う場面もあります。12月には細木ユニティ病院看護部の協力により精神科看護についての相談会を開催し、来所者への対応上の疑問点などにご助言いただき、職員間で共有しました。

地域主体の活動も回数を重ねるたびに参加者が増え、賑やかな日が多くなった印象です。子育て広場では、慣れた頃に幼稚園や保育園に入所する一方、また新たなメンバーが集うという流れで小さな出会いと別れがありました。

③ 今後の課題

気軽に立ち寄れる・相談できる・情報をつなげる場となり、細木病院職員として地域包括ケアシステムの土台となる地域づくりに貢献するという活動コンセプトを維持しつつ、活動内容を少し拡大し自分たちの対応方法のレベルアップに努めた1年間だったと思います。課題の一つであった病院との連携については、まっこと講座への講師など、協力いただく場面も増えてきました。今後も、地域の方々のご意見を伺いつつ、長く活動を継続していきたいと考えています。

(文責：在宅部課長 池上 美幸)

● ケアサポートセンターほそぎ

① 概要

所属長名：大峯 郁代
 構成職員：主任介護支援専門員 2名
 介護支援専門員 5名
 （常勤5名・非常勤2名）
 合計人数 7名

② 活動内容・目標に対する達成状況

ご利用者や病院からの依頼により、居宅サービス計画を作成、サービス利用状況の把握と関連機関との連携を図りつつサービス調整を行っています。介護保険利用に関する相談対応や介護保険関連書類の手続き代行なども行います。

1. 安定した事業所運営を効率的に行う。

新件依頼は断わることなく受け入れを行い、平成30年度は87件の新件依頼があり、月平均227件の実績を維持することができました。ご利用者の入院や退院時には病院と連携を図り、情報提供や病院職員から情報を収集し、ケアプラン作成に生かすことができました。また、入退院時加算やターミナル加算など必要な加算算定を行い、安定した事業所運営ができました。

2. 多職種と連携し質の高いチームケアが提供できるマネジメントを実践する。

ご利用者のさまざまなニーズに応えられるよう、多職種や他事業所との密な情報共有を行い、連携に努めました。他法人が運営する居宅介護支援事業所との事例検討会、地域包括支援センター実施の事例検討会への出席や、事業所内の定期的な事例検討会により、さまざまなケースに対して報告・連絡・相談を実施し、必要な計画修正や対応方法の検討を行い、質の高いチームケアに努めました。院内外研修には年間を通じて全員が参加し、事業所内での研修報告を通じて情報共有が行えました。事故防止のためにヒヤリハット報告を記録し、全員で周知徹底を図り再発防止に努めました。

3. 幅広い視野で地域づくりに貢献する。

ピュアリフレビル1F「まっことネット細木」の当番に全員が参加して、地域の相談窓口としての役割を積極的に担っています。また毎月第3土曜日の食事会「生きがい交流広場」も毎月の当番を決めて、年間を通じて全員が参加し、地域の方々の交流をお手伝いできました。今後も「まっことネット細木」



を通じた地域づくりに貢献していきたいと考えています。

③今後の課題

1. 終末期など医療依存度の高いご利用者や、独居のご利用者、認知症の方など、さまざまな課題を抱えながらも、住み慣れた地域・自宅で生活を希望される方が今後も増えていくことと思います。医療機関や高齢者支援センターなどの関連機関、多職種と連携を図りながら、ご本人やご家族の望む生活をこれからもサポートしていきたいと考えています。
2. 今後も他法人が運営する居宅介護支援事業所との事例検討会や研究会、地域包括支援センターが実施する事例検討会、院内外の研修に積極的に参加しての自己研鑽と、一人ひとりのレベルアップを図りながら、事業所全体で成長し合える職場づくりに取り組んでいきたいと思っています。

(文責：ケアサポートセンターほそぎ主任

大峯 郁代)

● 訪問看護ステーションほそぎ(旧 訪問看護ステーション高知西)



①概要

所属長名	石本 智枝
構成職員	看護師 8名
	理学療法士 5名(非常勤)
	作業療法士 2名
	(常勤・非常勤)
	言語聴覚士 1名(非常勤)
合計人数	16名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

訪問看護はかかりつけ医の指示書に基づいて各専門職が生活の場に出向き、同意された訪問看護計画書に沿ってサービスを展開している。管理者交代や統合に向けた取り組みを行い、平成30年度は訪問件数406件/月となり目標値の320件を上回った。医療依存度の高い利用者や独居のケースも増加し利用者

に合わせた個別対応をしている。

2. 目標に対する達成状況

- ①個性を尊重した質の高い看護サービスを展開する。

自宅で最期まで過ごしたいという希望の強い方4名の看取りに携わらせていただいた。カンファレンスや主治医・多職種と協働し個別的な看護の

提供を行った。

- ②安全性を考慮しながらリスクの早期発見に努め、具体的な解決策をアセスメントしチームケアを継続する。

病状の変化や褥瘡発生リスクの高い利用者などはリスクマネジメントを行いながら、24時間対応を行い、多職種と連携し症状悪化予防にも努めた。

- ③効率的、効果的な事業所運営を行い地域づくりに貢献する。

HU再統合に先駆け、平成31年2月の精神訪問看護室と先行統合に向けた準備にスタッフ一丸となり取り組んだ。また、地域活動や防災を通じて

各自の意識向上を図っていく。

③今後の課題

1. 身体、精神ともに看護を提供できるステーションとして、院内外への認知度を高め需要喚起し、質の向上と連携を強めることができるよう、自己研鑽に努める。
2. 事業所内で情報共有、何でも相談・連絡できる明るい職場風土をつくっていききたい。

(文責：訪問・通所担当係長 石本 智枝)

● 訪問リハビリテーション

①概要

所属長名：

リハビリテーション課 課長 藤本 弘昭

リハビリテーション課 在宅部門

訪問リハビリテーション リハビリテーション課

在宅担当・係長 橋田 寿恵

構成職員：理学療法士 6名

作業療法士 1名(非専従)

言語聴覚士 1名(非専従)

合計人数 8名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 各種加算の取得

継続して院内外連携を働き掛けることで細木病院退院直後から訪問リハビリを利用された方が増加し、短期集中リハビリテーション加算を取得することができた。また、利用者ごとに明確な目標設定を踏まえて介入することで利用者の介護度の軽減や社会参加支援を促すことができた。次年度にも社会参加支援加算、事業所評価加算を取得できることとなった。

2. 在宅部門リハビリ専門職の役割を果たす

認知症デイサービス事業所の職員や利用者に対し3カ月ごとのアセスメントと運動指導を行い生活機能向上連携加算取得に協力した。また、まっこと出前講座では転倒予防について地域住民に講義を行った。

3. スタッフ、他職種との連携と報・連・相の徹底

平成30年度介護報酬改定で、リハビリテーション計画書への医師の詳細な指示、リハビリテーション会議への医師の参加など医師との連携強化が記され



た。リハビリテーション計画書は作成手順を見直し、医師の指示を得られやすいよう電子カルテ内に取り込み作成することとした。また、松田名誉副院長の協力のもとリハビリテーション会議も1名の方に開催した。事業所内では朝礼・夕礼にて情報交換を行い、利用者に関する事項はカルテに記録した。また、在宅部門ミーティングを再開し情報共有に努めた。

③今後の課題

1. 地域包括ケアシステムの構築に向け、引き続き医療介護の強化が必要となってくる。特に医師の関与は必須であり、医師との連携を強化し、院内連携に努める。
2. 高知市で訪問リハビリテーションC型が開始される予定である。地域住民に対しても、リハビリテーション専門職の需要に応じられるよう、前向きに取り組んでいきたいと考えている。

(文責：リハビリテーション課在宅担当・係長 橋田 寿恵)

● ホームヘルパーステーション城西

①概要

所属長名：横山 数恵	
構成職員：介護福祉士	8名
ヘルパー2級	3名
合計人数	11名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 実績を意識し、地域に根差した事業所を目指す。

全職員で新件調整に取り組み対応、訪問件数を共有している。

訪問時の様子に、変わったことがあれば関係部署に都度報告し、また毎月モニタリングを行うことで信頼関係の構築に努めている。

2. 介護サービスの質の向上

研修には全員が参加し、伝達講習も行っている。

研修も体系が整ってきており、職員の経験に合わせた受講計画を立て参加している。

3. 地域の一員として業務に努める。

まっことネットほそぎの活動を通じて地域包括ケアシステムに基づいた視点を養うことができ、日々の業務に対する意識改革や自己の成長につながっている。防災活動にも参加し、得た知識は利用者への

ケアに生かされるようにしている。

③今後の課題

1. 地域に根差した事業所づくり

さらなる地域包括ケアシステムが求められていることから、どのようにすれば暮らしやすい地域となるか業務を通じて考え、組織として取り組めるようにしていく。

2. 実績に結びつくよう意識しながらの業務の拡大

事業所としての信頼は実績の裏付けがあってこそと思われる。これまで以上に職員全員で業務に取り組み、誇れる職場づくりを行う必要がある。

(文責：ホームヘルパーステーション城西主任

横山 数恵)

● 老人デイケアゆうゆう

①概要

管理代行者兼看看護師：下元 由実	
構成職員：理学療法士	1名
作業療法士	1名
看看護師	2名
准看護師	1名
介護福祉士	11名
言語聴覚士	1名(非常勤)
合計人数	17名



②活動内容・目標に対する達成状況

要支援1から要介護5の介護認定を受けた利用者が通所し、多職種で利用者一人ひとりの生活を基準に生活目標を定め、リハビリテーション職員による自宅訪問や退院・退所後の短期集中リハビリなどでスムーズな在宅生活への移行を支援している。このほか、リズム体操・失禁体操・口腔体操・転倒予防体操・筋力トレーニング・屋外歩行を行い、身体機能の維持を図っている。また、月に一回おやつレクリエーションを行うほか、その個人に合わせた調理訓練や、木工活動、園芸活動なども個別で行っている。送迎・入浴・食事

サービスを行うとともに、絵画・華道・茶道などの趣味活動を通して日常生活動作の回復を図り、地域社会で元気に暮らせるようサポートしている。

目標1. 健全で安定した事業運営ができる

毎月居宅介護支援事業にチラシを配布するほか、リハビリテーション会議を開催することで他事業所や他職種と顔が見える場ができ、連携が取りやすくなり、新規利用者28名中10名が、ケアサポートセンター以外からの紹介となった。また、お試し利用が19件あり、その内12名が利用へつながっている。感染予防についてはインフルエンザの流行前から利用

者に対し、感染対策について日々声掛けを行い、送迎・外出時のマスク着用やアルコールでの手指消毒、換気やこまめな水分補給に協力してもらった。スタッフに関しては、毎日の健康チェックを行っている。1月に同時期に4名がインフルエンザに罹患したが、感染対策を行っていたことで、昨年のようにアウトブレイクによる休業はなく、大幅に実績が落ち込むことはなかった。

目標2. 安全で信頼される質の高い介護・医療サービスの提供と意見を言いやすい職場づくり

職員全員が院内外の研修会に参加できた。また、各職種が多方面での研修会での学びを詰所で伝達講習し、8月中旬から毎日送迎終了後にその日の勤務者でカンファレンスを行い、いろいろな気づきや早期の情報収集ができるようになった。さらに、他職種と協働しながらサービスの提供もできた。

目標3. 安心して生活できる地域づくりに向けた関わりを行う

グループホームが地域の方と行ったスモークテント体験に参加するなど、活動を通して地域とつながりが持てつつあると考える。また、防災についてはBCP委員会を中心に見直しを行っている。今年度はアクションカードを勤務中に常時携帯できるよう工

夫し、緊急時に対応できるようにしている。担当会で、利用者・家族に対して防災についての活動や取り組みを伝え、防災意識を持ってもらえるように努めている。まっことネットについては職員全員が交代で当番に入り、活動に関わることができている。

③今後の課題

1. 医療・介護を取り巻く情勢の変化に対応できるような情報を収集し、利用者の自立支援に向け取り組み、必要に応じたりハビリテーションマネジメント加算や短期集中リハビリテーション実施加算の算定など利用者に寄り添いながら、効率的な事業所運営に努める。
2. 広報活動で情報を発信し、当事業所のことを多くの方に理解していただけるよう取り組み、新規利用者獲得につなげていく。
3. まっことネット細木を軸とした地域の交流の場に参加し、地域包括ケアシステムの構築につなげていきたい。

(文責：老人デイケアゆうゆう主任 下元 由実
・入交 喜美子)

● デイサービス赤とんぼ

①概要

所属長名：片岡 美女

構成職員：管理者、相談員、介護福祉士兼務	1名
看護師、機能訓練員兼務	1名
准看護師、機能訓練員兼務	1名
介護福祉士	3名
介護職員	2名
介護アルバイト	1名
調理員	1名
運転手	1名
合計人数	11名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

民家改修型デイサービスであることを強みとし、のどかな地域環境と家族的な雰囲気の中で認知症の中で認知症の利用者と家族が安心して生活できるよう支援している。事業所前にある菜園で収穫された無農薬野菜をふんだんに使った昼食は利用者さんにも大好評である。

2. 目標に対する達成状況

- ①質の高い、あたたかな介護サービスを提供する。
職員個々に努力しながらサービスを提供することに努めた。職員会でも活発な意見が交わされ、



十分でないと思われる部分については反省を踏まえ、次年度の課題として取り組んでいきたい。

②安定した事業所運営。

カレンダー配布や空き情報の郵送などを中心として広報を行った。また知人や地域の方への働き掛けも継続している。通所者のキャンセル日の振り替え対応も電話を受けた職員、伝言された職員が責任を持ち積極的に提案している。

③地域と連携を持ち安心と信頼される事業所を目指す。

グループホーム赤とんぼと合同で、防災訓練を開催し地域の方にも参加を呼び掛けた。地域交流の場として本年度も恒例のお祭りを開催したが、地域の学校行事と重なり参加人数が少なかったのは残念だった。BCP活動にはBCP委員会を中心として取り組んでいる。

③今後の課題

1. 通所者の高齢化が進む中で、ショートステイ利用や入院期間が長くなる傾向にある。体調の変化を見逃さず長期のキャンセルを未然に防ぎ、安定した業績を保てるよう職員全員が努力していきたい。

2. 職員全員が、利用される方に安心できる介護サービスが提供できるよう、介護の質のレベルアップと意識改革を行っていききたい。

(文責：デイサービス赤とんぼ管理者 片岡 美女)

● デイサービスさくらんぼ

①概要

所属長名：相談員・看護職兼務 山口 三喜

構成職員：介護福祉士	5名
看護師	1名
准看護師	1名
介護アルバイト	2名
調理員	1名
運転手	1名
合計人数	11名



②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

当事業所では、いつ来ても「楽しかった。ここに来たらホッとすると」言ってもらえるデイサービスを目指し、日々活動しています。利用者により良い介護を提供できるよう、職員一同、日々研鑽と努力を積み重ね、自省することで介護の質を高めてきました。毎月の手芸では、制作の喜びや達成感を感じていただけるよう季節に沿った作品を選び、個別でも集団でも作品制作に取り組んできました。体操や調理レクリエーションなどで介護度の異なる場合でも、担当者を中心に個別ケアを行うことで、楽しく通え、喜んでいただけるようプログラムの充実化を心掛けています。また、今年度は念願の耐震工事も完了し、より安全な環境下でご利用いただけるようになったことを職員一同、心から喜んでいきます。

2. 目標に対する達成状況

- ①空き情報を常に念頭に置き振替対応を行い、一件一件ご利用を大事に積み重ね、実績増につなげるよう業務にあたる。
 - ・体調の変化に注意し、早めの受診を促すことで重症化を防ぎ、長期のキャンセルに至らないよう努めました。連絡帳の活用や細やかな申し送り、日々情報共有ができています。職員間でキャンセル対応として振替利用を提案する運用も定着しており、減収を防いでいます。今後も利用者の生活環境、背景を考慮した対応を行い、職員一人ひとりが事業所を運営しているという自覚のもと、活動に取り組みたいと考えます。
- ②コミュニケーションスキルを高め、質の高い介護を共有する。

・職員間の声掛けやほう・れん・そうを心掛けて情報共有し、連携を取りやすい職場環境になってきています。認知症ケアの提供について院内外の研修に参加、研修後の伝達講習を行うことで職員それぞれが業務の振り返りと改善に生かせるよう努めました。研修などに参加することで知識や考え方を業務に生かし、より質の高いケアの提供に努めます。

- ③地域の方が気軽に立ち寄ることができるデイサービスを目指す。

・先述の耐震工事は地域の方や利用者のご家族のご協力あってのことでした。来年度には高知市の「津波避難ビル」の指定を受ける方針です。地域の方との防災訓練を予定通り年2回開催し、防災意識を高めることができました。スモークテント体験では、予想より多くの参加を得られましたが、地域の方の高齢化が進むなか、毎月の行事参加者は以前より少なくなっています。直接の声掛けや防災意識の共有は今後も継続したいと考えます。

③今後の課題

1. 今後も職員のレベルアップを目指し、内外の研修に積極的に参加する。利用者やそのご家族が安心して通い、楽しんでいただけるよう各自のスキルを磨きながら充実した介護力をつけていきます。
2. 耐震化を受け、安心して通所できる事業所として防災訓練の継続やBCPの見直しを行い、GHさくらんぼとともに「津波避難ビル」としての機能を充実化します。

(文責：デイサービスさくらんぼ 山口 三喜)

● グループホーム赤とんぼ



①概要

管理者・介護職兼務：齋藤 顕良	
構成員：介護支援専門員・計画作成担当者	1名
看護職員	1名
介護福祉士	7名
ヘルパー	2名
合計人数	11名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

利用者一人ひとりの状況に応じ、天気の良い日には近所の散歩やドライブなど、外出支援を多く取り入れています。また、ボランティアによる歌や演奏などのイベント、風船バレーやいきいき百歳体操、カラオケといった室内レクリエーションを通じ、当事業所での生活を楽しんでいただけるよう努めています。

2. 目標に対する達成状況

- ①利用者やご家族から、安全で信頼される質の高い介護サービスを提供する。
 - ・適宜、利用者のADLや状態に応じた対応を取り、医療とも連携しました。今後も他職種の連携のもと、質の高い介護サービスを提供していきます。
- ②ご家族や地域の方と良好な関係を築き、地域に愛される事業所を目指す。



- ・当事業所での取り組みを、防災教室、避難訓練、赤とんぼ祭り、まっこと講座などを通じて広報し続けていきます。
- ③専門職として、知識・技術の向上を図る。
 - ・全職員が院内外の研修に積極的に参加しています。今後も介護、防災などさまざまな研修に参加し、知識を蓄え、技術を高めます。

③今後の課題

昨年度は骨折や持病の悪化による入院や、さらに病状の急変があり、2名の利用者が退去を余儀なくされたため、空室を利用してショートステイを受け入れたこともありました。利用者の加齢に伴うADLの低下などには看護職員や主治医と緊密な連携を取り、その人らしく生活できるように支援していきます。

(文責：グループホーム赤とんぼ主任 齋藤 顕良)

● グループホームさくらんぼ



①概要

所属長名：小原 純子	
構成職員：管理者：介護福祉士	1名
計画作成・介護支援専門員・看護師	1名
計画作成・介護福祉士	1名
介護福祉士	12名
ヘルパー	3名
調理	2名
合計人数	20名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

高い防災意識が求められる昨今、当事業所さくらんぼビルでは昨年未からの耐震改修工事が無事完了しました。工事中は利用者にご不便、ご迷惑をおかけしましたが、「津波避難ビル」として高知市の指定を受ける方針となり、南海トラフ地震に備えた安



心、安全な施設のもと、地域住民との共助に努めます。

業務においては、利用者の高齢化が進み、身体的機能の低下、認知症状の進行などがみられる中限られた職員数で利用者との関わりを密にすることが課題でした。このため、ワーキンググループ「食の改善」を起ち上げ、ヨシケイ、こうち生協の宅食サー

ビスを採用したことで、時間的、金銭的コストの削減と業務の効率化につながっています。

2. 目標に対する達成状況

①健全で安定した事業所運営。

- ・在宅部会で報告された実績を全職員で共有し、増収増益を意識するよう取り組みました。
- ・I M A J I N活動、H U再統合を念頭に、利用者の異変時は法人内の医療機関に早めにつなげるようにしました。

②安全・安心できるサービスの提供をし、風通しの良い職場づくりを目指す。

- ・院内外の研修に参加し、伝達講習やミニ勉強会などで情報を共有しながら自己研鑽に努めています。
- ・職員間でケアの質を統一し、事故のないよう気を引き締めて業務に取り組んでいます。

③地域密着型事業所として地域交流の輪を広げていく。

- ・地域住民との交流の場に積極的に参加し、当事業

所の活動を広報しました。

- ・BCP委員会での情報を共有し、防災意識を高め、シェイクアウト訓練や地域住民との防災訓練などで災害時に協力し合えるような関係性を構築しています。

③今後の課題

利用者の高齢化が進み、平均年齢は88歳に上りました。入居時に90歳を超えている利用者も目立ちます。そのため身体的機能の低下、認知症状の進行により、退去を余儀なくされるケースも珍しくありません。わずかな異変も見逃ごすことなく医療につなげるほか、研修などに積極的に参加して身体的機能の維持、適切な認知症対応ができる体制を整えます。こうした取り組みで介護の質を向上させ、利用者が少しでも長く当事業所での生活を継続できるよう努めます。また、高齢化が利用者だけでなく職員でも進んでいる実態を踏まえ、業務を見直し効率化を図っていきます。

(文責：グループホームさくらんぼ主任 小原 純子)

● グループホーム「にこにこ西町」「のびのび西町」

①概要

所属長名：筒井 千津子

構成職員：

計画作成（介護支援専門員）	1名
計画作成（介護福祉士）	1名
看護師（管理者兼務1名含む）	2名
介護福祉士（計画作成兼務2名含む）	16名
1級ヘルパー	1名
2級ヘルパー	4名
合計人数	22名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 活動内容

毎日の生活の中で一人ひとりの利用者さんが役割活動に参加しつつ、「地域見守りパトロール」や「合同防災訓練」などを通じて、近隣の方々との交流の機会を持ち、地域に存在感のある事業所活動をともに行ってきました。

また、ご家族参加の行事も企画し、春にはお花見、秋にはお茶会でバルーンアートの体験を取り入れ、ご家族や近隣の方との交流を深めることができました。

スモークテントや非常食の試食、防災講座など、防災活動も定期的に開催して地域で助け合いのできる環境づくりに取り組みました。

2. 目標に対する達成状況

- 1) 利用者・家族のニーズに応じた質の高いケアを



提供できる。

地域運営推進会議やご家族の来訪時に、運営へのご意見や要望をいただき、職員全員で改善への取り組みを実施してきました。院内・院外への研修参加も継続し、本年度は計30件の研修に参加、職員会や資料の回覧で伝達講習も実施し、新たな知識習得、実践力の向上に努めました。

- 2) 安心して生活できる地域づくりに貢献し、信頼される事業所運営を行う。

日頃から「地域パトロール」でのあいさつ運動を継続し、職員が町内会の不燃物当番や河川清掃に参加、防災訓練の開催などで地域の方と交流し、地域の一員としての関係性を築いています。

- 3) 健全で安定した事業所運営ができる。業務の見直しを行い、効率化により入居者と関

わる時間が増え、ケアの充実が図れました。また、体調不良時には医療機関との連携を図り、迅速な対応で重症化を予防できています。

③今後の課題

加齢に伴い、身体機能や認知症状の進行が見られますが、ご利用者一人ひとりに寄り添い「その人らしさ」を大切に、自信を持って、生きがいのある生活がで

きるように支援していきます。

また、質の高い認知症ケアの提供ができるよう、院内・院外の研修会に積極的に参加し、認知症ケアの専門職として職員のスキルアップを図ります。入居者・ご家族・職員が共にグループホーム西町で過ごせて良かったと感じていただけるように努めてまいります。

(文責：グループホーム西町主任 筒井 千津子)

● グループホーム ハッピー万々

①概要

所属長名：堀本 佐知（介護福祉士）	
構成職員：介護支援専門員（介護福祉士）	1名
計画作成（介護福祉士）	1名
看護師	1名
介護福祉士	8名
実務者研修修了者	4名
1級ヘルパー	1名
2級ヘルパー	4名
合計人数	20名



行事や情報を伝えてくださっています。また町内会の防災訓練にも事業所として参加しています。今後も継続して地域の共助力向上に寄与していきます。

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 共同生活の中で「その人らしい生活」を継続できるように個別支援を目指す。
共同生活の中で「その人らしい生活」を継続できるように情報の共有を図り職員の連携を密にして、個別支援に努めました。利用者個々の状態をよく知った上で支援を行うと、その人のリスクを的確に判断することができて、結果としてインシデントやアクシデントの減少につながりました。
2. 習得した緊急時および災害時の対応を利用者と共に実践し定着を図る。
緊急時・災害時の対応についても継続して訓練や研修を通して学び、実践の大切さは職員間でも浸透しています。現在自部署には防災士が4名おり、毎年1名は自己啓発として防災士研修を受講し、資格取得に努めています。
3. ご家族・地域・他事業所との交流を深める。
地域運営推進会議では町内会長さんが毎回地域の

③今後の課題

1. 今年度は当事業所では珍しく、4名の退去がありました。新たな入居により空室にはなりませんでしたが、利用者の健康状態の把握に努め、日課の体操や散歩を継続し、明るく笑いのある日常を少しでも長く過ごしていただけるよう取り組むことが課題と考えます。
2. 職員は認知症介護の専門職として、また組織の一員としての意識が向上していると感じます。業務内容の理解、相互協力体制の確立に努めます。

(文責：グループホーム担当係長兼務
グループホームハッピー万々管理者
堀本 佐知)

● デイサービス いちご学校

①概要

所属長名：笹 麻子	
構成職員：看護師	2名
介護福祉士	6名
理学療法士	1名
作業療法士	1名
合計人数	10名

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域に密着した事業所運営
 - ・定期的な運営推進会議を開催することで地域住民との連携を図る。
 - ・施設1階を地域住民に開放することで、いちご学校の認知度の周知を図る。
 - ・BCPの定期的な見直し、地域の防災活動に参加

し防災意識を高めていく。

運営推進会議、防災活動は、地域の方に参加していただき、また月1回のイベント開催、1階スペースを地域の方に開放したことで、いちご学校の認知度が少しずつ上がった。

2. 新規利用者の獲得

- ・居宅介護支援事業所へ定期的に訪問し情報交換をする。
- ・地域への広報活動（パンフレット配布など）。
- ・毎月の定例会で実績報告を行い、情報を共有することによって職員一人ひとりが経営に参画する意識を持つ。

月1回居宅介護支援事業所へ訪問しPR活動を行うことで、居宅介護支援事業所からの紹介で時間を短縮したり、要支援の利用者の入浴を受けたりした。それらの取り組みが新規利用者の獲得につながり、業績は前年比123.6%だった。

3. 看護・介護の専門性と接遇マナーの向上

- ・外部研修に積極的に参加し、職員間においては、伝達講習をすることで知識の共有を行い、質の高い看護、介護を提供する。
- ・利用者満足度調査を行う。
- ・コミュニケーションスキルの向上を図り、職員間の良好な人間関係を築く。

部内外の研修に積極的に参加し、伝達講習をすることで知識の向上を図ることができた。年1回のアンケート調査では特に要望はなかったが、趣味活動、入浴に関しては他と比べれば満足度が低いので、できる範囲での個別対応に努めるようにした。



4. 利用者に寄り添い個々のニーズに対応した介護の提供

- ・定期的にカンファレンスを行い、利用者の情報を共有したケアを実践する。
定期的にカンファレンスを行い、情報を共有するため、連絡ノートを活用することで統一したケアをすることができた。

③今後の課題

1. 1階スペースを地域の方に活用していただき、イベントの開催と広報に力を入れ、地域に密着した事業所運営を目指す。
2. 居宅介護支援事業所訪問によるPR活動の強化で年間実績は上がりつつあるが、これに一層力を入れ、さらに利用者数を増やせるように努めたい。
3. 質の高い介護が提供できるよう、研修に積極的に参加し、サービスの質の向上を図る。

(文責：デイサービスいちご学校主任 笹 麻子)

● サービス付き高齢者向け住宅「イチゴいちえ」

①概要

所属長名：藤崎 明美

構成職員：管理者	介護福祉士	1名
	看護師	1名
	日勤夜勤従事者	2名
	日勤従事者（学生含）	2名
	夜勤専従者	2名
	夜勤助勤者	1名
	合計人数	9名

②活動内容・目標に対する達成状況

(活動内容)

「イチゴいちえ」は平成20年4月1日に介良地区で開設し10周年を迎えました。

入居者、そのご家族、保育園の子どもたち、ボランティアの協力で10周年をお祝いすることができ、これからも入居者さまが地域の一員として安心して生活できるように努めてまいります。



(目標に対する達成状況)

1. 健全で安定した事業所運営
 - ・各病院事業所への広報活動を継続し、入居者数増につなげる。
 - ・事業所の実績推移を職員間で共有し、職員一人ひとりが経営に参画する意識を持つ。
 - ・入居者・家族の意見を取り入れ居心地の良い場所

を提供できるようにする。

(評価)定期的に病院・地域包括支援センター・居宅などに訪問やファックスで空室状況をお知らせし、新規入居者を獲得することができた。また、地域での知名度アップを図るためパンフレット配布に職員全員(夜勤専従者を除く)で取り組んだ。これらの取り組みが奏功し、業績は前年比113.4%、目標の満床にあと一步と大いに前進した。運営懇談会で施設設備や食事内容・健康管理に関して意見交換し、居心地の良い場所を提供できるように努めた。

2. 看護・介護の専門性と意見の言いやすい職場づくり

- ・院内外の研修へ積極的に参加し、スタッフ個々のスキルアップに努める。必要時質の高い看護・介護を提供する。
- ・コミュニケーションスキルの向上を図り、職員間の良好な人間関係を築く。
- ・マニュアルを遵守し、間違いなどの気づきを言い合える職場の中で事故を未然に防ぐ。

(評価)内部研修には、順番に積極的に参加でき、資料提供や個々に伝達講習を行った。外部研修には一部の職員しか参加できておらず、知識の

向上を図るためにも参加を促していきたい。退職や異動があったが、連絡ノートを活用しスタッフ間で情報を共有することができた。

3. 地域の一員として、地域への関わり

- ・地域の行事や防災活動に参加し地域住民との連携を図る。
 - ・BCPの見直しと作成・訓練をする。
- (評価)防災出前講座を開催したり、まっこと出前講座(平成30年12月から)を定期的で開催し、少しずつだが地域の方もイチゴいちえに足を運んでくれるようになってきている。イチゴいちえ独自に南海トラフ地震を想定した訓練を行い、アクションカードを見直した。

③今後の課題

1. 定期的なまっこと出前講座を開催することで、地域との交流につなげていきたい。
2. 加齢に伴う身体機能低下や認知面・精神面の低下がみられ、一人で病院に行くことが難しくなっている方が増えている。訪問診療を活用し新たな診療体制として確立していく。

(文責：サービス付き高齢者向け住宅
イチゴいちえ主任 藤崎 明美)

● 高知市北部地域高齢者支援センター城西出張所

①概要

城西出張所は高知市より委託を受け、北部地域高齢者支援センターの出張所として、上街・高知街・小高坂地区と旭・南地区の一部の65歳以上の高齢者の方を対象に、地域の身近な相談窓口として介護や生活に関する全般的な相談対応・介護予防事業の普及啓発、地域のネットワークづくりなどの業務を行っている。

構成職員：介護支援専門員 2名

<担当地区(平成30年4月1日現在)>

	総人口	高齢者人口	65歳以上世帯数	独居高齢者数	高齢化率
城西地区	17,524	5,445	31.00%	2,467	31.17%

<対応件数(平成30年度)>

相談延べ件数	訪問	来所	電話	会議	同行
2,773	766	263	1,492	19	143

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 地域の高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けられるよう、総合的に相談に応じ支援する。
 - ・認知症や精神疾患のある独居高齢者の困難事例が



多かったが、時間をかけて対応し、安心して暮らせるように支援した。

- ・がん末期の高齢者に障害のある息子さんがおり、今後について高齢者本人より相談を受けた。障害福祉課、社会福祉協議会、息子さんの介護支援専門員や就労先の担当者と話し合い、高齢者が亡くなる前に就労継続しながら施設入所につなげることができた。
2. 住民による地域での支え合いの仕組みを作り住民と共に行う。
 - ・上町「お気楽サロン」で、昨年度マップをつくり、災害時援護者の確認を行ったので、本年度は防災訓練を避難先の上街保育園で行った。
 - ・「ココソサン」の百歳体操会場が新たに開設された。

- ・小高坂地区で「地域担い手ネットワークづくり」の話し合いが、地域の17の各種団体の参加で行われた。
 - ・宅老所「しばてんハウス」と地域住民が、高齢者や子ども、障害者の境なくみんなが参加できる「しばてん祭り」を9月29日の開催に向け準備をしている。
 - ・小高坂地区で独居高齢者の見守りシステムづくりとして「向こう三軒両隣り見守り運動」の準備を行っている。
3. 介護予防の普及啓発の充実に努める。
- ・地域の高齢者や住民の集まりに積極的に参加し、出前講座を年6回行った。
 - ・小高坂小学校や第四小学校の児童クラブで認知症サポーター養成講座を行い、子どもの時代から認知症への理解を深める試みを行った。
 - ・地域の郵便局員や生命保険会社でも認知症サポーター養成講座を行った。

③今後の課題

1. 身寄りのない独居高齢者が認知症になったり、生活困窮で行き詰まって足の踏み場もないほど家の中にゴミが蓄積してしまい、近隣の住民から苦情が寄せられたりする事例が多くなってきている。元気なうちから自分の最期をどうするのか、何を望むのかを考えることが大事であると説いていきたい。同時に、近隣住民との良好な関係を構築することで孤立せず助け合いの関係が生まれるので、その橋渡しも行っていきたいと考える。
2. 高齢者支援センター出張所が来年度からは、高知市の地域包括支援センターに移行する。今後は高知市北部地域高齢者支援センターが行っていた業務も遂行しなければならない。円滑な地域包括ケアシステムの構築のため、住民力の向上を目標に掲げ、高齢や障害、社会生活に順応できていない子どもなど問題が重複した事例も考えられるので、業務がスムーズに遂行されるよう知識と知恵をもって対応していきたい。

(文責：西本 かがり)

委員会

定例会	診療運営会議
	経営会議
	幹部会議
	医局会議
委員会	倫理委員会 →臨床倫理部会
	診療記録開示検討委員会
	臨床研修管理委員会 →臨床研修関係者会議 →臨床研修WG
	医療安全管理委員会 →医療安全管理室会議 →医療安全推進委員会
	院内感染対策委員会 →ICT委員会
	大規模災害対策委員会
	医療ガス安全・管理委員会
	臨床検査適正化委員会
	褥瘡対策委員会
	身体抑制委員会
	NST委員会

委員会	リハビリテーション委員会
	回復期リハ棟システム委員会 →回復期リハプロセス委員会 →脳卒中パス委員会
	栄養管理委員会
	慢性期病床運営委員会 →南棟適正配置委員会
	情報システム委員会
	診療情報管理委員会 →クリニカルパス委員会 →DPC管理委員会
	手術麻酔管理委員会
	輸血療法委員会
	薬事委員会
	図書委員会
	安全衛生委員会
	健康管理センター会議
	救急委員会 →救急WG
	地域連携推進委員会
	虐待等対策委員会

委員会	接遇向上委員会
	HU再統合委員会 →HU診療協力WG
	抗がん剤レジメン管理委員会
	事務部門委員会
仁生会主体	広報委員会
	仁生会教育委員会
	人事制度検討委員会
	仁生会年報編集委員会
	看護部師長会
看護部内委員会	看護部副師長会
	看護部主任会
	看護教育委員会
	看護部業務委員会
	看護部医療安全委員会
	看護部・褥瘡対策委員会
	看護部記録委員会
	看護部実習指導者委員会
	認定看護師・専門看護師連絡会

※上記の「→」は、委員会の下部組織です。

医療安全管理委員会 / 医療安全管理室

1 平成30年度 目的・目標

1. 医療事故発生時の適切な対処と医療事故を未然に防ぐための対策の検討を行う。
2. 医療事故発生時の対処の適正化と医療事故発生の防止、安全文化の醸成を図る。



2 活動内容・目標に対する達成状況

医療安全管理室は、病院における医療事故の防止および医療の安全性の向上に関する体制の強化を図り、実践的活動を行うことを目的とし、医療安全管理室長1名（医療安全管理委員長・兼任）、医療安全管理副室長（専従医療安全管理者）1名、他、各部門より代表の職員9名の構成メンバーで取り組んでいる。

医療安全管理委員会は、月1回の定例会議で毎月の事故集計結果報告やレベル3以上の事故報告、薬剤事例に関する内容、院内巡視結果報告などを行い検討した。また、日本医療機能評価機構の医療安全情報を伝達し情報共有を行った。報告件数は、合計1,044件（インシデント1,022件、アクシデント16件、医師報告6件）で前年度より150件増加したが、アクシデント報告件数（レベル3以上）は10件減少した。（件数・アクシデント内容は表・グラフ参照）。また、インシデント、アクシデントの報告種類は、転倒転落338件（33%）、

薬剤関係271件（26%）、ライン管理99件（10%）、病院食87件（8%）、創傷73件（7%）、事務処理38件（5%）、検査42件（4%）であった。

厚生労働省の「医療安全推進週間」に合わせ、職員から「医療安全川柳」を募集し、平成30年11月27日～平成31年1月31日まで掲示した。医療安全研修会は、7月「2017年度医療事故報告」「コミュニケーションエラー」、2月「コミュニケーションエラーPart 2」について研修会を行った。また、10月には、「医療メデイエーションの基本と実践」と題し日本メデイエーター協会シニアトレーナー徳永盛保先生による講演会を開催した。医療安全研修会への職員参加率も95～96%を維持できた。その他、他院で発生した医療事故や当院でのインシデントに対するニュースを職員が情報共有できるように医療安全情報として全部署へ発信した。事故発生時には各部署でのカンファレンスに参加することで要因分析や対策を検討することができた。

また本年度より、医療安全対策地域連携加算1を取得し、加算1・2施設との相互訪問評価を受けることにより連携を図ることができるようになった。

来年度からのユニティ病院との再統合に向け、医療事故報告書の見直しを行った。病床数および職員数も

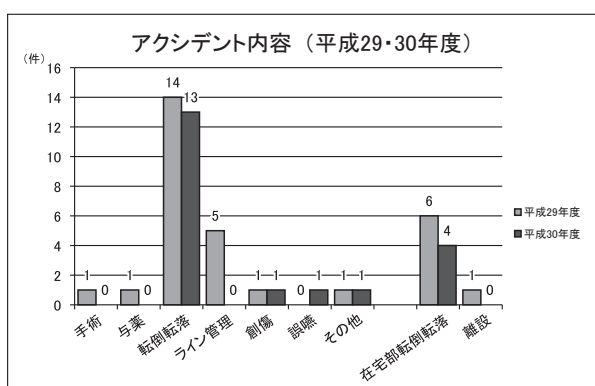
多くなるため、医療安全管理者・医薬品安全管理責任者・医療機器安全管理責任者と協力し、職員からの声に耳を傾けるとともに職員へ医療安全に関する情報を発信し、安全な医療・介護が提供できる環境を整えていきたい。

■平成30年度 細木病院インシデント・アクシデント・医師報告件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度
インシデント	82	76	83	99	74	66	93	88	95	89	81	96	1,022	866
アクシデント	3	1	0	1	1	1	2	1	1	0	3	2	16	23
医師事例報告	1	0	1	0	0	0	0	0	1	1	0	2	6	5

■平成30年度 在宅部インシデント・アクシデント報告件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	平成29年度
インシデント	13	10	4	3	8	9	3	10	6	10	11	6	93	87
アクシデント	1	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	4	7



(文責：医療安全管理者 井上 富美)

● 院内感染対策委員会 / 院内感染対策室



①平成30年度 目的・目標

1. H U 統合に向けて、感染防止対策のシステムの見直しや改善を行う
2. 新規事業のシステム作り (A S T、リンクスタッフ会の企画運営)
3. 他施設との連携、指摘事項への改善を行う

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 院内感染対策委員会 (以下、I C C) および感染対策チーム (以下、I C T) 会議開催
2. 感染対策研修会 I (年3回)、感染対策研修会 II (年2回) の開催
3. 薬剤耐性菌、職員感染、アルコール使用量、デバイスサーベイランス、針刺し事故サーベイランス (毎月)
4. アウトブレイク対応 (インフルエンザ)
5. 感染情報週報の発行 (毎週)
6. I C T ラウンド (週1回)
7. 感染防止対策加算2施設との合同カンファレンス開催 (年4回)



8. 地域連携加算施設 (加算1施設) との相互訪問 (年3回)
9. 職員のワクチン接種の推進 (インフルエンザ、B型肝炎)
10. 感染マニュアルの改訂
11. 抗菌薬適正使用支援チーム (A S T) による抗菌薬カンファレンス (週1回)
12. 感染リンクスタッフ会の開催 (月1回)

平成30年度の診療報酬改定により、新設された抗菌

薬適正使用加算（AST）の算定を5月から開始した。薬剤師を中心に週1回抗菌薬の適正使用についての検討などAST活動が実施されている。感染防止対策の活動を広げていくために感染リンクスタッフ会を設立することができ、看護師だけでなく多職種と協同で行うことができるようになってきた。

平成31年4月の細木・ユニティ病院の統合に向けて、毎月の感染ワーキンググループで打ち合わせを行い、少しずつ準備を進めていくことができた。10月の集

■平成30年度 感染対策研修会開催実績

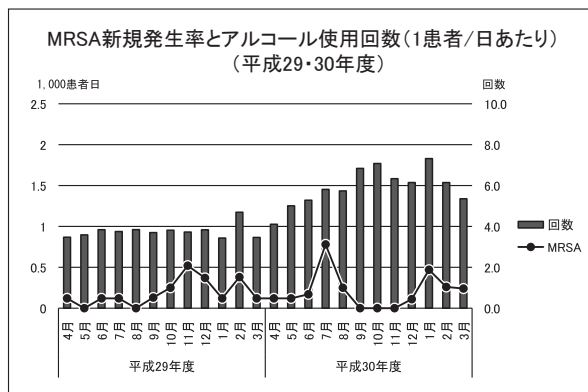
月	テーマ	講師	参加人数
5月	薬剤耐性（AMR）対策	ICD	63名
6月	手指衛生と環境整備	ICN	513名 (94%)
8月	個人防護具	ICN	90名
9月	抗菌薬の適正使用	薬剤師	76名
10月	アウトブレイク防止 ～インフルエンザとノロウイルス対策～	ICN	654名 (94%)
11月	吐物処理（演習）2回	リンクスタッフ会	76名
12月	当院使用の感染症迅速検査	臨床検査技師	65名

（ ）は参加率

研修会は2つの病院の合同開催にしたり、新しい機材の導入時には一緒に説明会に参加してもらったり、統合後を意識して対応を行うことができた。

今年度の新年早々からインフルエンザのアウトブレイクが発生し、今までより規模も大きく時間を要したが、直接対応に関わっていた現場スタッフだけでなく事務部門など他部門の協力もあり、たくさんの方の協力のもと無事に収束を迎えることができた。

■業務実績



（文責：院内感染管理者 土居 世知）

● 褥瘡対策委員会

1 平成30年度 目的・目標

目的

病院全体での褥瘡発生・予防および発症後早期からの適切な褥瘡対策を討議・検討し、その効果が効率な推進を図る

目標

1. 推定院内発生率1%以下
2. スタッフ教育を行い、褥瘡に関する知識の向上

2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

1. 毎月 第3月曜日 定例会
2. 毎週月曜日 全病棟対象褥瘡回診（専任Dr WOC）
3. 集合教育の開催
4. 「創傷ケアマニュアル」作成

目標に対する達成状況

今年度より、褥瘡回診に血管外科医と皮膚科医が参加するようになり、今までと違う視点での処置の提供や内服薬の使用を開始した。また、褥瘡以外の

皮膚疾患に対してもその場で対応可能となり、下肢血流評価なども可能となった。さらに3月より治療までの期間短縮などの目的にて局所陰圧閉鎖療法（NPWT）を開始した。

院内での褥瘡予防として適切なポジショニングが重要であると考え、本年度はポジショニング力の向上を目指しリハビリテーション課の協力のもと、新館・南館に分かれて体験型のポジショニング研修を開催した。講義のみでの研修より、体験することによりすぐに実践につなげることが可能であるとの評価もあり、今後も継続し、基礎編・応用編などの研修開催を行っていきたいと考えている。

今まで、委員会で検討したことを書面で配布はしていたが、褥瘡を含めて創傷ケアについてのマニュアルがなかった。そのため、「創傷ケアマニュアル」の作成を開始した。またHU統合により、さらに具体的に記載する必要もあり、年度内に完成はできていないが、次年度には完成をさせ、院内統一されたケア提供ができるよう取り組んでいく。

（文責：褥瘡対策委員会委員長 上地 一平）



1 平成30年度 目的・目標

目的

1. 入院患者の“低栄養状態”を早期に発見し改善するために院内の体制を整える
2. チームで低栄養状態に関する評価を行い適切な栄養療法を提案・実施する

目標

「濃厚流動食のアルゴリズムの活用(経腸栄養トラブル対策)」

2 活動内容・目標に対する達成状況

活動内容

1. 毎週木曜日 多職種参加のラウンドとカンファレンス
2. 2カ月に1回委員会、毎月の勉強会
3. 年1回NSTセミナー

目標に対する達成状況

今年度は給食部門の直営への変更に伴い、栄養管理室は多忙を極めた。円滑な給食管理の運営を優先させるために6月までNSTカンファレンスのみ活

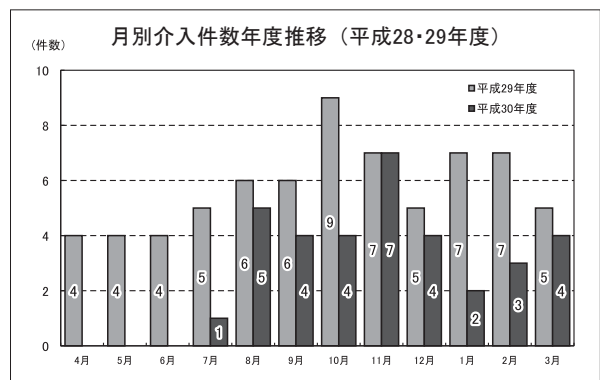
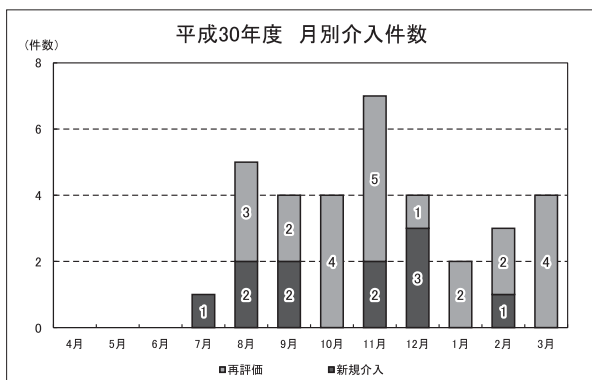
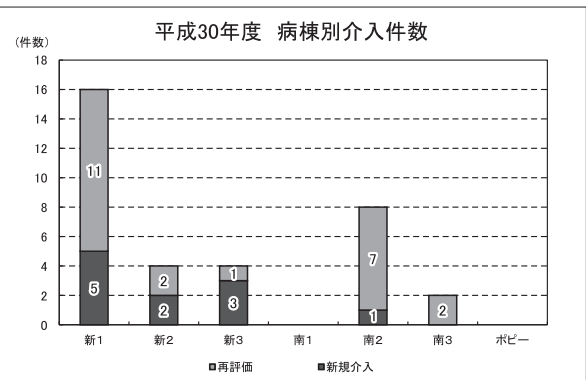
動を一時休止とした。その結果今年度のNST介入件数は前年度より低い結果を余儀なくされた。昨年度に作成した「濃厚流動食のアルゴリズム(経腸栄養トラブル対策)」については各部署に配置してある院内約束食事箋に添付し誰もが活用できるようにした。年度末のNST委員を対象としたアンケート結果では「活用できた」が31%、「活用できなかった」が69%と低い結果となったが、活用できなかった理由は、「対象者がいなかった」「活用するタイミングがなかった」であった。管理栄養士間では、新人でも病棟や医師からの問い合わせに対しアルゴリズムを参照しながら、統一した返答が可能となっており、一定の評価は得られたと思われる。

またリハビリテーション課の鎌倉宏行理学療法士が高知大学医学部附属病院での40時間の研修を経て栄養サポートチーム専門療法士の試験にみごと合格した。リハビリテーション課でのNST研修報告会を開催し、NSTの浸透にも尽力された。

日本静脈経腸栄養学会によるNST稼働施設認定も無事更新させることができた。今後も多職種がそれぞれ活躍できるNSTチームを目指していきたい。

平成30年度 NST委員会 勉強会一覧

実施月	勉強会の内容	演者
5月	超高齢社会における糖尿病治療最前線	アボット(オンデマンド・荒木厚先生)
6月	スキンケア	ニュートリー(株)
7月	摂食嚥下と栄養	(株)クリニコ
8月	NSTセミナー腸内細菌・排便コントロール	ミヤリサン製薬(株)
9月	適切な経腸栄養の投与手技	(株)大塚製薬工場
10月	食欲に影響を与える薬剤	内科 丸山博医師
11月	当院採用の経腸栄養剤と補助栄養食品	栄養管理室 西内衣舞
1月	慢性腎臓病と創傷治癒におけるアミノ酸のお話	キリン(株)
2月	症例報告	リハビリテーション課理学療法士(NST専門療法士) 鎌倉宏行



(文責：NST委員 安岡 美佐)

● 薬事委員会

1 平成30年度 目的・目標

1. 医薬品の採用・削除を審議する。
2. 医薬品使用の適正化並びに円滑化を図る。

2 活動内容・目標に対する達成状況

1. 委員会を4回（5月、8月、11月、2月）開催した。その結果、新規採用薬153品目（うち、H U 統合に伴う採用が125品目）、新規院外処方専用薬68品目（うち、H U 統合に伴う採用が13品目）、採用中止薬（院外専用薬を含む）34品目の決定と臨時薬248品目の承認を行った。平成30年度末での採用医薬品数は1,118品目である。また、H U 再統合に向けて採用医薬品の統一を行った。ユニティ病院のみの採用医薬品のうち精神科の薬剤は原則採用、その他の薬剤は原則中止とした。ユニティ病院が先発医薬品で細木病院が後発医薬品を採用している薬剤は細木病院採用の後発医薬品に統一

- した。
2. 新たに後発医薬品へ23品目の変更を行った。その結果、平成31年3月の後発医薬品の使用数量割合は昨年度の89.3%から90.2%に増加し、後発医薬品使用体制加算1を維持することができた。
3. 院内で発生した副作用報告は薬剤室が一元管理し、10件の報告があった。報告件数が減ってきており、引き続き医局会などで副作用報告の啓発を行っていく。
4. 厚労省が提示する一般名処方マスタのある薬剤については、原則、院外処方箋は一般名処方に変更した。平成30年度は院外処方箋の67.2%において、一般名処方加算を算定することができた。なお、平成30年度の診療報酬改定において、一般名処方加算の点数が引き上げられ、収益アップにもつながった。

（文責：薬事委員会委員長 田中 照夫）

● 安全衛生委員会

当委員会は、職員の安全衛生に関する計画作成と実施、評価を行い、職員の労働災害・健康障害の防止および健康増進を図ることを目的に設置された労働法に基づく法定委員会です。

平成30年度の主な取り組みについて、以下に報告します。

■ 平成30年度 安全衛生管理計画書

平成30年度 安全衛生管理計画書(案)												(50人以上)																							
基本方針	平成29年度労働災害発生状況											産業医氏名		森下 延真																					
	平成30年3月末現在労働者数	在籍労働者延労働時間数	死傷件数				損失日数	度数率	強度率	衛生管理者氏名		豊田 邦江・小谷 由香・井上 加奈子																							
事業場名	社会医療法人 仁生会 細木病院											安全・衛生委員会開催有無		有 無																					
所在地	高知市大幡町37 Ⅱ 822-7211											計画書について、安全・衛生委員会での審議の有無		有 無																					
損失日数＝業務災害による休業日数×300÷365												度数率＝1,000,000×死傷件数÷在籍労働者の延労働時間数												強度率＝1,000×損失日数÷在籍労働者の延労働時間数											
重点実施項目	具体的実施項目	実行計画												担当																					
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																						
安全衛生管理体制の確立・強化	・安全衛生の年間計画および基本事項の審議 ・安全衛生委員会の開催(月1回) ・安全ハットの見直しと実施 ・災害事例に基づく再発防止対策の検討実施 ・ストレスチェックの実施と課題フォロー																	安全衛生委員会 健康管理センター 施設課・衛生管理者 安全衛生委員会 病院全体																	
安全衛生教育の充実	・新採用研修および中途採用研修時の安全衛生教育の実施 ・採用時・部署変更時および業務変更時の職場教育の実施 ・業務上および通勤時の交通事故防止のための交通安全教育の実施 ・安全衛生教育のための講習会 ・針刺し事故防止や感染対策研修の実施																	教育委員会 部署管理者 安全衛生委員会・安全運転管理者 安全衛生委員会 安全衛生委員会・院内感染管理室																	
健康診断の実施	・採用時健康診断の実施 ・定期健康診断(年1回の職員対象)の実施 ・定期健康診断(年2回必要な夜勤従事者対象)の実施 ・調理に従事するものに対する検便(月1回)の確認(業務委託先) ・予防接種(インフルエンザ・B型肝炎など)の動員拡充と推進																	健康管理センター 健康管理センター 健康管理センター 求業管理室 安全衛生委員会																	
機械設備等の改善	・機器の点検修理・整備時の不安全行動の排除(安全に実施) ・作業方法の改善(改善提案に基づき随時) ・×線発生装置の安全点検(全機器月1回)																	施設課・部署管理者 部署管理者・安全衛生委員会 放射線室																	
職場施設・労働環境改善	・×線発生装置周辺環境測定(年2回) ・病理検査室のホルムアルデヒド測定の実施(年2回) ・労働環境の改善(改善提案および環境測定に基づき随時) ・危険防止対策(危険箇所や作業発見時および新設・増設点検時随時) ・残業時間調査と削減対策の推進 ・腰痛予防対策の推進																	放射線室 病理検査室 部署管理者・安全衛生委員会 部署管理者・安全衛生委員会 部署管理者・安全衛生委員会 部署管理者・安全衛生委員会																	
健康増進活動	・健康増進提案制度の検討と実施 ・職員のスポーツ活動への支援 ・職員の「高知家・健康パスポート」取得の勧奨																	教育委員会・安全衛生委員会 総務課・安全衛生委員会 安全衛生委員会																	

1 平成30年度の主な取り組み

年間活動計画⇒表を参照

6項目の重点実施項目を定め、活動を行いました。本年度も引き続き予防接種の勧奨に取り組むこととしました。院内感染対策委員会と連携し、職員のインフルエンザ接種は、講堂を使った集団接種としました。

また、ストレスチェックの集団分析を元に、高ストレス集団の高ストレスの分析とその集団への聞き取りと支援を行いました。

(文責：事務部長 宮地 耕一郎)

慢性期病床運営委員会

1 平成30年度 目的・目標

1. 細木病院慢性期病床において、チームアプローチによる、患者さまサービスの向上・業務の効率化および経済性の向上・スタッフのモチベーションの向上を図る。
2. 病院および仁生会再編の議論に併せて、病院全体に共通した委員会としてその在り方や役割について検討し、協力する。

品管理チームが属する。また、同様の南館組織として適正配置委員会・業務改善委員会があり、各職種が連携して活動している。月1回の定例会議で、業務における問題点の抽出・解決案の検討・働き掛けなどについて取り組む。

2. 転棟・転院相談では、医療必要度の高く在宅あるいは在宅系施設への退院が困難な患者の割合が多くなっている。また、死亡退院が多い現状は継続している。

2 概要

対象病棟：医療療養病棟（南1病棟、南2病棟）
障害者施設等一般病棟（南3病棟）

委員会メンバー：

慢性期病床運営委員会責任者 1名（医師）

医師 1名

事務 1名

病棟（南1、南2、南3） 3名

リハビリ 3名

患者サポート室 2名

医事課 1名

栄養管理室 1名

薬剤室 2名

情報システム管理課 1名

看護部長室 1名

3. 南館の各病棟は、病床管理室と連携し、積極的に患者を受け入れており、平成30年度南館病棟稼働率は87.4%で、目標の89%は未達であったが前年度の85.1%より改善した。

4. 診療報酬改定により、南1病棟は、医療区分2、3の患者が50%以上の常時確保が困難なため経過措置1の入院料算定となっている。医療区分2、3の患者受け入れに努めるとともに、今後の病棟再編についても検討されている。

4 平成31年度の主な取り組み

平成31年4月よりユニティ病院との統合で、医療療養病棟が1病棟増える。統合後は慢性期病床のベッドコントロールや各職種の連携がより重要となるため、当委員会を発展的に解消して、平成31年度からは新たな運営組織の設置が検討されている。

(文責：慢性期病床運営委員会 松田 勇蔵)

3 活動内容・目標に対する達成状況

1. 南館システム委員会には、摂食・嚥下チーム、備

大規模災害対策委員会

当委員会は、高知県災害医療救護計画および高知市支部災害医療救護計画並びに細木病院消防計画および大規模災害対策計画に基づき、病院における大規模災害対策の総合的な推進を図ることを目的としています。平成30年度の主な取り組みは、以下です。

1 平成30年度の主な取り組み

- ①安否確認システム（セコム）の説明会の開催
- ②災害用簡易トイレの使用訓練と管理手順書の作成
- ③災害用簡易トイレの各部署配備
- ④各種訓練への職員参加
- ⑤地域を巻き込んだ防災訓練の実施

(文責：事務部長 宮地 耕一郎)

● リハビリテーション委員会

①平成30年度 目的・目標

1. 平成30年度は、リハビリテーション課で実践している働き方改革を大きく後押しできるように運営していくことを目標に掲げた。
2. 連携上の課題についても即座に解決できるように、委員会からの発信力を高め、決断をしていくことも同じく目標とした。

②活動内容・目標に対する達成状況

1. 会の運営では実績報告が主となり、本来の委員会の役割が果たせていない状況になっていたため、年度の半ば以降は2カ月に1回のペースで、病棟ユニットごとの取り組み報告を組み込み、より連携を重視した活動へと方向転換した。

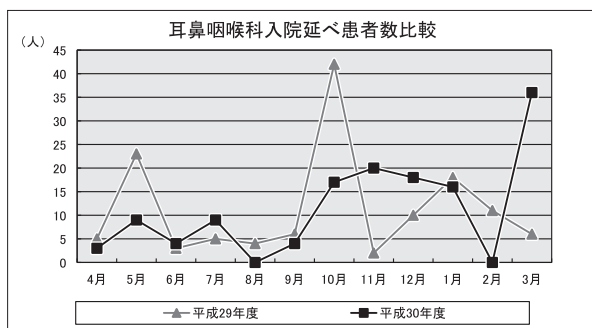
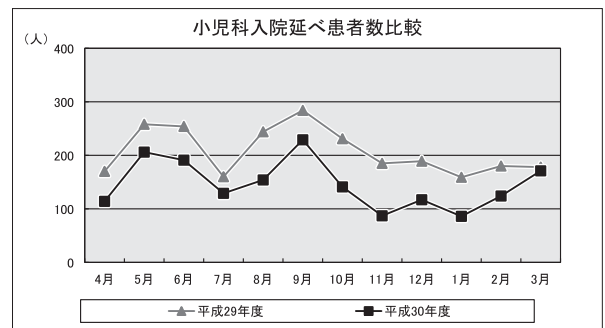
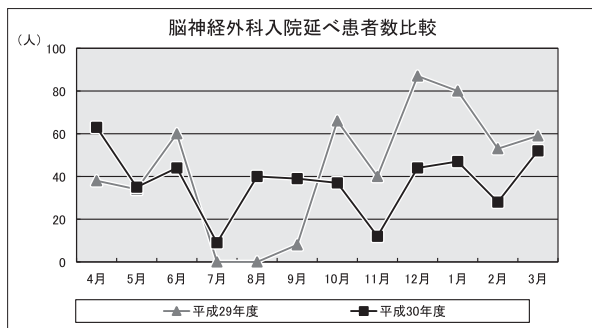
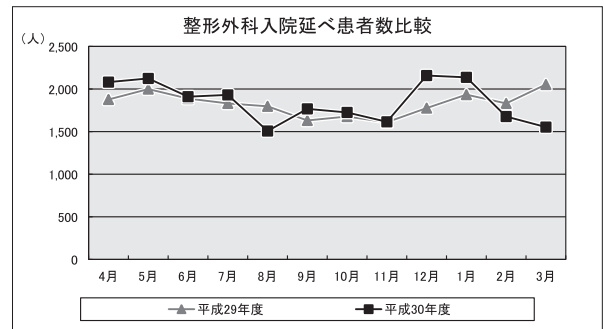
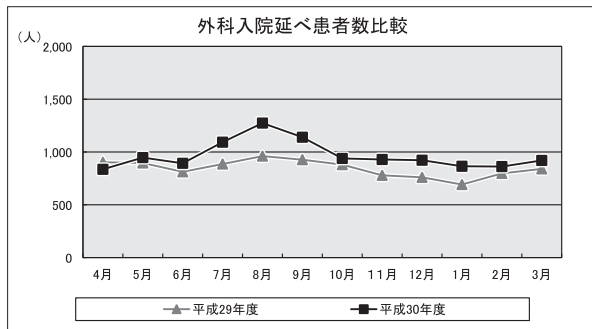
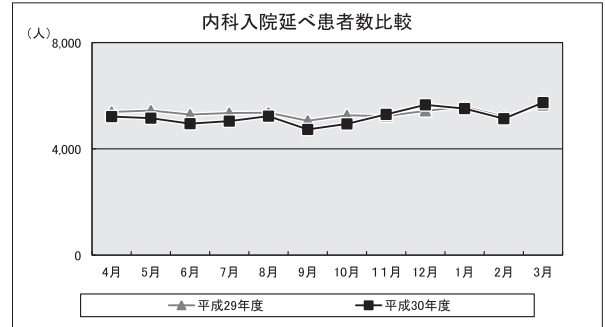
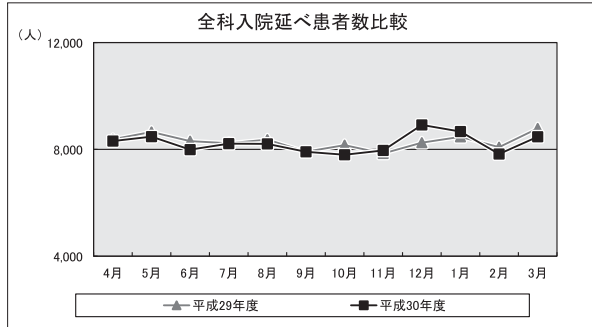
2. 働き方改革関連で、外部医療機関や関連施設での見学した内容については、当委員会にて提示し業務改善につなげることができた。
3. 数多く来院されている整形外科外来リハやリハ前診察の在り方について討議し、整形外科患者のリハ前診察を診療部門一丸となりサポートする体制を構築できた。
4. 精神科病院との統合を控え、これから検討しないといけない課題がたくさんでてくると想像できるが、委員の協力を得ながら円滑に乗り越えていくように今後も励んでいきたい。

(文責：リハビリテーション委員長 藤本 弘昭)

診療部

平成30年度 入院患者数統計

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均 合計
稼働率(%)	85.1	83.9	81.9	81.5	81.1	81.1	77.6	82.4	89.3	86.7	86.5	84.5	83.5
延べ患者数(人)	8,311	8,476	7,990	8,214	8,205	7,909	7,798	7,960	8,915	8,667	7,826	8,472	98,743
平均患者数(人)	277.0	273.4	266.3	265.0	264.7	263.6	251.5	265.3	287.6	279.6	279.5	273.3	3,247



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

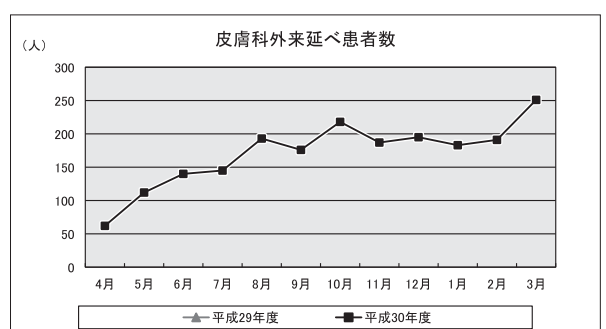
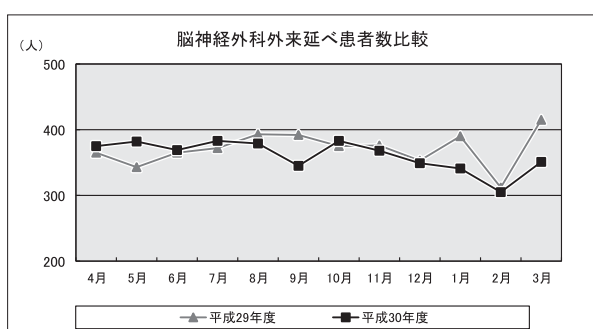
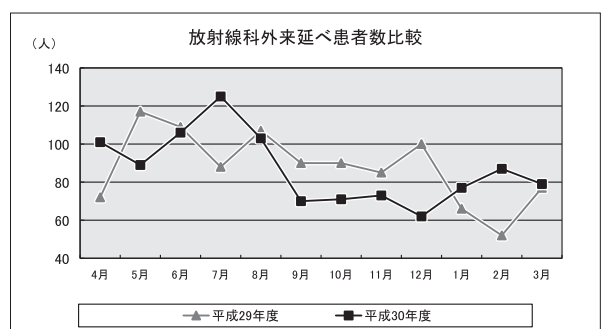
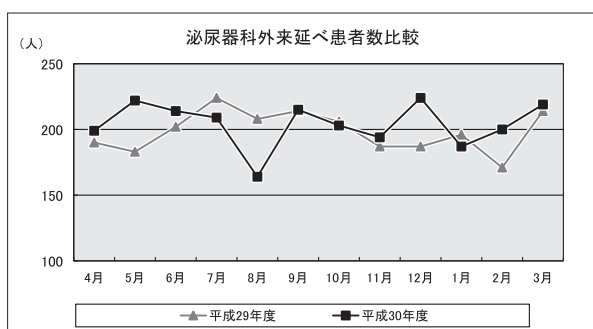
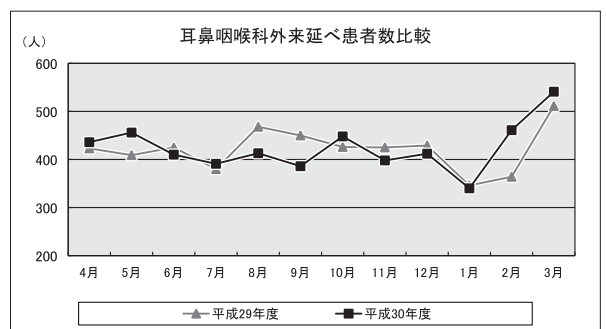
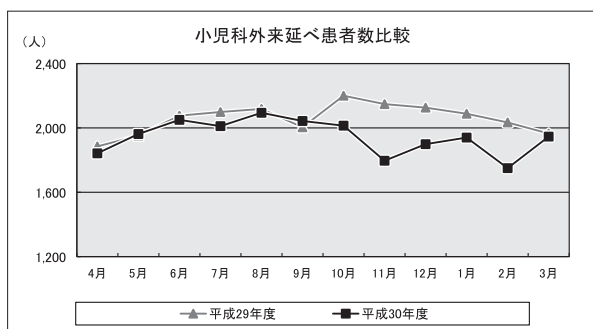
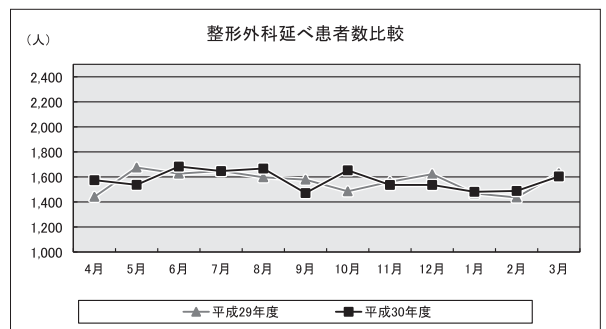
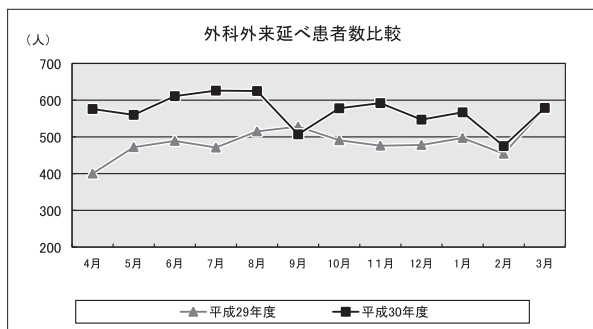
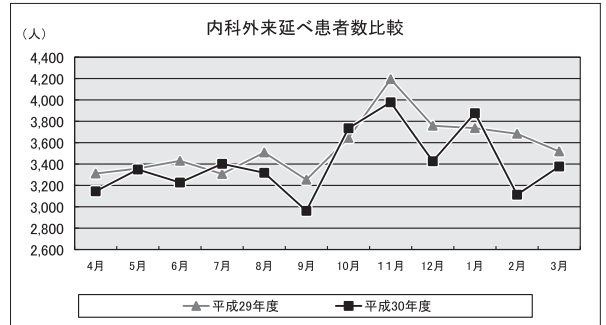
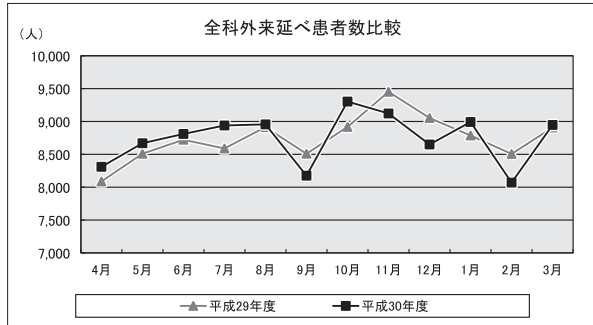
福寿園

積善会

平成30年度 外来患者数統計

単位：人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
実患者数	6,191	6,303	6,449	6,527	6,491	6,182	6,782	6,989	6,534	6,905	6,168	6,685	78,206
延患者数	8,310	8,669	8,810	8,939	8,956	8,175	9,303	9,122	8,650	8,992	8,070	8,947	104,943
平均患者数	346.3	361.2	338.8	357.6	344.5	340.6	372.1	380.1	346.0	391.0	350.9	344.1	4273.1
初診患者数	1,404	1,516	1,576	1,502	1,471	1,389	1,524	1,630	1,524	2,006	1,402	1,498	18,442



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あづみ高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

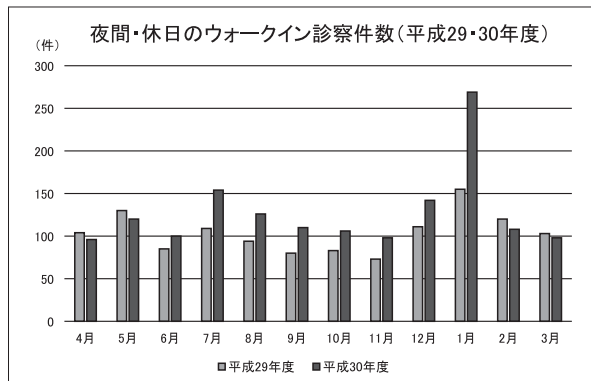
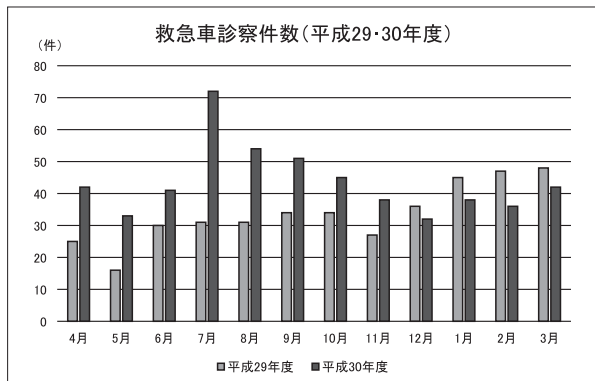
■ 平成30年度 救急件数

救急車診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	25	16	30	31	31	34	34	27	36	45	47	48	404
平成30年度	42	33	41	72	54	51	45	38	32	38	36	42	524

夜間・休日のウォークイン診察件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	104	130	85	109	94	80	83	73	111	155	120	103	1,247
平成30年度	96	120	100	154	126	110	106	98	142	269	108	98	1,527



検査件数 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

■ 消化器内科 (内視鏡手術を含む)

上部消化管内視鏡 (総数1,908)	
内視鏡的粘膜切除術・粘膜下層剥離術	1
内視鏡的胃ろう造設術	31
内視鏡的消化管止血術	7
内視鏡的逆行性胆道膵管造影	12
内視鏡的食道静脈瘤結さつ術・硬化療法	0
下部消化管内視鏡 (総数451)	
内視鏡的ポリプ切除術・粘膜切除術	119
内視鏡的消化管止血術	3
経皮経肝胆嚢ドレナージ	
腹部血管造影・肝動脈塞栓術	
エコー下肝生検	
合 計	2,359

■ 糖尿病・内分泌内科 (検査)

甲状腺穿刺吸引細胞診	26
合 計	26

■ 過去3年間の病理組織検査

年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
内 科	228	268	254
外 科	73	113	96
整 形 外 科	16	13	24
耳 鼻 科	0	2	0
皮 膚 科			25
泌 尿 器 科	0	0	0
脳 神 経 外 科	0	1	0
院 内 計	317	397	399
三 愛 病 院	26	33	41
合 計	343	430	440

手術件数 (平成30年4月1日～平成31年3月31日)

■ 耳鼻咽喉科 (手術)

鼓膜切開術	18
外耳道異物除去術	9
鼓膜チューブ留置術	1
唾石摘出術	1
咽頭異物摘出術	3
下甲介粘膜レーザー焼灼術	2
合 計	34

■ 脳神経外科 (手術)

慢性硬膜下血腫穿頭洗浄術	6
脳室-腹腔シャント術	1
合 計	7

■ 循環器科内科 (手術)

恒久的ペースメーカー植え込み術	2
ペースメーカー電池交換術	1
合 計	3

手術件数（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

■ 外科（手術）

全麻・腰麻・硬麻	平成29年度	平成30年度
胃がん		
胃全摘術		
幽門側胃切除術		
開腹	2	3
腹腔鏡補助下		
噴門側胃切除術		
結腸がん		
部分切除術	9	4
半側切除術		
腹腔鏡補助下		
人工肛門造設術	1	1
直腸がん		
高位前方切除術		
低位前方切除術	1	5
直腸切断術		
経肛門的切除術		
人工肛門造設術	2	
腹腔鏡補助下		
胆石症		
鏡視下胆摘	5	1
鏡視下胆管切石		
開腹胆摘		
胆管切石術		
イレウス		
腸管切除あり		
腸管切除なし		1
胃空腸吻合術		
腸瘻造設・閉鎖		
急性虫垂炎	6	7
成人鼠径ヘルニア	25	17
小児鼠径ヘルニア		
陰嚢水腫		
腹壁癒痕ヘルニア	1	2
恥骨上ヘルニア		
大腿ヘルニア		2
閉鎖孔ヘルニア		
臍ヘルニア		
痔核		
硬化療法	1	3
結紮切除	2	2
結紮切除＋硬化療法	5	1
PPH	1	
痔瘻	3	2
肛門膿瘍切開排膿		1

	平成29年度	平成30年度
直腸脱		
デローメ	1	
ガント三輪＋Thiersch		
P P H＋Thiersch		
開腹術		
S S G	1	
肝部分切除術		
肝外側区域切除術		
肝左葉切除		
乳がん	49	50
甲状腺腫瘍	5	4
単純胃切除術		
臍頭十二指腸切除術		
臍体尾部切除		
胆嚢がん		
消化管穿孔	2	
腹腔鏡下結腸切除		
結腸憩室炎（腸切）		
直腸腫瘍切除（経肛門的）	1	
その他	4	1
合 計	127	107

	平成29年度	平成30年度
乳房腫瘍摘出術	7	6
陥入爪手術		
皮膚皮下腫瘍摘出術	21	16
切開排膿術	2	3
創傷処理	1	
リンパ節生検		1
血腫除去		1
趾切断		1
リンパ浮腫ドレナージ		3
その他	8	6
合 計	39	42

手術総計	166	149
------	-----	-----

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あづみ高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

手術件数（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

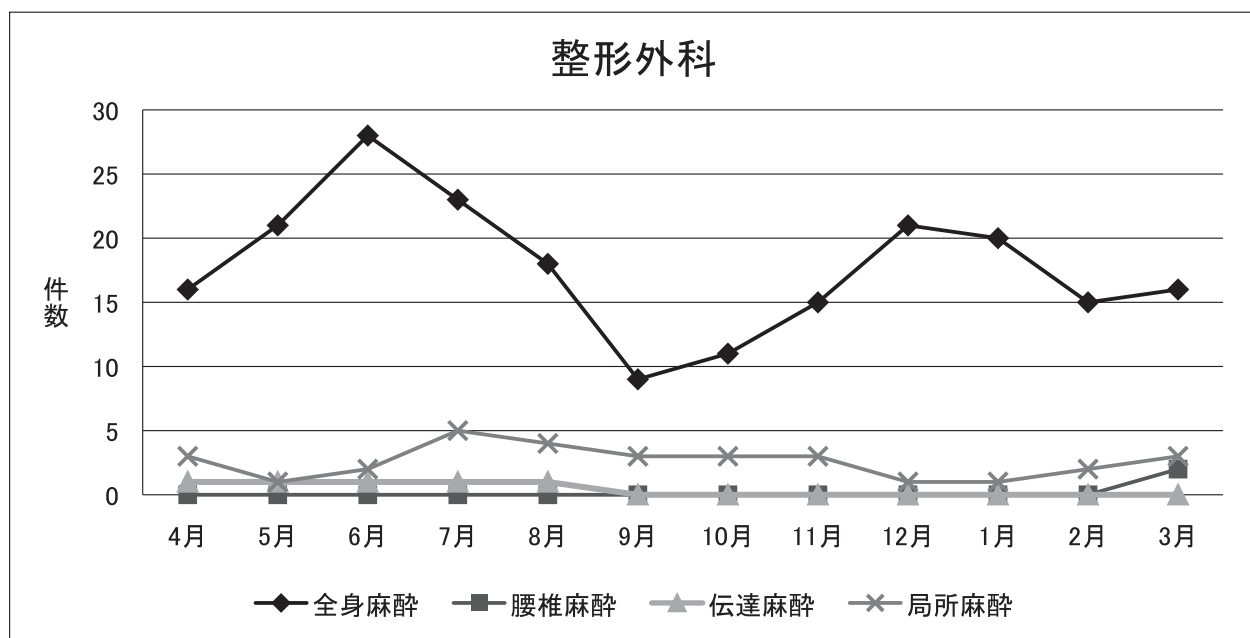
■ 整形外科（手術）

I. 脊椎手術	
側弯症手術	0
頸椎	1
胸椎	11
腰椎	40
II. 小児整形	
19	
III. 関節手術	
1) 肩関節	15
2) 肘関節	1
3) 股関節	
THA	6
BHP	6
4) 膝関節	
TKA (UKA、HTOも含む)	35
人体縫合・再建	2
その他	2
5) 足関節	9

IV. 手・末梢神経手術	
1) 末梢神経手術	20
2) 手外科手術	1
V. 腫瘍摘出術	
1) 骨腫瘍摘出術	0
2) 軟部腫瘍摘出術	14
VI. 骨髄炎手術	
2	
VII. 骨接合術	
42	
VIII. バイオプシー	
0	
IX. その他	
25	
合計	
251	

■ 整形外科（手術）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
全身麻酔	16	21	28	23	18	9	11	15	21	20	15	16	213
腰椎麻酔	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
伝達麻酔	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	5
局所麻酔	3	1	2	5	4	3	3	3	1	1	2	3	31
総計													251




看護部

平成30年度 病棟別業務実績

■ 新1病棟（病棟形態：回復期リハビリテーション病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	81.5	85.2	78.4	81.1	79.2	79.3	73.0	74.7	89.0	85.2	83.6	82.0
平均患者数（人）	42.4	44.3	40.8	42.2	41.2	41.2	37.9	38.8	46.3	44.3	43.5	42.3
平均在院日数（日）	75.0	63.4	66.1	67.9	68.6	74.2	65.9	62.8	64.0	76.4	83.0	80.4

■ 新2病棟（病棟形態：地域包括ケア病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	83.9	78.1	78.6	75.5	77.0	80.8	69.8	82.7	89.5	88.9	83.8	74.3
平均患者数（人）	50.4	46.9	47.1	45.3	46.2	48.5	41.9	49.6	53.7	53.3	50.3	44.6
平均在院日数（日）	29.8	31.5	31.1	26.3	23.8	23.7	24.2	25.3	27.0	32.4	34.0	28.9

■ 新3病棟（病棟形態：一般急性期病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	80.8	81.7	79.9	75.3	75.2	80.1	75.2	80.8	88.2	87.2	85.7	80.9
平均患者数（人）	48.5	49.0	47.9	45.2	45.1	48.1	45.1	48.5	52.9	52.3	51.4	48.5
平均在院日数（日）	14.5	13.4	13.4	13.8	13.7	14.0	13.8	15.0	15.9	17.6	17.9	17.2

■ 南1病棟（病棟形態：医療療養病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	86.5	88.4	87.2	90.4	86.7	82.2	82.0	89.4	92.0	85.4	89.7	93.5
平均患者数（人）	45.0	46.0	45.4	47.0	45.1	42.7	42.7	46.5	47.8	44.4	46.6	48.6
平均在院日数（日）	291.1	261.1	275.7	499.2	602.3	486.7	363.8	399.9	763.6	654.5	555.3	399.0

■ 南2病棟（病棟形態：医療療養病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	92.0	87.7	82.9	84.9	88.5	84.3	82.1	80.7	84.6	80.8	83.4	88.2
平均患者数（人）	45.1	43.0	40.6	41.6	43.4	41.3	40.2	39.5	41.5	39.6	40.9	43.2
平均在院日数（日）	270.4	307.1	325.2	349.1	513.6	516.4	403.2	349.7	391.4	255.1	209.0	195.3

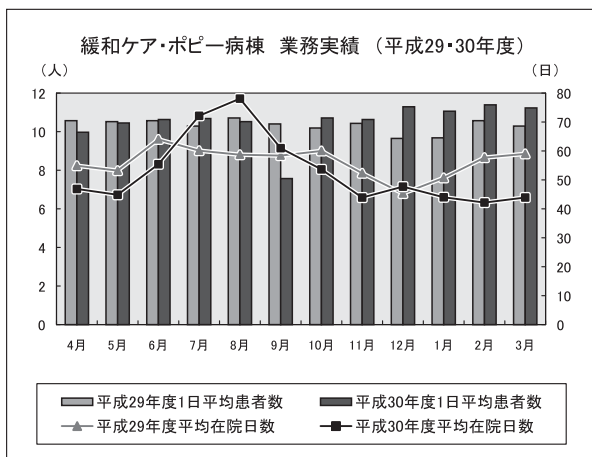
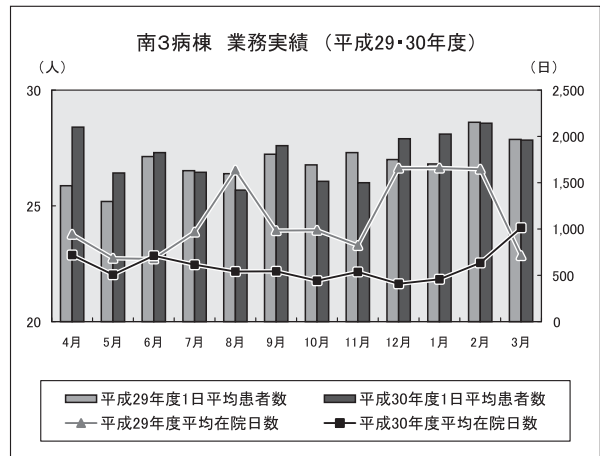
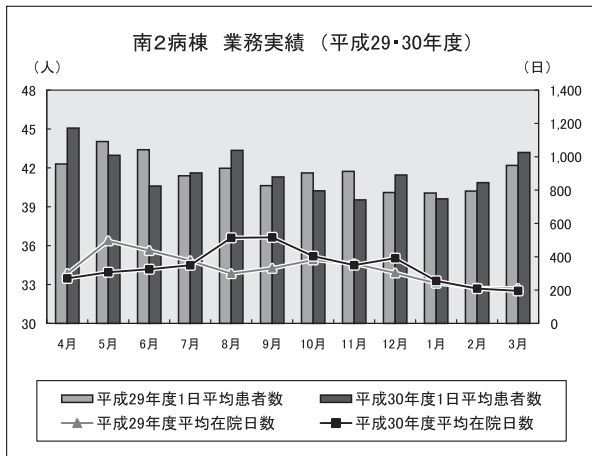
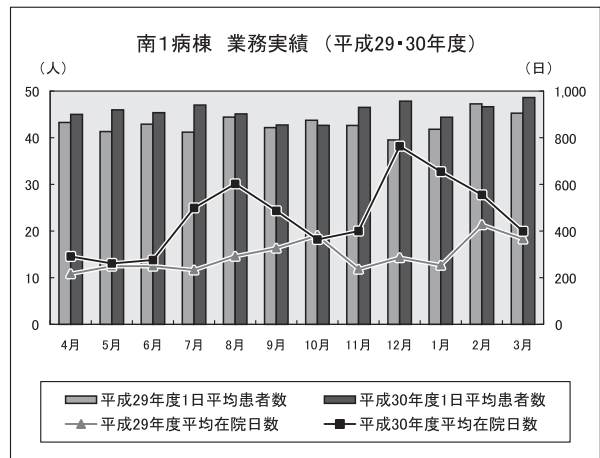
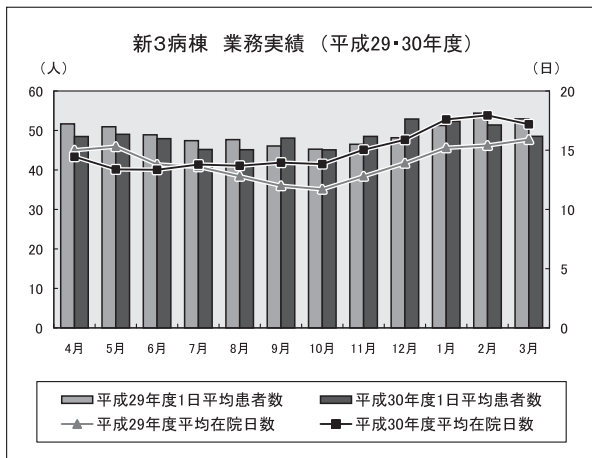
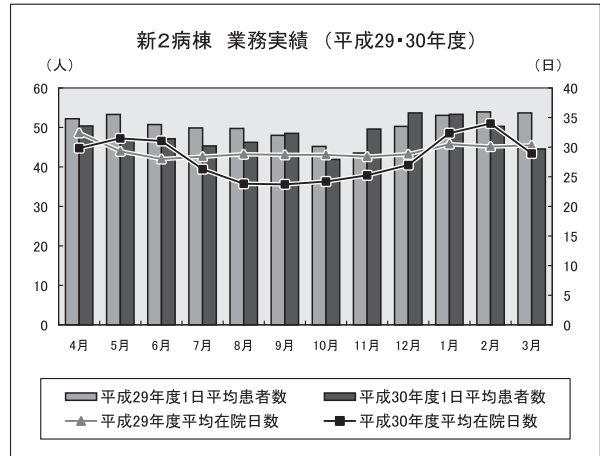
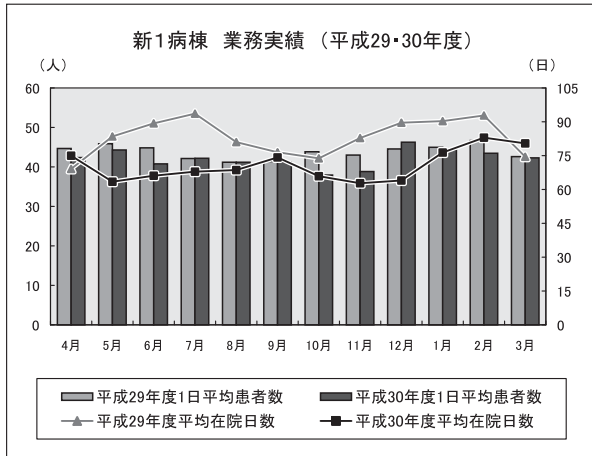
■ 南3病棟（病棟形態：障害者施設等一般病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	94.7	88.1	91.0	88.2	85.6	92.0	86.9	86.7	93.0	93.7	95.2	92.8
平均患者数（人）	28.4	26.4	27.3	26.5	25.7	27.6	26.1	26.0	27.9	28.1	28.6	27.8
平均在院日数（日）	719.1	507.0	711.4	614.5	541.1	543.1	442.2	536.9	408.8	457.5	634.0	1,013.6

■ ポピー病棟（病棟形態：緩和ケア病棟）

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
稼働率（％）	71.2	74.7	76.0	76.3	75.1	54.1	89.3	88.6	94.1	92.2	94.9	93.6
平均患者数（人）	10.0	10.5	10.6	10.7	10.5	7.6	10.7	10.6	11.3	11.1	11.4	11.2
平均在院日数（日）	46.9	44.9	55.4	72.2	78.1	61.0	53.6	43.9	47.7	44.0	42.2	43.9

1日平均患者数と平均在院日数の前年度比



細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あつらん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

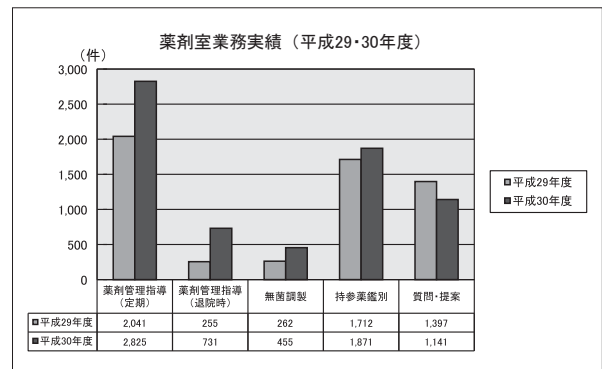
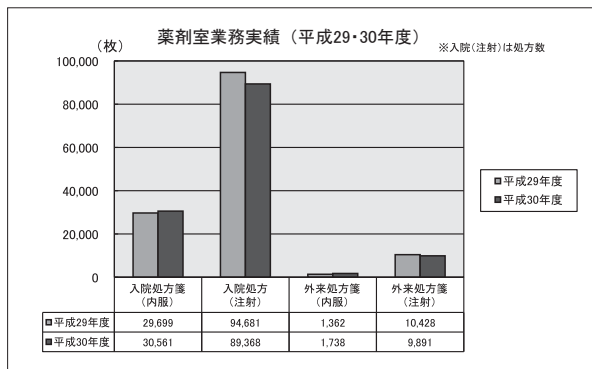
福寿園

積善会

医療技術部

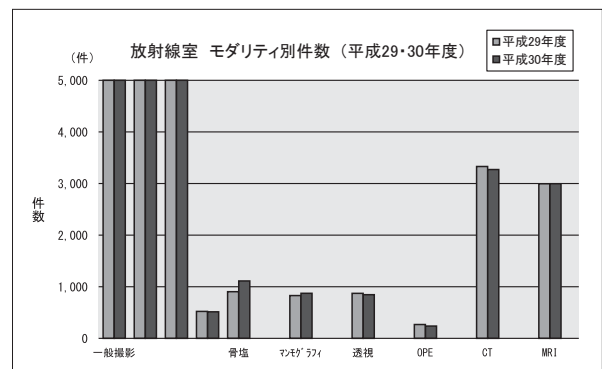
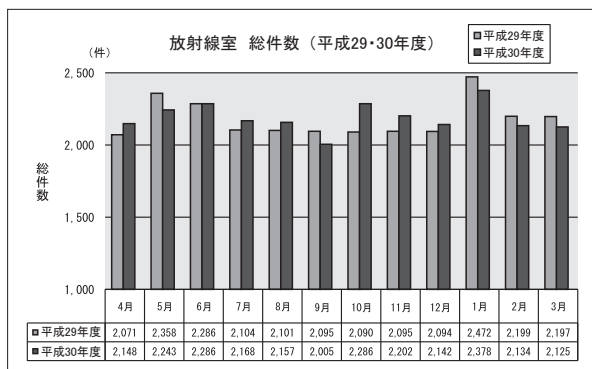
■ 薬剤室 業務実績件数

項目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院処方	内服	2,473	2,732	2,370	2,368	2,550	2,513	2,508	2,642	2,744	2,808	2,380	2,473	30,561
	注射	7,582	7,745	7,637	7,276	7,651	7,833	7,586	6,660	7,162	8,476	6,334	7,426	89,368
外来処方 (院内処方分)	内服	107	130	135	158	139	114	126	104	135	366	114	110	1,738
	注射	814	822	870	881	951	797	842	701	814	774	752	873	9,891
薬剤管理指導	定期指導	201	226	241	250	264	203	270	239	214	221	230	266	2,825
	退院指導	49	73	62	57	78	51	78	54	45	49	63	72	731
無菌調製		25	18	39	50	34	44	45	45	34	47	38	36	455
医薬品情報	持参薬鑑別	139	152	150	173	148	139	165	191	149	147	141	177	1,871
	質問、提案	100	97	108	119	90	105	119	103	90	87	60	63	1,141



■ 放射線室 撮影件数表

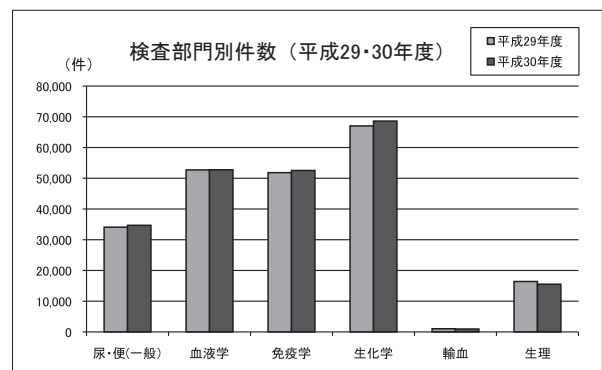
	撮影		骨塩	マンモグラフィ	透視	OPE	健診				CT			MRI	
	一般	ポータブル					胸部	胃透視	骨塩	マンモ	単純	造影	心臓	単純	造影
平成29年度	14,053	1,442	677	245	336	268	2,911	536	227	583	2,930	358	42	2,848	147
平成30年度	14,038	1,424	880	277	282	238	2,900	564	232	596	2,876	336	59	2,839	157
前年度比 (%)	100	99	130	113	84	89	100	105	102	102	98	94	140	100	107



■ 臨床検査室

検査部門別件数推移 (平成29年度～平成30年度)

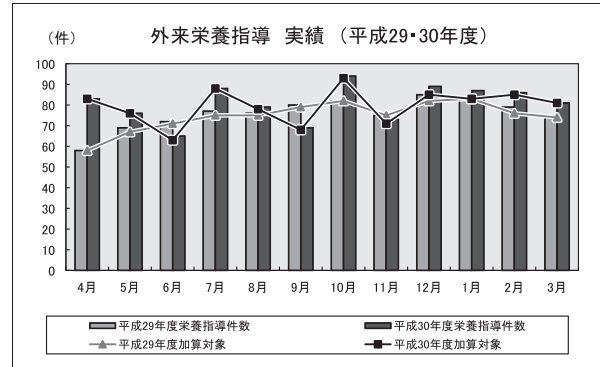
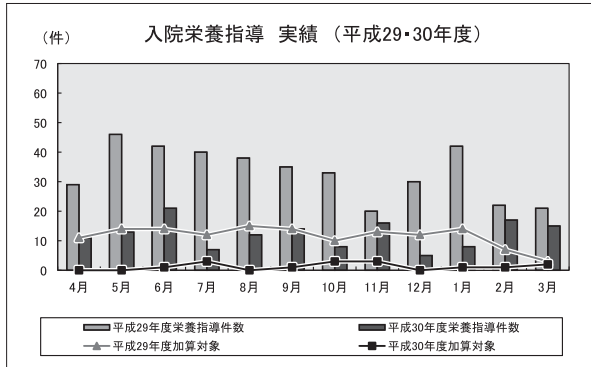
	平成29年度	平成30年度	前年度比
尿・便(一般)	34,080	34,692	101.8%
血液学	52,716	52,756	100.1%
免疫学	51,834	52,534	101.4%
生化学	67,032	68,607	102.3%
輸血	1,028	949	92.3%
生理	16,412	15,518	94.6%



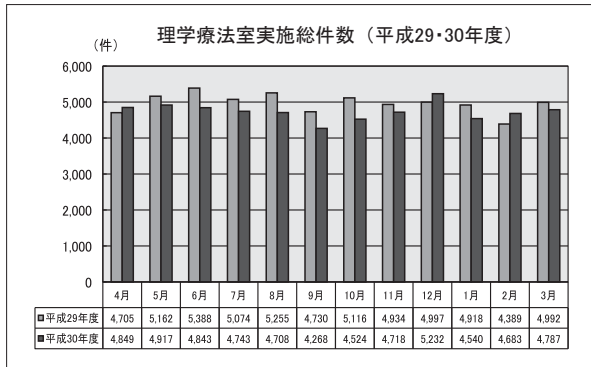
■ 栄養管理室 業務実績件数

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院栄養指導 (件)	11	13	21	7	12	14	8	16	5	8	17	15
加算対象 (件)	0	0	1	3	0	1	3	3	0	1	1	2

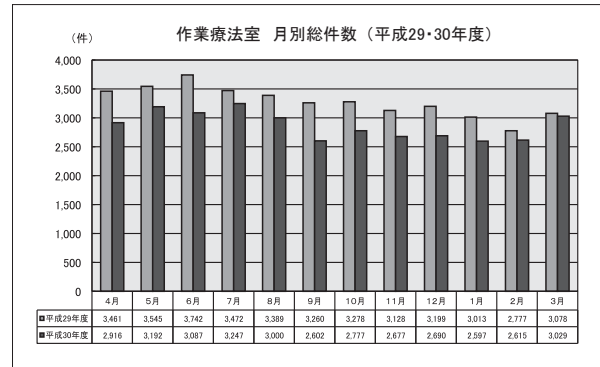
平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
外来栄養指導 (件)	83	76	65	88	79	69	94	73	89	87	86	81
加算対象 (件)	83	76	63	88	78	68	93	71	85	83	85	81



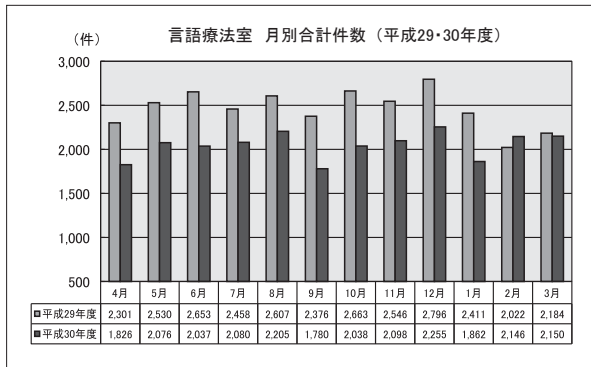
■ リハビリテーション課 理学療法室 業務実績件数



■ リハビリテーション課 作業療法室 業務実績件数



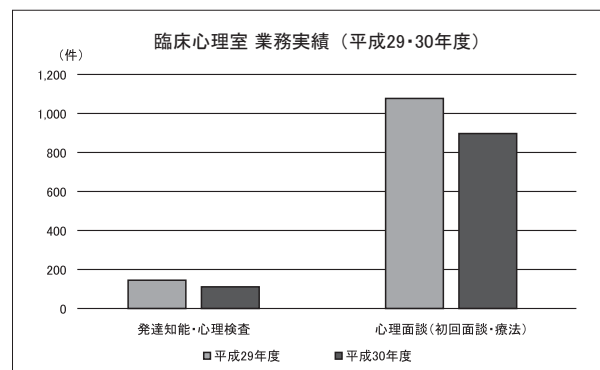
■ リハビリテーション課 言語療法室 業務実績件数



■ 臨床心理室 業務実績件数

項目	平成29年度	合計件数
発達知能・心理検査		145
心理面談 (初回面談・療法)		1,077

項目	平成30年度	合計件数
発達知能・心理検査		111
心理面談 (初回面談・療法)		897



在宅部

平成30年度 在宅部業務実績

■ ケアサポートセンターほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度介護保険利用者数(人)	222	224	231	234	230	231	237	236	226	229	236	232	2,768	231
平成29年度介護予防利用者数(人)	7	7	6	5	6	6	6	5	5	5	5	3	66	6
平成30年度介護保険利用者数(人)	233	230	229	222	208	216	225	223	217	210	211	217	2,641	220
平成30年度介護予防利用者数(人)	5	5	4	6	6	8	8	9	8	7	8	8	82	7

■ 訪問看護ステーション高知西

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	62	61	66	61	61	63	64	62	64	58	55	54	731	61
平成29年度 のべ回数(回)	373	411	390	367	442	383	425	423	394	385	354	383	4,730	394
平成30年度 利用者数(人)	49	52	56	57	61	59	63	59	55	56			567	57
平成30年度 のべ回数(回)	338	348	412	387	440	380	461	407	331	292			3,796	380

■ 訪問リハビリテーション

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	45	44	44	41	42	41	40	42	41	44	42	43	509	42
平成29年度 のべ回数(回)	254	282	269	267	279	271	236	253	241	225	228	255	3,060	255
平成30年度 利用者数(人)	41	41	41	41	39	38	42	41	41	37	38	44	484	40
平成30年度 のべ回数(回)	242	270	259	260	257	238	291	299	269	239	239	290	3,153	263

■ ホームヘルパーステーション城西

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	107	101	103	107	103	103	101	100	99	99	105	104	1,232	103
平成29年度 のべ回数(回)	715	817	779	794	785	764	771	763	747	765	727	806	9,233	769
平成30年度 利用者数(人)	100	97	98	95	92	91	100	97	94	94	101	106	1,165	97
平成30年度 のべ回数(回)	688	773	696	686	687	631	712	661	632	644	703	772	8,285	690

■ 老人デイケア ゆうゆう

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	74	73	76	71	70	71	75	74	69	67	69	69	858	72
平成29年度 のべ回数(回)	715	758	754	750	736	749	753	760	719	656	544	723	8,617	718
平成30年度 利用者数(人)	69	66	67	63	62	68	70	66	65	67	71	72	806	67
平成30年度 のべ回数(回)	737	734	646	622	641	622	728	646	658	621	639	710	8,004	667

■ デイサービス 赤とんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	25	26	26	25	25	25	23	22	22	22	25	25	291	24
平成29年度 のべ回数(回)	237	261	256	279	257	256	251	239	236	217	218	203	2,910	243
平成30年度 利用者数(人)	26	26	27	25	23	21	22	20	20	23	24	24	281	23
平成30年度 のべ回数(回)	245	279	262	240	219	203	216	209	224	182	226	244	2,749	229

■ デイサービス さくらんぼ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	26	26	25	25	22	23	22	25	21	21	22	21	279	23
平成29年度 のべ回数(回)	284	300	290	260	262	247	248	267	238	222	215	253	3,086	257
平成30年度 利用者数(人)	21	21	22	20	16	21	23	24	24	23	25	25	265	22
平成30年度 のべ回数(回)	247	251	256	202	210	229	269	252	241	220	228	262	2,867	239

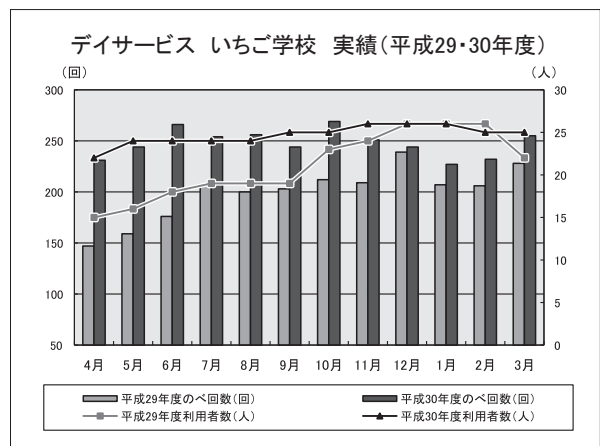
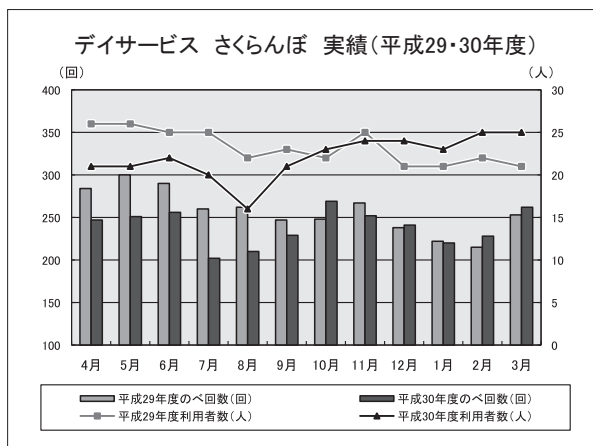
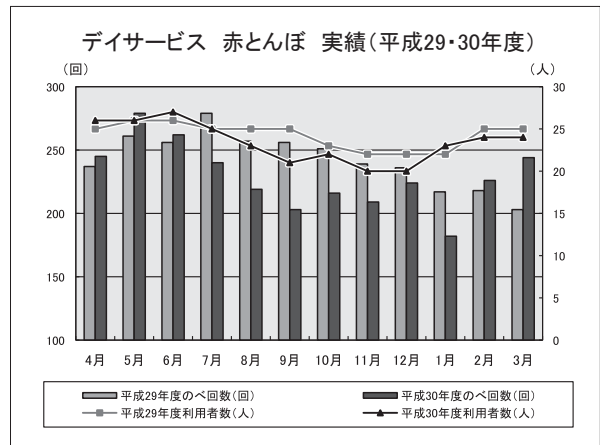
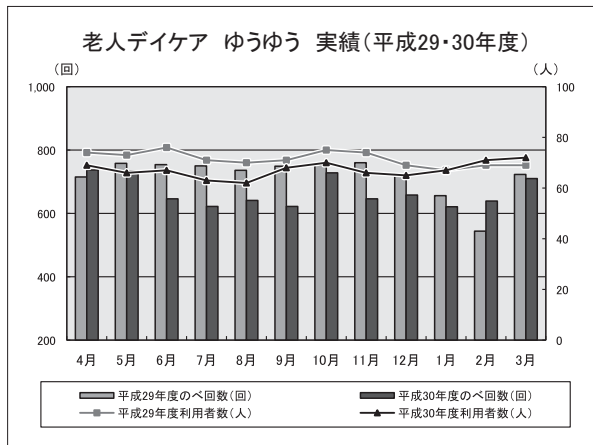
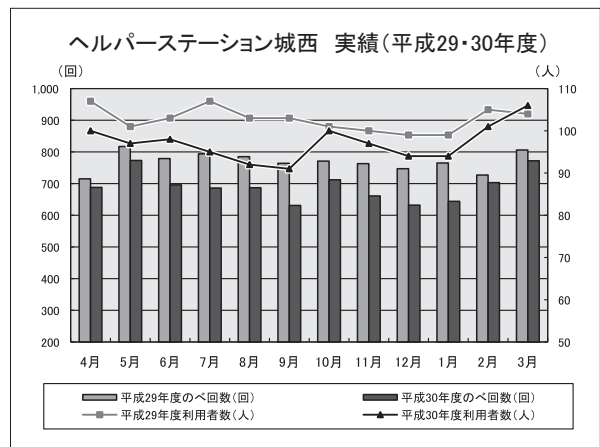
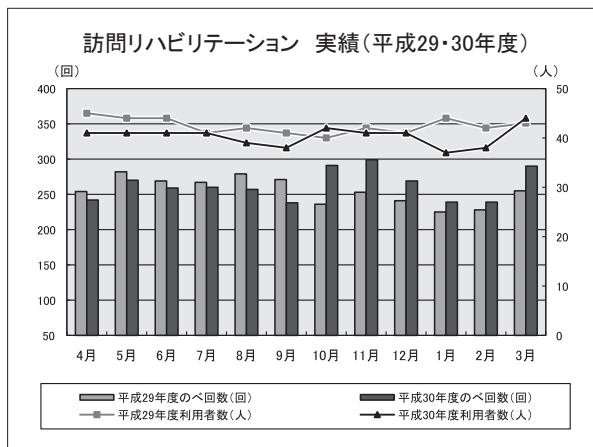
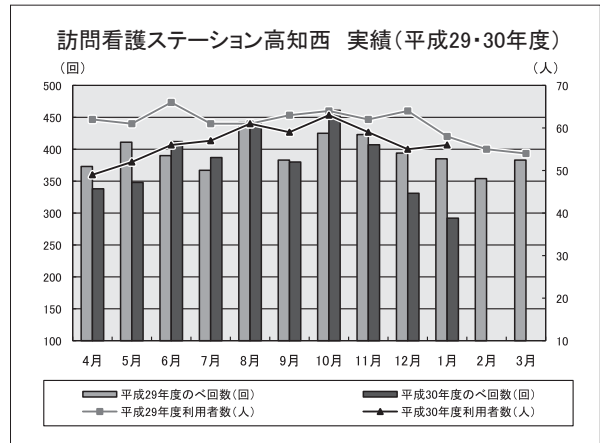
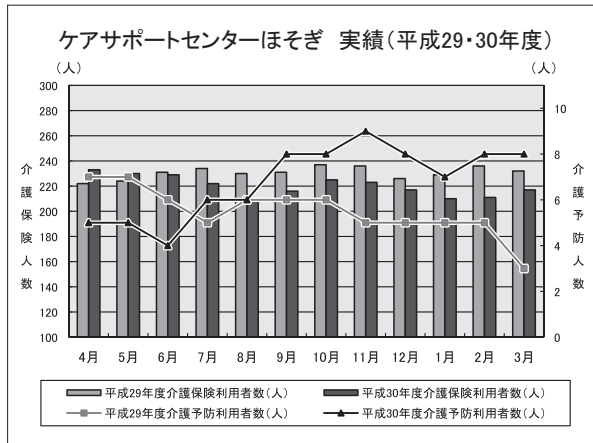
■ デイサービス いちご学校

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)	15	16	18	19	19	19	23	24	26	26	26	22	253	21
平成29年度 のべ回数(回)	147	159	176	207	200	203	212	209	239	207	206	228	2,393	199
平成30年度 利用者数(人)	22	24	24	24	24	25	25	26	26	26	25	25	296	25
平成30年度 のべ回数(回)	231	244	266	254	256	244	269	251	244	227	232	255	2,973	248

■ 訪問看護ステーションほそぎ

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
平成29年度 利用者数(人)														
平成29年度 のべ回数(回)														
平成30年度 利用者数(人)											127	140	267	134
平成30年度 のべ回数(回)											507	565	1,072	536

在宅部業務実績 前年度比



細木病院

細木ユニテイ病院

三愛病院
あつん高知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

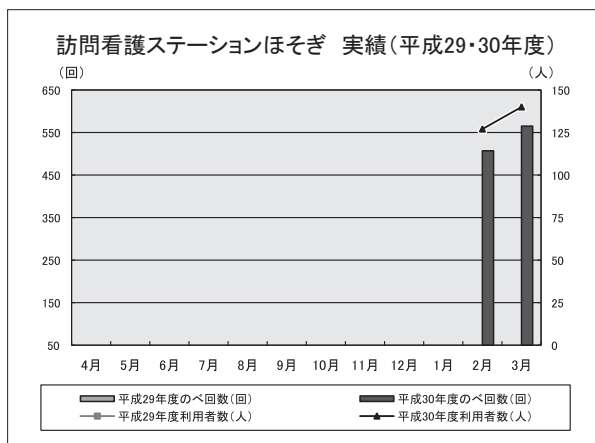
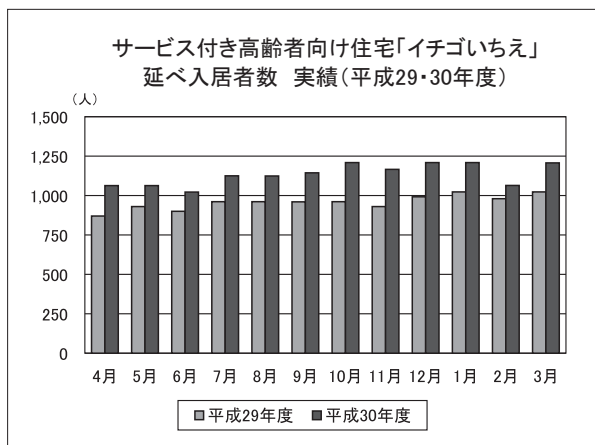
■ グループホーム 入居者の概要 (平成31年 3月31日現在)

事業所名	定員	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	男女比		平均年齢
							男性	女性	
西町	17名	6名	7名	3名	1名	0名	1名	16名	88歳
ハッピー万々	15名	3名	3名	4名	3名	2名	0名	15名	84歳
赤とんぼ	9名	0名	2名	2名	2名	3名	1名	8名	88歳
さくらんぼ	18名	3名	2名	7名	5名	1名	4名	14名	87歳

■ サービス付き高齢者向け住宅「イチゴいちえ」 部屋数：39室

平成29年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30.4
延べ入居者数	870	930	900	961	961	960	961	930	992	1,023	980	1,023	958
1日平均入居者数	29.0	30.0	30.0	31.0	31.0	32.0	31.0	31.0	32.0	33.0	35.0	33.0	31.5
入居率	74.4%	76.9%	76.9%	79.5%	79.5%	82.1%	79.5%	79.5%	82.1%	84.6%	89.7%	84.6%	80.8%

平成30年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	月平均
営業日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	30.4
延べ入居者数	1,063	1,063	1,022	1,125	1,124	1,144	1,209	1,166	1,209	1,209	1,064	1,207	1,134
1日平均入居者数	35.4	34.3	34.1	36.3	36.3	38.1	39.0	38.9	39.0	39.0	38.0	38.9	37.3
入居率	90.9%	87.9%	87.4%	93.1%	93.0%	97.8%	100.0%	99.7%	100.0%	100.0%	97.4%	99.8%	95.6%



平成31年2月に、訪問看護ステーション高知西がユニティ病院の訪問看護室と先行統合し、「訪問看護ステーションほそぎ」と名称を新たにスタートした。

細木病院 「第3回学術集会 i n 細木」

開催日：2018年9月11日(火)
 開催時間：17時45分～19時30分
 開催場所：細木病院 新館地下 高行記念講堂

演題・内容	○発表者
1. 司会進行	田中 照夫
2. 演題（口演）	座長 上地 一平、西岡 達矢 上田 祐二、松田 幸彦
(1)「まっことネット細木」の活動から見えてきたこと ～丸ごとの地域共生社会の実現に向けて～	細木病院 在宅部 ケアサポートセン ターほそぎ ケアマネージャー ○矢野 美穂
(2) ストレス事業をはじめて	細木ユニティ病院 こころの健康室 精神保健福祉士 ○中嶋 光宏
(3) 緩和ケア通院・入院相談窓口における医療ソ シヤルワーカーの現状と課題	細木病院 地域連携推進センター 患者サポート室 ○辻 美知子
(4) 精神科慢性期病棟における看護師と看護補助者の 日常業務に関する業務意識の相違	細木ユニティ病院 看護部 UNG病棟 ○島本 和人
(5) 緩和ケア病棟に入院した終末期がん患者の家族の 心のゆらぎ	細木病院 看護部 緩和ケア病棟 ○大久保 美香
(6) X線撮影における患者被ばく線量の最適化に関す る検討	細木病院 医療技術部 放射線室 ○佐野 友彦
(7) 深部静脈血栓症の診断と治療	細木病院 診療部 ○西村 哲也
3. 総評	理事長 細木 秀美
4. 優秀演題の表彰・閉会の挨拶	副院長 上地 一平

「第3回 学術集会 i n 細木」は、来年4月の病院統合を見据え、今回初めて、細木病院と細木ユニティ病院の合同で開催された。当日は208名の参加があり、大変盛んな学術集会となった。本学術集会は、学会発表した内容や各部門の取り組みなどを職員間で共有するとともに、学術活動の質向上を図ることを目的としている。今回、細木病院から5題、細木ユニティ病院から2題の発表があった。

発表終了後、細木秀美理事長から、「たくさんの職員に参加していただき、ありがとうございます。熱心に発表され、発表内容もわかりやすかったです。細木病院とユニティ病院で、こんな取り組みをしているんだということを知るいい機会になったと思います」と総評され、それぞれの発表内容について、感想、アドバイス、期待などが述べられた。

その後、上地副院長から、優秀演題2題、（細木病院診療部：西村哲也、細木病院看護部：大久保美香）が発表され、表彰状が授与された。2題ともインパクト（新規性、社会的価値）、内容（方法、結果、考察）、発表態度（表現力、スライドの見やすさ）などが高く評価されての受賞となった。また、他の発表も優れており、接戦だったことも紹介された。

受賞者から、喜びと感謝の言葉が述べられ、大きな拍手でもって閉会となった。今後は年2回開催する予定である。



血管外科部長の西村哲也医師の発表



ポピー病棟の大久保美香看護師の発表
 （文責：医療技術部長 田中 照夫）

■診療部

■総合診療科

□誌上発表(論文・著作・寄稿)

1. 堀見忠司:「大きく変わっている最近の医療とこれからの医療」、日本統合医療学会四国支部会報、第11号、2018年

□講義(講師、院外研修指導者含む)

1. 堀見忠司:「変化するわが国の医療情勢」、高知県高坂学園生涯老人大学I組、高知市、2018年4月6日
2. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知県医師会准看護学院、高知市、2018年4月6日
3. 堀見忠司:第1回目看護専門学校授業(A-B)、高知市、2018年4月13日
4. 堀見忠司:「変化するわが国の医療の方向性」、高知セカンドライフ友の会リフレッシュ講座、高知市、2018年4月24日
5. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知大学医学部看護学科、南国市、2018年5月8日
6. 堀見忠司:第2回目看護専門学校授業(A+B)、高知市、2018年5月11日
7. 堀見忠司:第3回目看護専門学校授業(A+B)、高知市、2018年5月18日
8. 堀見忠司:第4回目看護専門学校授業(A-B)、高知市、2018年5月25日
9. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知県医師会看護専門学校、高知市、2018年5月25日
10. 堀見忠司:第5回目看護専門学校授業(A-B)、高知市、2018年6月1日
11. 堀見忠司:第1回目看護専門学校授業(A+B)、高知市、2018年6月15日
12. 堀見忠司:第1回目看護専門学校授業(A+B)、高知市、2018年6月22日
13. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知学園短期大学看護学科、高知市、2018年6月28日
14. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、近森病院附属看護学校、高知市、2018年7月13日
15. 堀見忠司:第5章「臨床医学各論II」新生物、診療情報管理士通信教育平成30年度前期スクリーニング、岡山市、2018年8月26日
16. 堀見忠司:「漢方の話その1」、まっことネット出前講座、高知市、2018年9月5日
17. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知開成専門学校看護学科、高知市、2018年9月28日
18. 堀見忠司:「漢方の話その2」、まっことネット出前講座、高知市、2018年10月3日
19. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知県立幡多看護専門学校、四万十市、2018年10月23日
20. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、四万十看護学院、四万十市、2018年10月24日
21. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、高知県立大学看護学部看護学研究科、高知市、2018年11月7日
22. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、清和准看護学院、佐川町、2018年11月14日
23. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」、龍馬看護ふくし専門学校看護学科、高知市、2018年11月26日
24. 堀見忠司:平成30年度公認指導者資格A・B・C準指導員更新講習会「柔道の事故防止:絞め技の落ちるメカニズム」、公益財団法人全日本柔道連盟、主管高知県柔道協会、高知県立岡豊高等学校、南国市、2018年12月16日
25. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」高知中央高等学校看護科、高知市、2019年1月25日
26. 堀見忠司:「いのちの授業～臓器移植と臓器提供～」高知県立高知東高校、高知市、2019年2月22日

□取材

1. 堀見忠司:「脳死ドナー 20周年記念」、NHK日本放送協会、2019年1月29日
2. 堀見忠司:“臓器提供の意義”伝える「いのちの授業」、高知県立高知東高等学校看護科、NHK総合高知「ニュース845こうち」、2019年2月22日

■呼吸器内科

□学会・研究会

1. ○小林 誠、弘瀬祥子、白神 実:「ANCA関連間質性肺炎・肺線維症が疑われた2例」、第45回高知喘息アレルギー研究会、高知市、2018年7月31日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 小林 誠：「肺真菌症」、高知大学医学部臨床講義（3年生）、南国市、2018年5月11日

消化器内科

□ 学会・研究会

1. ○上田祐二、中内 昌仁、高橋佳伸、上地一平、尾崎信三、堀見忠司：「肛門管に発生した浸潤性扁平上皮癌の1例」、第222回 大腸疾患研究会、大阪市、2018年4月6日

糖尿病・内分泌内科

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 中村寿宏：高知県糖尿病療養指導士認定機構基礎講習会「糖尿病の基本治療と療養指導」、高知県糖尿病療養指導士認定機構、高知市、2018年10月21日

□ 座 長

1. 中村寿宏：「心房細動と糖尿病」、高知医療センター循環器病センター 山本克人、第166回高知糖尿病研究会、高知市、2018年4月25日
2. 中村寿宏：「糖尿病足潰瘍：病態からフットケアまで」、永寿総合病院糖尿病臨床研究センター 渥美義人、第4回高知足を学ぶ会、高知市、2018年9月7日
3. 西岡達矢：「境界型からインスリン依存状態まで病態の推移が観察できた1型糖尿病の1例」、高知大学医学部 小笠原真沙美、高知糖尿病治療フォーラム2018、高知市、2018年10月15日
4. 中村寿宏：「小児の2型糖尿病と肥満・体重コントロール」、細木病院小児科 新井淳一、第171回高知糖尿病研究会、高知市、2018年10月24日
5. 西岡達矢：「高知県における糖尿病の現状と対策について」、高知県健康政策部 松岡哲也美、第40回高知県糖尿病チーム医療研修会、高知市、2018年11月11日
6. 中村寿宏：「耐糖能異常（特に妊娠糖尿病）合併妊娠の病態と管理について」、高知大学医学部附属病院産婦人科学教室 池上信夫、第40回高知糖尿病チーム医療研修会、高知市、2018年11月11日
7. 西岡達矢：「一般口演33 パセドウ病～症例検討3」、第61回日本甲状腺学会学術集会、川越市、2018年11月22～24日
8. 中村寿宏：「当院における糖尿病透析予防指導の取り組みについて」、細木病院栄養管理室 安岡美佐、第3回糖尿病チーム医療を考える会、高知市、2018年11月30日
9. 西岡達矢：「内分泌1（研修医）」研修医発表における評価員、第119回日本内科学会四国地方会、松山市、2018年12月2日

小児科

□ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. Okamoto K, Fukuda M, Saito I, Urate R, Maniwa S, Usui D, Motoki T, Jogamoto T, Aibara K, Hosokawa T, Konishi Y, Arakawa R, Mori K, Ishii E, Saito K, Nishio H:「Incidence of infantile spinal muscular atrophy on Shikoku Island of Japan.」, Brain and Development (41 (1):36–42)、2019 Jan

□ 学会・研究会

1. 細川卓利：「当院で診療しているてんかんなど発作性疾患患者について」、第20回小児科勉強会、高知市、2018年7月19日
2. ○細川卓利、西本静香、秋山麻里、秋山倫之、小林勝弘：「笑い発作が疑われた1例」、第36回四国小児神経症例検討会、高松市、2018年9月2日
3. ○西本由佳、新井淳一、荒木まり子、山崎麻朱、秋月けい、矢野礼子、横田太郎：「高知県小児糖尿病サマーキャンプにおける災害教育」、日本糖尿病学会中国四国地方会第55回総会、山口県下関市、2018年10月26日

□ 講 演

1. 新井淳一：「小児の1型糖尿病と高知の糖尿病サマーキャンプについて」、第64回Lc国際協会336-A地区地区年次大会分化会、徳島市、2018年4月8日
2. 新井淳一：「PWS親子キャンプ 4年間で気づいたこと」、四国PWS親子の会、愛媛県新居浜市、2018年7月1日

3. 新井淳一：「小児の2型糖尿病・肥満、体重コントロール」、高知糖尿病研究会、高知市、高知城ホール、2018年10月24日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 細川卓利：「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2018年6月13日
2. 新井淳一：「小児科学」非常勤講師、高知県医師会看護学校、高知市、2018年9月5日、9月26日、10月17日（3日間）
3. 細川卓利：「小児科学」非常勤講師、高知県医師会看護学校、高知市、2018年9月12日、10月10日、10月31日（3日間）
4. 堂野純孝：「小児科看護の各論（分担）」非常勤講師、高知県医師会看護専門学校、高知市、2018年9月19日、10月3日、10月24日（3日間）
5. 細川卓利：「小児神経学」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2018年12月20日

□ 座 長

1. 新井淳一：糖尿病とこころ懇話会、高知市、2018年6月2日
2. 新井淳一：四国PWS親子の会、愛媛県新居浜市、2018年7月1日
3. 新井淳一：高知県小児科医会講演会、高知市、2018年8月3日
4. 細川卓利：一般演題5、第36回四国小児神経症例検討会、高松市、2018年9月2日
5. 新井淳一：中国四国小児・思春期糖尿病治療座談会、高知市、2018年12月15日

外 科

□ 学会・研究会

1. ○上地一平：「肛門管尖圭コンジローマに肛門管上皮内腫瘍を合併した1例」、第73回日本大腸肛門病学会学術集会、東京、2018年11月9日～10日
2. ○尾崎信三、上地一平：「CA19-9産生乳癌の1例」、第26回日本乳癌学会総会、京都市、2018年5月16日
3. ○尾崎信三、上地一平、安藤 徹、西村哲也、堀見忠司、中内昌仁、山崎義一：「アメーバ性大腸炎からHIV陽性の診断に至った1症例」、第27回消化器疾患病態治療研究会、高知市、2018年9月15日
4. ○尾崎信三、上地一平、堀見忠司：「異なるサブタイプを呈しセンチネルリンパ節転移陽性であった同時同側多発乳癌の1症例」、第47回日本臨床外科学会高知県支部学術集会、南国市、2018年10月13日

□ 座 長

1. 上地一平：一般演題1「治療」、第19回日本褥瘡学会中国四国地方会学術集会、広島市、2019年3月3日

化学療法・緩和ケア科

□ 学会・研究会

1. ○安藤 徹：「リドカイン持続投与により疼痛が軽減された2例」、第23回日本緩和医療学会学術大会、神戸市、2018年6月21日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 安藤徹：「緩和ケア」非常勤講師、開成専門学校、高知市、2018年9月5日、9月12日、9月19日

皮膚科・形成外科

□ 講演（講習会を含む）

1. 野田理香：「褥瘡、潰瘍に対する治療について」、第11回 New Kampo Medical Meeting in Kochi、高知市、2018年9月7日
2. 野田理香：「脂質とアレルギー・炎症性疾患制御 ～メカニズムと臨床～」、日本リポニュートリション協会セミナー、東京都中央区、2018年10月20日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 野田理香：「脂肪酸の働き ～アレルギーから動脈硬化まで～」、日本臓器社内研修会講師、高知市、2018年11月28日

整形外科

□学会・研究会

1. ○南場寛文、川崎元敬、泉 仁、村松脩大、田所伸朗、喜安克仁、武政龍一、牛田享宏、池内昌彦：「有痛性骨関節疾患に対するMRガイド下集束超音波治療の効果 ―骨転移性疼痛と変形性関節症の慢性痛に対する治療効果の比較―」、第91回日本整形外科学会学術総会、神戸市、2018年5月24日
2. ○高谷将悟、阿漕孝治、泉 仁、岡上裕介、南場寛文、池内昌彦：「TKA術後の遺残性疼痛の実態とその関連因子 ―前向き縦断調査―」、第91回日本整形外科学会学術総会、神戸市、2018年5月26日
3. ○村松脩大、川崎元敬、南場寛文、溝渕弘夫、池内昌彦：「四肢および体幹における神経鞘腫のMRI所見の特徴」、第131回中部日本整形外科災害外科学会、倉敷市、2018年10月5日
4. ○川崎元敬、村松脩大、南場寛文、大迫洋司、池内昌彦、小泉憲裕、葭仲 潔：「強力集束超音波による骨膜内の神経に与える影響」、第33回日本整形外科学会基礎学術集会、奈良市、2018年10月11日
5. ○武政龍一、喜安克仁、葛西雄介、田所伸朗、青山直樹、川崎元敬、池内昌彦、南場寛文：「腰椎分離症における早期スポーツ復帰と骨癒合促進を目指した最小侵襲経皮的分離部固定術」、第26回日本腰痛学会、浜松市、2018年10月27日
6. ○南場寛文、山川晴吾、北岡和雄：「骨粗鬆症に対するリクラストの短期治療経験」、第20回日本骨粗鬆症学会、長崎市、2018年10月28日

放射線科

□学会・研究会

1. ○耕崎志乃：症例検討 症例3 出題・解説「起床時に誘因なく股関節痛が出現した症例のMRI画像」、第6回高知イメージカンファレンス、高知市、2018年4月28日
2. ○耕崎志乃、西岡達矢、中村寿宏、熊谷千鶴、丸山 博、篠原雅幸、品原正幸、堀見忠司：「インスリンポールの二例」、第54回日本医学放射線学会秋季臨床大会、福岡市、2018年10月5日～7日(ポスター展示)

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 耕崎志乃：高知大学医学部医学科3年生講義「中枢神経系の画像診断」「頭頸部の画像診断」非常勤講師、高知大学医学部医学科、南国市、2018年5月30日

麻酔科

□誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 本来ならば、平成29年度の年報に記載すべきであるが、連絡の遅れにより、昨年の記載に間に合わず、ここに記載しておきます。

Wasa Ueda, Shigeto Hatakenaka, and Young-Chang P.arai: 「The Addition of a Head Rotation When the Ramped Position Fails to Provide Good Laryngeal Visualization:A Preliminary study」
Anesthesiology and Pain Medicine.2018 February; 8(1):e63674

□講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 畠中豊人：「看護学科専攻課程1年 病態学Ⅰ 消化器、神経」、非常勤講師 高知中央高校、高知市、2018年9月5日～11月28日（うち、祝日、試験期間を除く水曜日10日間）
2. 畠中豊人：「ICLS」、インストラクター、高知市 細木病院、2018年5月27日・11月18日（2日間）

看護部

□誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. ○藤田佐和、庄司麻美、豊田邦江、池田久乃、古郡夏子、北添可奈子、近藤恵子：「在宅移行する終末期がん患者のエンパワーメントを支える看護ケア指針の活用効果と課題」、高知女子大学看護学会誌、Vol. 43 No. 2、P. 111-122、2018年6月

□学会・研究会

1. ○香川直子、森本真由美、片岡典代、市川麻美、市吉真貴子、篠原雅幸、丸山 博、熊谷千鶴、中村寿宏、西岡達矢：「自己注射手技指導に対して患者が希望すること～トルリシティ®皮下注0.75mg アテオス導入患者へのアンケート結果から～」、第61回糖尿病学会年次集会、日本糖尿病学会、東京都、2018年5月24日

2. ○片岡典代、香川直子、安丸あい、安岡美佐、篠原雅幸、丸山 博、熊谷千鶴、中村寿宏、西岡達矢：「インスリンプレフィルド製剤に経口薬が付着し使用困難であった患者の1事例～糖尿病透析予防指導支援から見えてきた課題～」、第61回糖尿病学会年次集会、日本糖尿病学会、東京都、2018年5月26日
3. ○片岡典代、香川直子、篠原雅幸、丸山 博、熊谷千鶴、中村寿宏、西岡達矢：「院内“あし研修会”開催によるフットケア人材育成のとりくみ」、第6回糖尿病療養指導学術集会、日本糖尿病協会、京都市、2018年7月28日
4. ○森本真由美、弘田美貴、大原敬子、廣田明美：「聴覚障害のある患者との手話を通じたコミュニケーション～地域包括ケア病棟での関わり～」、第16回日本医療マネジメント学会高知支部学術集会、高知市、2018年8月19日
5. ○今西建太、長山香奈、小橋奈々子、澤 恵理、伊賀原由香：「ケアミックス型病院における“患者対応がよい”と捉えた看護師の対応～看護師からの視点に焦点を当てて」、日本医療マネジメント学会、第16回高知県支部学術集会講演、2018年8月19日
6. ○森本清子、織田さおり、片岡典代：「初めて内視鏡検査を受ける患者の援助の検討～鎮静剤を使用せず検査を受ける患者への援助～」、第15回四国消化器内視鏡技師学会、四国消化器内視鏡技師会、高知市、2018年9月9日
7. ○山脇めぐみ、山添勢津子、大久保美香、中原佐苗、豊田邦江、片岡 健：「緩和ケア病棟に入院した終末期がん患者の家族の心のゆらぎ」、第49回日本看護学会、静岡市、2018年9月28日
8. ○森本真由美、弘田美貴、大原敬子：「聴覚障害のあり患者との手話を通じたコミュニケーション～地域包括ケア病棟での関わり～」、第9回医療センター看護実践発表会、高知市、2019年1月20日

□ 講演（講習会を含む）

1. 山本香代：「骨粗鬆症について」、小高坂市民会館高齢者健康教室、高知市、2018年6月15日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 廣田明美：「老年看護学総論」、非常勤講師、高知県医師会看護専門学校、高知市、2018年5月1日～7月20日（12日間）
2. 豊田邦江：「APNセミナー“研究指導”“高齢者施設での看取りケア”」、講師、高知県立大学大学院博士課程前期がん看護領域、高知市、2018年7月11日
3. 豊田邦江：「エンド・オブ・ライフケア看護師（エルネック）研修」、講師とファシリテーター、高知県・日本緩和ケア学会、高知市、2018年7月29日
4. 豊田邦江：「認定看護管理者セカンドレベル研修“目標管理と人的評価”」、講師、高知県看護協会、高知市、2018年8月16日
5. 廣田明美：「看護管理について」、講師、高知県医師会看護専門学校、高知市、2018年9月10日
6. 片岡典代：「専門分野成人看護学援助論Ⅱ（内分泌・代謝）」、高知県医師会看護専門学校、高知市、2018年9月11日～10月9日（4日間）
7. 廣田明美：「キャリア教育について」、講師、高知市立西部中学校、高知市、2019年2月5日

□ 座 長

1. 廣田明美：「慢性期維持透析患者の訪問リハビリテーションについて」、高知高須病院 敷地雄一他、日本医療マネジメント学会第16回高知県支部学術集会、高知市、2018年8月19日
2. 豊田邦江：「第33回日本癌看護学会学術集会」、口演第38群「家族ケア1」、日本がん看護学会、福岡市、2019年2月24日
3. 岡崎千佐子：「看護の質向上への取り組み」、近森病院 下元美香、平成30年度高知県看護協会看護研究学会、高知県、2019年3月2日

■ 医療技術部

■ 薬剤室

□ 学会・研究会

1. ○木村美保子、西内祥子、田島千愛、市川麻美、田所美和、吉岡りえ、市吉真貴子、八木亜紀子、田中照夫、小松めぐみ：「後発医薬品安心使用促進の取り組み～入院患者に対する使用促進と外来患者に対する一般名処方箋の発行～」、第16回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2018年8月19日

2. ○西内祥子¹⁾、田島千愛¹⁾、市川麻美¹⁾、市吉真貴子¹⁾、小松めぐみ¹⁾、田中照夫¹⁾、山本香代²⁾、上村美香²⁾、渡辺真智子²⁾、大原敬子²⁾、野瀬大輔²⁾、豊田邦江²⁾、辻美知子³⁾、古谷英理⁴⁾、南場寛文⁵⁾ (1) 薬剤室、2) 看護部、3) 患者サポート室、4) 医事課、5) 整形外科)：「骨粗鬆症リエゾンサービスチームの活動と薬剤師の関わり」、第57回日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中国四国支部学術大会、鳥取県米子市、2018年11月10日
3. ○西内祥子：「骨粗鬆症リエゾンサービスチームの活動と薬剤師の関わり」、高知県病院薬剤師会11月例会、高知市、2018年11月21日
4. ○小松めぐみ、乾 朱里、木村美保子、西内祥子、田島千愛、市川麻美、田所美和、吉岡りえ、市吉真貴子、八木亜紀子、田中照夫：「電子カルテと連携した持参薬鑑別システムの導入と運用上の評価」、第28回日本医療薬学会学術大会、兵庫県神戸市、2018年11月24日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 田中照夫：「臨床薬理学」非常勤講師、高知県立大学大学院看護学科、高知市、2018年4月～7月（15日間）
2. 田中照夫：「臨床薬理学」非常勤講師、高知学園短期大学看護学科、高知市、2018年10月～2019年1月（15日間）
3. 田中照夫：「医療情報システムと電子カルテ」、第18期医師事務作業補助者コース研修会、日本病院会、高知市、2019年1月26日
4. 小松めぐみ：「薬剤の基礎知識」、第18期医師事務作業補助者コース研修会、日本病院会、高知市、2019年1月27日

□ 座長

1. 田中照夫：「後発医薬品の概況及び促進の課題」、株式会社日本医薬総合研究所 高坂又一郎、高知県後発医薬品安全使用促進講演会、高知市、2019年2月11日

栄誉管理室

□ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 橋本由佳（細木秀美）：「給食の外部委託を経ての直営化を経験して」、日本精神科病院協会雑誌2019 Vol. 38 No. 3、P. 50-55、2019年3月

□ シンポジウム

1. ○橋本由佳：「給食業務～委託を経ての直営化～」、第2回医療事業部中四国リーダー研修会、岡山市、2019年2月3日

□ 学会・研究会

1. ○安岡美佐、安丸あい、橋本由佳、片岡典代、香川直子、篠原雅幸、丸山 博、熊谷千鶴、中村寿宏、西岡達矢：「糖尿病透析予防指導において看護師・管理栄養士同席の指導により食事療養を継続できた一症例」、第61回日本糖尿病学会年次学術集会、日本糖尿病学会、東京都、2018年5月24日
2. ○安岡美佐：「当院における糖尿病透析予防指導の取り組みについて」、第3回糖尿病チーム医療を考える会、高知県糖尿病療養指導士会、高知市、2018年11月30日

□ 講演（講習会を含む）

1. 西内衣舞：「呼吸器疾患と栄養」、呼吸不全の講演と相談会、高知市、2019年3月16日

理学療法室

□ 学会・研究会

1. ○徳弘佑伊、横山美和、山崎隼人、宮崎 和、野口耕造、藤本弘昭：「当院リハビリテーション課職員を対象にした移乗動作に対するアンケート調査～医療安全推進委員の活動より～」、日本マネジメント学会 高知支部会、高知市、2018年8月19日
2. ○徳弘郁絵、岡崎りさ子、橋田寿恵、藤本弘昭、木下美保、川村 立：「当院リハビリテーション課における妊娠期の業務サポートに関するアンケート調査報告」、日本マネジメント学会 高知支部会、高知市、2018年8月19日
3. ○藤本弘昭：「症例報告」、高知県呼吸リハビリテーションセミナー 症例発表会、高知市、2018年10月27日

4. ○柿内聡史、鎌倉宏行、高橋 翔、藤本弘昭：「活動量計使用法に関する調査－測定器の適切な装着部位の検討－」、高知県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 学術発表会、高知市、2018年11月17日
5. ○徳弘郁絵、岡崎りさ子、橋田寿恵、藤本弘昭、木下美保、川村 立：「当院リハビリテーション課における妊娠期の業務サポートに関するアンケート調査報告」、四国理学療法士学会、四国理学療法士協会、高知市、2018年12月2日
6. ○森下将多：「日高村の地域ケア会議におけるアドバイザー経験の報告」、四国理学療法士学会、四国理学療法士協会、高知市、2018年12月2日
7. ○柿内聡史、鎌倉宏行、高橋 翔、藤本弘昭：「活動量計使用法に関する調査－測定器の適切な装着部位の検討－」、全国回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会、千葉県、2019年2月21日～22日
8. ○古田孝臣：「症例発表」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日
9. ○寺内 慎：「症例発表」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日
10. ○安岡孝志郎：「症例発表」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日
11. ○岡本克海：「症例発表」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日
12. ○中澤海斗：「症例発表」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日

□ 講演（講習会を含む）

1. 宮崎 和：「糖尿病セミナー講演 ちょっと運動してみませんか」、細木病院、高知市、2018年6月2日
2. 曾根和弥：「転倒予防に関する講演」、細木病院まことねっと細木、高知市、2019年3月19日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 橋田寿恵：「県西部地域 地域ケア会議アドバイザー」、高知市西部高齢者支援センター、高知市、2018年4月1日～2019年3月31日（6日間）
2. 山本純也：「地域包括ケア 管理者ネットワーク」、高知県理学療法士協会、高知市、2018年11月11日
3. 藤本弘昭：「地域包括ケア 管理者ネットワーク」、高知県理学療法士協会、高知市、2018年11月11日
4. 葛岡有功：「ドイツ徒手医学 現職者講習会」、一般社団法人 ドイツ筋骨格医学会、徳島県他、2018年4月1日～2019年3月31日（20日間）
5. 寺岡 優：「オステオパシー高知 講習会」、オステオパシー高知、高知市他、2018年4月1日～2019年3月31日（21日間）
6. 野口耕造：「臨床教育論」、土佐リハビリテーションカレッジ、高知市、2018年9月26日
7. 野口耕造：「ティーチングとコーチング」、高知県理学療法士協会、高知市、2018年7月22日

□ 座長

1. ○鎌倉宏行：「座長（神経系セッション）」、高知県理学療法士協会 新人発表会、高知市、2019年3月19日

作業療法室

□ 学会・研究会

1. ○玉好 杏：「症例検討」、高知県発達OT勉強会 症例検討会、高知市、2018年11月15日
2. ○中澤真佑：「MTDLPを通して在宅生活に対する具体的なイメージを持つことができた症例」、高知県作業療法士会 生活行為向上マネジメント事例検討会、高知市、2019年1月18日
3. ○氏原玲子：「身体認識の向上が移乗動作の介助量軽減へと繋がった症例」、高知県作業療法士会 第48回現職者共通研修会、高知市、2019年1月19日
4. ○横山美咲：「中等度知的障害、協調運動障害を呈した女兒に対する作業療法訓練の1例」、高知県作業療法士会 第48回現職者共通研修会、高知市、2019年1月19日
5. ○木下美保：「全身熱傷後、日常生活動作の改善により自宅復帰できた症例」、高知県作業療法士会 第48回現職者共通研修会、高知市、2019年1月19日

□ 講演（講習会を含む）

1. 青木美亜：「回復期でのMTDLPの進め方」、高知県作業療法士会、高知市、2018年7月7日

言語療法室

□ 誌上発表（論文・著作・寄稿）

1. 川村 立、森下浩充、山崎裕司：「認知症患者のBPSDに対する応用行動分析的介入」、行動リハビリテーション 第8巻 P.16-18、2019年3月

□ 学会・研究会

1. ○楠瀬さやか、鈴木 優、岡崎可奈子、矢野友子、横山美咲：「当院小児外来リハにおける待ち時間を減らす取り組み」、第16回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、日本医療マネジメント学会高知県支部会、高知市、2018年8月19日
2. ○藤田隆良、成瀬信夫、楠瀬さやか、楯 敬藏：「より質の高い摂食嚥下機能評価を目指した取り組み～耳鼻咽喉科医との連携によるVE/VF検査後におけるアフターフォロー回診～」、第23回高知県言語聴覚学会、高知県言語聴覚士会、高知県幡多郡黒潮町、2019年1月27日

□ 講演（講習会を含む）

1. 川村 立：「大人と子供を笑顔にする法則」、第17回高知福祉機器展バリアフリーフェスティバル2018キッズバリアフリーブース、高知市、2018年6月29日
2. 川村 立：「TOKOTON座談会」、高知言語教育ABA研究会、高知市、2018年7月8日
3. 川村 立：「イクメン世代の父親の役割」、高知言語教育ABA研究会、高知市、2018年11月23日
4. 川村 立：「子供の中心が母親であることの意味」、高知言語教育ABA研究会、高知市、2018年11月23日
5. 川村 立：「子供の中心が母親であることの意味」、高知言語教育ABA研究会、高知市、2019年1月27日

事務部**情報システム管理課**

□ シンポジウム

1. ○門田美紀：「当院におけるキャリアパスへの取り組み」、人材育成を成功に導くセミナー ～医師事務作業補助者（臨床支援士）のキャリアパスを中心に～、日本医師事務作業補助研究会、神戸市、2018年8月4日

□ 学会・研究会

1. ○廣内朱美：「当院における医療秘書業務について～整形外科外来を中心に～」、第5回高知地方会、日本医師事務作業補助研究会、高知市、2018年8月18日
2. ○門田美紀：「高知県支部活動報告」、第6回高知地方会、日本医師事務作業補助研究会、高知市、2018年12月8日

□ 座 長

1. 門田美紀：「患者中心の医療を目指して～医師事務作業補助の成長と発展～」、成長（教育・人材育成・スキルアップ）、独立行政法人国立病院機構大阪南医療センター 山岸暢子他、日本医師事務作業補助研究会第8回全国大会、広島市、2018年9月15日

ほそぎ連携センター**患者サポート室**

□ シンポジウム

1. 原 碧：「在宅介護の限界～患者・家族の思いと実情～」、第38回北部地域医療カンファレンス、高知市、2018年7月21日

□ 学会・研究会

1. ○辻美知子：「緩和ケア通院・入院相談窓口におけるMSWの役割」、第17回緩和ケア協会研究発表会、NPO法人高知緩和ケア協会、高知市、2018年5月20日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 稲田とし子：「高知県医師会看護専門学校 県民いきいき講座 体験入門講座」講師、高知県医師会看護専

門学校、高知市、2018年7月17日

2. 辻美知子：「第36回いぶき会中央研修」講師、高知県いぶき会、高知市、2018年4月15日

■ 在宅部

□ シンポジウム

1. 廣井三紀：「四国の高齢者の生活と防災を考える」、第38回四国老人福祉学会、松山市、2019年2月2日

□ 講義（講師、院外研修指導者含む）

1. 井上加奈子：「在宅看護方法論Ⅱ（在宅看護技術）」、非常勤講師、国立行政法人高知病院附属看護学校、高知市、2018年5月11日～7月20日（7日間）

2. 井上加奈子：「居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）更新／再研修 ケアマネジメントの展開～内臓の機能不全に関する事例～」、非常勤講師、社会福祉法人高知県社会福祉協議会、高知市、2018年12月8日

3. 井上加奈子：「高次脳機能障害をもつ在宅療養者への自立支援のケア」、特別講義、高知県立大学看護学研究科、高知市、2019年1月26日

4. 井上加奈子：「居宅介護支援専門員（ケアマネジャー）実務研修 ケアマネジメントの展開～内臓の機能不全に関する事例～」、非常勤講師、社会福祉法人高知県社会福祉協議会、高知市、2019年3月24日

■ デイサービス赤とんぼ

□ 学会・研究会

1. 平田暁人：「私はちゃんとできるのよ」、第14回認知症のマネジメント講習会－医療と介護・リハビリテーション－、高知市、2018年9月1日

■ 高齢者支援センター城西出張所

□ 学会・研究会

1. 西本かがり：「地域住民の現状と病院・支援センター出張所との関わり」、第16回日本医療マネジメント学会高知県支部学術集会、高知市、2018年8月20日

□ 講演（講習会を含む）

1. 西本かがり：「いきいき健口講座」、新屋敷サロン、高知市、2018年6月22日

2. 西本かがり：「地域の現状と出張所の関わり」、認知症家族の会、高知市、2018年8月25日

3. 西本かがり：「口腔ケアの方法」、認知症家族の会、高知市、2018年11月24日

4. 西本かがり：「生活習慣病と歯周病」、サービス付き高齢者向け住宅イチゴいちえ、高知市、2018年12月11日

5. 西本かがり：「生活習慣病と歯周病」、高知銀行、高知市、2019年1月17日

6. 西本かがり：「認知症について」、宅老所しばてんハウス、高知市、2019年3月22日

依頼元名	延べ人数
診療部(内科)	
高知大学医学部6年生(実習学生)	12
高知大学医学部5年生(実習学生)	21
(小児科)	
高知大学医学部6年生(実習学生)	3
高知大学医学部5年生(実習学生)	6
近森病院(初期研修医)	1
(整形外科)	
高知大学医学部附属病院(初期研修医)	1
合計	44
看護部	
高知中央高等学校 看護学科専攻科課程(1年生)	140
高知学園短期大学 看護学科(3年生)	345
高知学園短期大学 看護学科(2年生)	617
穴吹医療大学校 看護学科通信課程(1年生)	8
穴吹医療大学校 看護学科通信課程(2年生)	24
高知県医師会看護専門学校(2年生)	348
高知県医師会看護専門学校(1年生)	84
近森病院附属看護学校(2年生)	66
高知開成専門学校 看護学科(2年生)	48
合計	1,680
医療技術部(薬剤室)	
徳島文理大学 薬学部(5回生)	4
(臨床検査室)	
高知大学医学部(6年生)	5
高知大学医学部(5年生)	20
高知学園短期大学医療検査専攻科(2年次生)	3
(栄養管理室)	
高知学園短期大学 生活科学科(2回生)	6
美作大学 生活科学部食物学科(3年生)	2
(リハビリテーション課 理学療法室)	
徳島文理大学 保健福祉学部理学療法学科(4回生)	1
徳島文理大学 保健福祉学部理学療法学科(3回生)	1
岡山医療技術専門学校 理学療法学科(3回生)	1
吉備国際大学 保健医療福祉学部理学療法学科(4回生)	1
高知医療学院 理学療法学科(3回生)	1
高知医療学院 理学療法学科(2回生)	1
高知医療学院 理学療法学科(1回生)	1
人間総合科学大学 保健医療学部リハビリテーション学科理学療法専攻(4回生)	1
川崎医療福祉大学 医療技術学部リハビリテーション学科理学療法専攻(4回生)	1
徳島健祥会福祉専門学校 理学療法学科(3回生)	1
高知リハビリテーション学院 理学療法学科(4回生)	1
高知リハビリテーション学院 理学療法学科(3回生)	2
高知リハビリテーション学院 理学療法学科(2回生)	2
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科(3回生)	1

依頼元名	延べ人数
医療技術部(リハビリテーション課 理学療法室)	
土佐リハビリテーションカレッジ 理学療法学科(2回生)	2
富士リハビリテーション専門学校 理学療法学科(3回生)	1
合計	59
ほそぎ連携センター	
高知県医師会看護専門学校(3回生)	24
(患者サポート室)	
高知県立大学 社会福祉学科(3回生)	2
高知県立大学 社会福祉学科(2回生)	1
合計	27
在宅部(ケアサポートセンターほそぎ)	
社会福祉法人高知県社会福祉協議会・介護支援専門員実務研修	3
(訪問看護ステーションほそぎ)	
訪問看護ステーションいろは	4
(ホームヘルパーステーション城西)	
高知福祉専門学校	1
平成福祉専門学校	2
(老人デイケアゆうゆう)	
高知学園短期大学 看護学科(3年生)	4
(デイサービス赤とんぼ)	
高知学園短期大学 看護学科	12
(デイサービスさくらんぼ)	
高知学園短期大学 看護学科	16
高知中央高等学校 看護学科専攻科課程	39
(グループホーム赤とんぼ)	
龍馬看護ふくし専門学校(2年生)	18
(グループホームさくらんぼ)	
高知大学 医学部看護学科(3回生)	92
高知中央高等学校 看護学科(2年生)	33
(グループホーム ハッピー万々)	
龍馬看護ふくし専門学校 看護学科(2年生)	6
合計	230
細木病院総計	2,040

細木病院

細木ユニティ病院

三愛病院
あつらん高院知

日高クリニック

本部

アドレス・高知

福寿園

積善会

